

平成28年度

大学院生による授業評価結果報告書  
(後期分)

鳴門教育大学 大学院学校教育研究科

頁数	科目区分	科目コード	科目名	担当教員名
5	広領域科目	30040000	数学と芸術、そして科学間の接点を探る	佐伯 昭彦, 胸組 虎胤, 金児 正史, 齋藤 大輔
6	広領域科目	30041100	伝統文化（音楽・美術）における表現の思想	栗原 慶, 遠藤 綾子
7	広領域科目	30042100	子どもの規範意識の現状と課題	曾根 直人, 楠 茂宣
8	広領域科目	30046000	教師のための声とからだのことば	頃安 利秀, 余郷 裕次, 綿引 勝美
9	広領域科目	30047000	学校危機管理研究	阪根 健二, 竹内 和雄
10	人間形成	30049000	予防教育科学	内田 香奈子
11	人間形成	30114000	教育哲学演習	木内 陽一
12	人間形成	30115000	教育認知心理学演習	皆川 直凡
13	人間形成	30117000	発達健康心理学演習	山崎 勝之
14	人間形成	30120000	比較教育社会学研究	山本 晃輔
15	臨床心理士養成	30427000	臨床心理学演習	今田 雄三, 葛西 真記子, 吉井 健治, 中津 郁子, 小倉 正義, 久米 禎子, 粟飯原 良造
16	臨床心理士養成	30434000	臨床心理査定演習Ⅱ	葛西 真記子, 今田 雄三
17	臨床心理士養成	30443000	心理療法研究	古川 洋和
18	臨床心理士養成	30445000	臨床心理面接研究Ⅰ	中津 郁子
19	臨床心理士養成	30447000	学校精神保健学演習	今田 雄三
20	臨床心理士養成	30451000	臨床心理学統計法	古川 洋和
21	幼年発達支援	30514000	幼年期福祉演習	木村 直子
22	幼年発達支援	30519000	幼年発達心理演習	田村 隆宏
23	現代教育課題総合	30631200	現代総合学習論	谷村 千絵
24	現代教育課題総合	30634000	現代教育人間論	太田 直也, 谷村 千絵, 近森 憲助, 田村 和之
25	現代教育課題総合	30644200	人間とコミュニケーションⅠ（基礎研究）	谷村 千絵, 金野 誠志
26	現代教育課題総合	30645200	人間とコミュニケーションⅡ（実践研究A）	金野 誠志
27	現代教育課題総合	30648200	人間と環境Ⅰ（基礎研究）	田村 和之
28	現代教育課題総合	30650200	人間と環境Ⅲ（実践研究B）	田村 和之, 近森 憲助
29	現代教育課題総合	30657100	現代教育課題特論	小西 正雄
30	特別支援教育	31151000	特別支援教育コーディネーター実践論	井上 とも子
31	特別支援教育	31152000	社会資源開発運用・連携論	井上 とも子

頁数	科目区分	科目コード	科目名	担当教員名
32	特別支援教育	31162000	特別支援教育課程特論演習	高橋 眞琴
33	特別支援教育	31163000	特別支援教育指導特論演習	大谷 博俊
34	特別支援教育	31165000	特別支援教育臨床支援技法演習	高原 光恵
35	特別支援教育	31170000	発達障害児神経学演習	田中 淳一
36	言語系	32139000	日本事情・日本文化	田中 大輝
37	言語系	32142000	日本語Ⅲ	田中 大輝
38	言語系	32143000	日本語Ⅳ	妹尾 春子
39	言語系	32145000	日本古典語演習	原 卓志
40	言語系	32160000	日本語文法演習	田中 大輝
41	言語系	32162000	日本語語彙論	田中 大輝
42	言語系	32176000	国語科授業演習	幾田 伸司
43	言語系	32180000	国語科教材開発演習	余郷 裕次
44	言語系	32217000	英米文化研究Ⅲ（言語文化研究）	宮崎 隆義
45	言語系	32221000	学習英文法演習Ⅰ	眞野 美穂
46	言語系	32222000	学習英文法演習Ⅱ	藪下 克彦
47	言語系	32229000	アカデミック・ライティングⅠ	吉川 エリザベス
48	言語系	32232000	小学校英語内容構成論	畑江 美佳
49	言語系	32285000	初等中等英語科教育演習Ⅰ	石濱 博之
50	言語系	32286000	初等中等英語科教育演習Ⅱ	山森 直人
51	言語系	32293000	教科内容構成（英語科）	藪下 克彦,前田 一平,眞野 美穂
52	社会系	33158100	歴史学研究Ⅰ	川岡 勉
53	社会系	33158200	歴史学演習Ⅰ	長谷川 賢二
54	社会系	33158400	歴史学演習Ⅱ	町田 哲
55	社会系	33159400	法学・政治学演習	麻生 多聞
56	社会系	33177000	現代の諸課題と社会認識教育	井上 奈穂
57	社会系	33178000	社会科教材開発演習Ⅰ（地理領域）	伊藤 直之
58	社会系	33179000	社会科教材開発演習Ⅱ（歴史領域）	梅津 正美

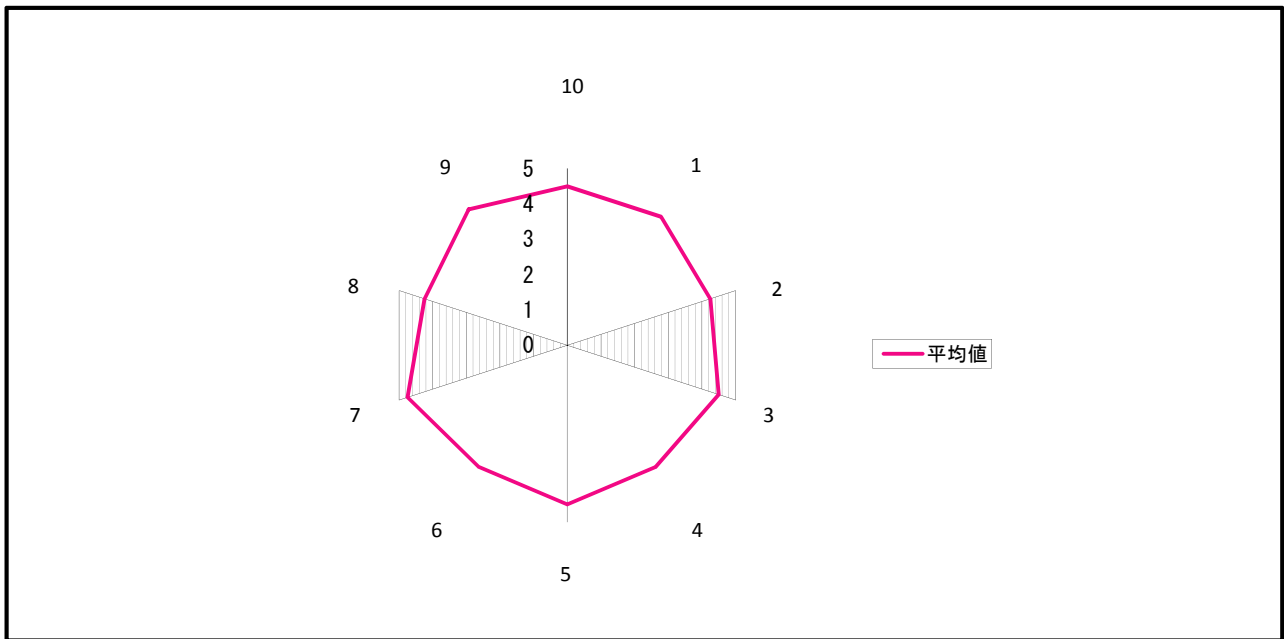
頁数	科目区分	科目コード	科目名	担当教員名
59	自然系	34126000	代数学演習	平野 康之
60	自然系	34127000	幾何学研究	松岡 隆
61	自然系	34128000	幾何学演習	松岡 隆
62	自然系	34129000	解析学研究	成川 公昭
63	自然系	34130000	解析学演習	成川 公昭
64	自然系	34173000	数学科教育学演習	秋田 美代
65	自然系	34174000	数学科授業研究	秋田 美代
66	自然系	34176000	数学科教材開発演習	佐伯 昭彦
67	自然系	34214100	物理学特論Ⅲ	粟田 高明
68	自然系	34224100	生物科学特論Ⅰ	米澤 義彦
69	自然系	34232000	地学実験法特論	小澤 大成,村田 守,香西 武,足立 奈津子
70	自然系	34273000	理科教材開発研究Ⅰ(物質とエネルギー)	寺島 幸生
71	芸術系	35114000	歌唱表現演習	頃安 利秀
72	芸術系	35127000	室内楽(器楽)	森 正,山根 秀憲
73	芸術系	35132000	作曲法基礎演習	松岡 貴史
74	芸術系	35176000	声楽アンサンブル	真鍋 美恵
75	芸術系	35193000	教科内容構成(音楽科)	長島 真人,頃安 利秀,小山 英恵, 森 正,山田 啓明,山根 秀憲,松岡 貴史
76	芸術系	35212000	油画制作演習	鈴木 久人
77	芸術系	35214000	版画制作演習	鈴木 良治
78	芸術系	35215000	彫刻制作研究	野崎 窮
79	芸術系	35218000	デザイン制作研究	内藤 隆
80	芸術系	35220000	映像デザイン演習	内藤 隆
81	芸術系	35221000	工芸制作研究	栗原 慶
82	芸術系	35272000	美術科教育学研究	山田 芳明
83	生活・健康系	36118000	学校体育経営演習	藤田 雅文
84	生活・健康系	36212100	情報技術演習	菊地 章

頁数	科目区分	科目コード	科目名	担当教員名
85	生活・健康系	36225000	画像情報処理研究	伊藤 陽介
86	生活・健康系	36228000	デジタル制御研究	菊地 章
87	生活・健康系	36229000	情報応用演習	曾根 直人
88	生活・健康系	36230000	コンピュータ科学演習	宮本 賢治
89	生活・健康系	36278000	教育と情報活用	益子 典文
90	生活・健康系	36312000	家族・ジェンダー論演習	黒川 衣代
91	生活・健康系	36314000	生活経営学演習	坂本 有芳
92	生活・健康系	36316000	衣生活学演習	福井 典代
93	生活・健康系	36372000	家庭科教育学演習	速水 多佳子
94	生活・健康系	36376000	家庭科授業・教材開発研究	坂本 有芳, 福井 典代, 松永 哲郎
95	国際教育	37131000	国際教育演習 I	石村 雅雄, 近森 憲助, 小澤 大成, 石坂 広樹
96	国際教育	37132000	国際教育演習 II	石坂 広樹, 石村 雅雄, 近森 憲助, 小澤 大成
97	国際教育	37135000	国際教育協力特論 II	小澤 大成, 近森 憲助
98	国際教育	37139000	外国語運用能力強化演習 II	石村 雅雄, 石坂 広樹
99	国際教育	37182000	国際理解教育特論 II	小澤 大成, 近森 憲助
100	国際教育	37183000	国際理解教育演習	小澤 大成, 近森 憲助
101	国際教育	37185000	国際教育総合セミナー II	石村 雅雄, 近森 憲助, 小澤 大成, 石坂 広樹

# 結果報告書

授業科目名 数学と芸術、そして科学間の接点を探る  
 評価実施日 平成29年1月27日  
 担当教員名 佐伯 昭彦, 胸組 虎胤, 金児 正史, 齋藤 大輔      回答者数 4 人

質問項目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2	2					4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1	3					4.3
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	2					4.5
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	1	3					4.3
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2	2					4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1	3					4.3
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	3	1					4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1	3					4.3
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	1					4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2	2					4.5



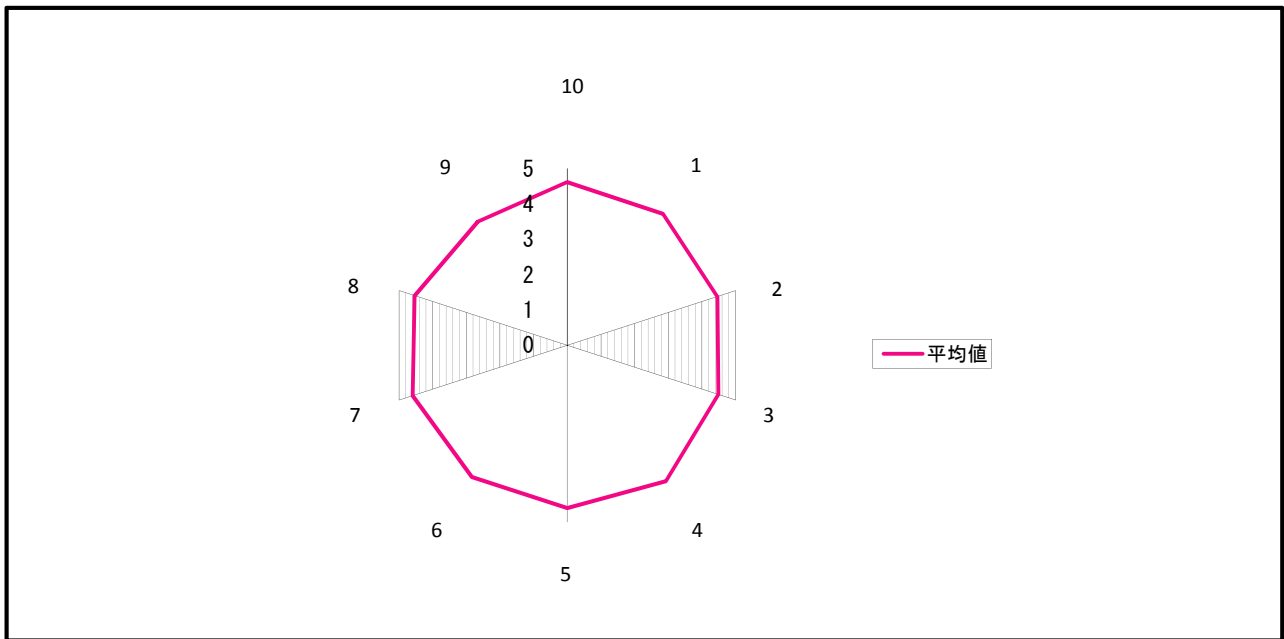
## 教員のコメント

アンケート回答者4名という少ない人数ではあったが、全ての質問項目が4点台の評価で、総合評価は4.5であった。本授業は、芸術を通して数学や科学を眺めたり、数学や科学を通して芸術を眺めたりすることを通して、数学、芸術、そして科学間の接点を探り、教科領域を超えた幅広い知識を基にした教材開発と思考方法を高め、他者により良く伝えるサイエンス・コミュニケーターとしての力量を高めることを目的とした。授業の大半が学生の主体的活動を取り入れたアクティブ・ラーニングであったため、質問項目(9)が一番高い評価「4.8」を得ることができ、自由記述においても学生達が主体的・積極的に取り組んだ記述が見受けられる。また、質問項目(7)も一番高い評価「4.8」を得ることができた。これは、担当した教員がそれぞれ独自の授業用資料を作成したのみならず、支援して頂いた徳島県立近代美術館からも貴重な資料を豊富に提供して頂いたからである。学生の自由記述には、本授業から得られた成果を高く評価する記述が多く、中には「教科横断型の授業実践ができたので、将来に役立つ内容であった」と記述した学生もいる。さらに、学生達が徳島県立近代美術館で説明した内容は、来場者のアンケートから推測すると非常に高かったことが明らかであった。以上のことから、本授業は学生達の教材開発や指導法の質向上に繋がった内容であり、本授業の目標は達成できたと考える。

# 結果報告書

授業科目名 伝統文化(音楽・美術)における表現の思想  
 評価実施日 平成29年2月14日  
 担当教員名 栗原 慶・遠藤 綾子      回答者数 35 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	24	8	3				4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	20	11	4				4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	21	10	4				4.5
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	27	7	1				4.7
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	24	8	3				4.6
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	25	6	4				4.6
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	25	6	4				4.6
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	22	10	3				4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	17	12	6				4.3
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	23	9	2				4.6



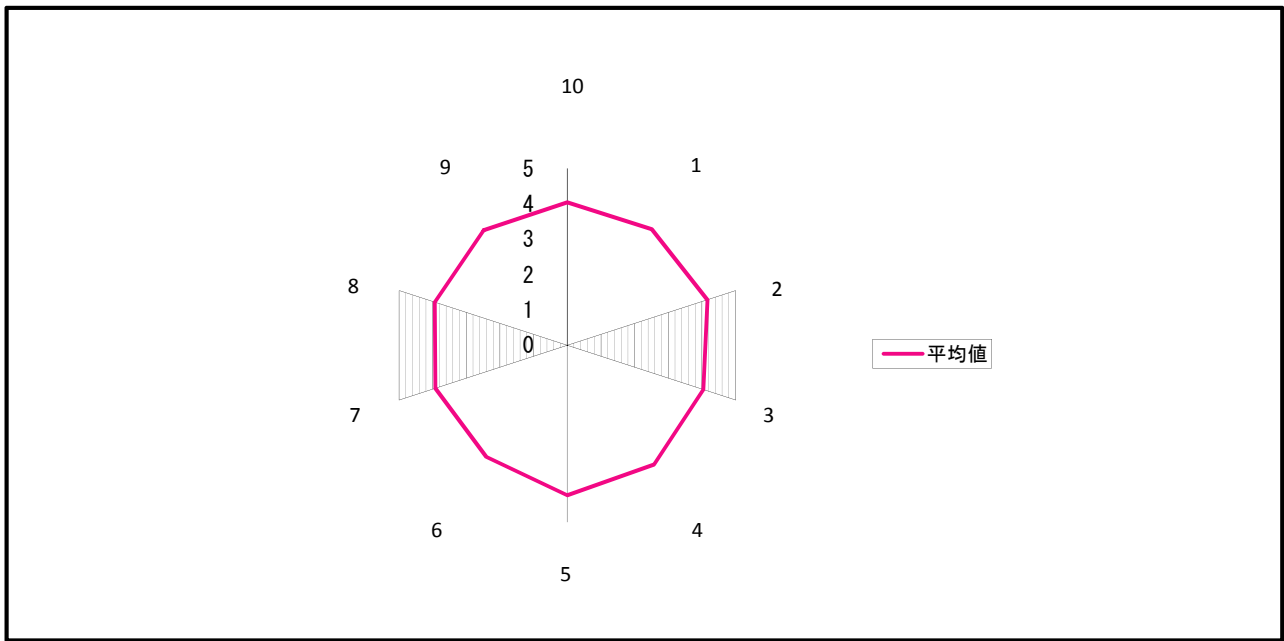
## 教員のコメント

回答者36人の総合評価が4.6で、これは昨年の評価4.9より下がってしまった。昨年より内容も精査し、授業構成や運営にも支障が少なくなってきたこともあって、評価が下がった原因の明示が難しい。推測だが、美術分野に関しては提出物が多くなっていることや、専門的な教養として捉えられすぎたことがあるのかもしれない。受講学生のカラーによってもこのあたりは左右するので一概に判断することは避けたいのだが、実際に手がけた制作物の評価基準や授業実践にどう役立っていくのかをより明確に示すことも必要かもしれない。また、まじめに取り組む学生から、私語をする一部の学生についての指摘がアンケートの記載にあった。実技演習中やグループ発表の際には、授業内容に不必要な雑談が生じてしまいがちで、美術分野に関してはこの時の指導が行き届かなかったのかもしれない。学生個々の取り組み姿勢や状況に関わらず、緊張感をかかさず指導を心掛け改善していきたい。当年度は音楽、美術分野の各授業最終日に、教員が互いに同席できたことで教員自身の省察になった点は良かったと思う。

# 結果報告書

授業科目名 子どもの規範意識の現状と課題  
 評価実施日 平成29年2月8日  
 担当教員名 曾根 直人, 楠 茂宣      回答者数 50 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	19	17	12	2		4.1
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	21	18	10		1	4.2
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	18	18	13		1	4.0
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	19	20	11			4.2
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	20	22	8			4.2
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	18	13	16	2	1	3.9
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	16	17	14	3		3.9
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	18	15	14	2	1	3.9
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	16	20	13	1		4.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	19	15	13	2		4.0



## 教員のコメント

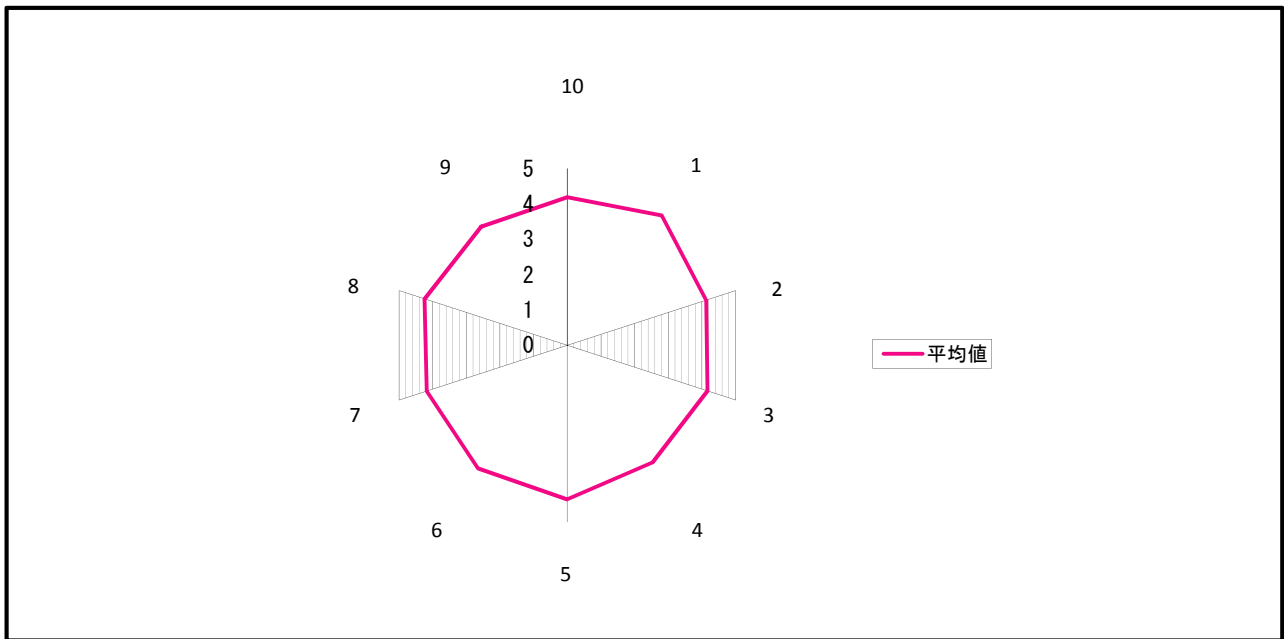
前半の絵本を中心とした授業に関しては、ディスカッションなどをしながら規範意識について考えたことが高く評価されていた。後半の情報技術に関する授業では、規範意識との結び付きを十分に伝えることができず評価が低くなった。情報技術の利用は、世代により利用するアプリケーションが異なり、使っていない技術に対する想像が難しいことが理解を妨げていると考えられる。またディスカッションを行なったことに対する評価が高くなっているが、内容を充実させるためには反転授業の導入なども検討する必要がある。スライド資料を配って欲しいという要望もあるが、人数のことを考えるとオンラインでの配布が望ましい。しかしライブキャンパスでは、添付できるファイルの上限が厳しく、配布できないため上限の見直しを検討していただきたい。



# 結果報告書

授業科目名 教師のための声とからだことば  
 評価実施日 平成29年2月7日  
 担当教員名 頃安 利秀,余郷 裕次,綿引 勝美 回答者数 54 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	31	21	2			4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	23	19	9	2	1	4.1
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	23	21	7	2	1	4.2
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	21	21	9	2	1	4.1
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	26	22	5	1		4.4
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	28	15	10	1		4.3
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	22	24	5	2	1	4.2
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	25	20	5	2	1	4.2
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	19	27	6	1	1	4.1
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	21	22	7	2		4.2



## 教員のコメント

この授業は国語、音楽、体育と異なるコースに所属する3人の教員によって行われるものである。そして授業名にあるように、「声」と「からだ」と「ことば」に視点を置いた教師としての授業力の向上を目指しており、授業の内容は実践的なものとなっている。この授業が知識というよりも教師の声やからだのあり方や使い方について理解し、そのことが自ら実践できるようになり、それを教師としての授業力につなげていくことを目標にしている。

講義を中心とした一般的な授業形式のものではないので、成績評価に関して(4.1)各教員によって異なる部分があることは否めない。しかし授業の進め方については、できるだけ受講生個々に対応しようとしており、いい評価(4.4)がなされていると考える。また授業に関する資料、板書、また視聴覚機器の使用等に関しては、各教員により夫々異なっており、評価が分かれるところでもあるが、授業概要では適切にこの授業の内容を表現(4.5)できていた。総合的な評価(4.2)は、それらの理由から適切な評価と考えられる。

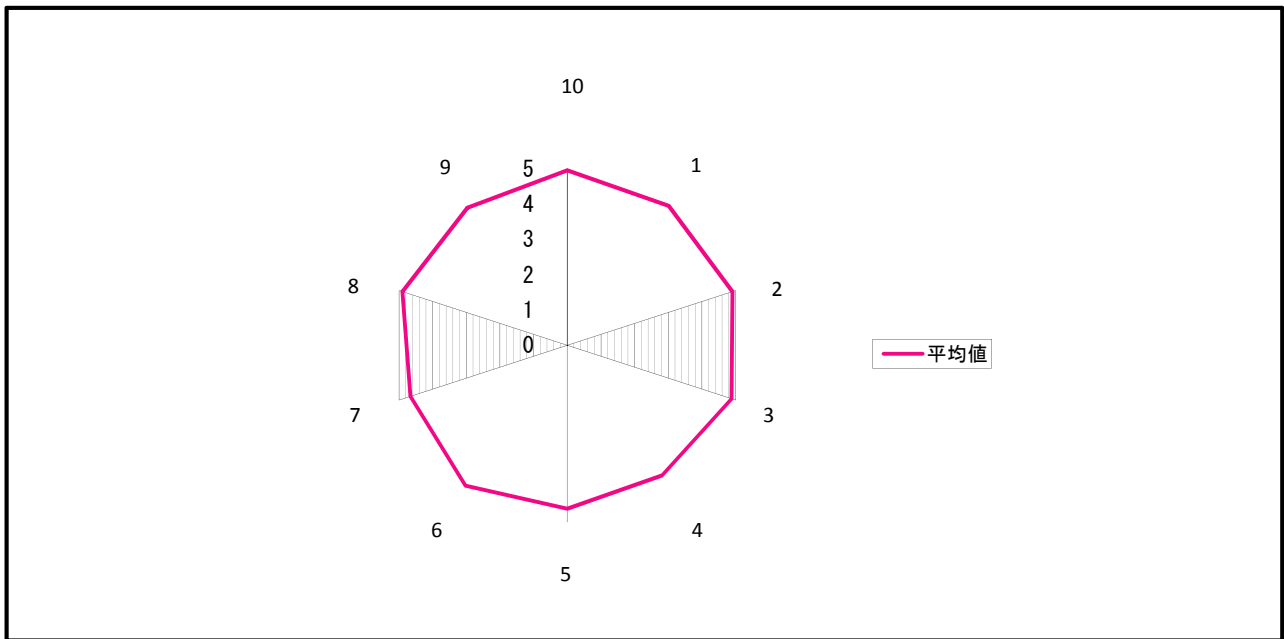
この授業でよかったと思われる点については、「教師の実践力につながることを学ぶことができた。」また「自分の声とからだことばに向き合うことができた。」との記述があり、教師としての実践力をつけるために、身体論に基づく授業内容の必要性が肯定的に評価されていた。

今後も教師としての身体のあり方について、声とからだことばから追究する実践的な授業を心がけていきたい。

# 結果報告書

授業科目名 学校危機管理研究  
 評価実施日 平成29年12月26日  
 担当教員名 阪根 健二, 竹内 和雄      回答者数 42 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	37	5				4.9
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	39	2	1			4.9
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	39	1	2			4.9
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	28	10	3	1		4.5
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	28	12	2			4.6
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	38	4				4.9
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	31	9	1	1		4.7
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	37	4				4.9
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	34	8				4.8
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	40	2				5.0



## 教員のコメント

総じて、高い評価であると読み取れる。特に高い評価が得られたのは、(1)、(2)、(3)、(6)、(8)、(10)の項目であり、いずれも、4.9あるいは5.0であった。これは、授業内容や手法の項目である。高い評価である要因として、非常勤講師である竹内氏の専門性と授業の面白さであり、受講生には好評であった。

シラバスや到達目標などの授業構成においても、これからの生活や今後にかかすという視点であったことがこうした高評価につながったものと思われる。また、受講生自身の授業態度が良好で、授業への満足感や今後への期待と結びついたことも理由であろう。

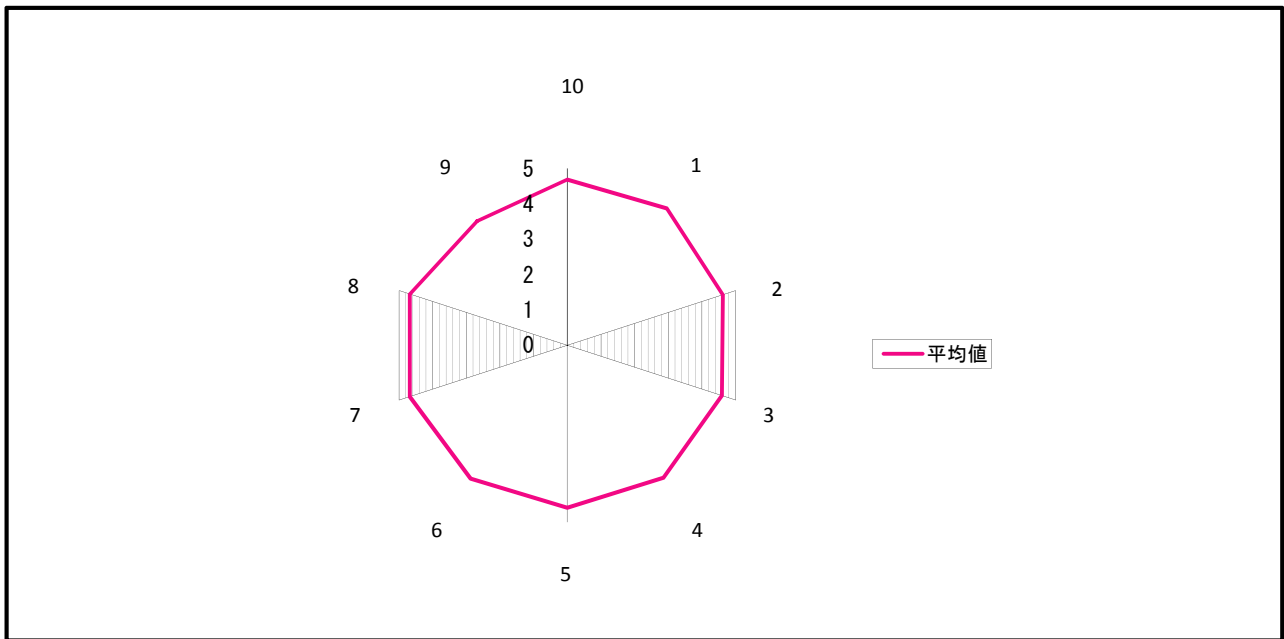
自由記述からは「イメージをもって授業に参加できた。様々な情報も織り交ぜて講義して下さったので、興味をもって聞けた。これからの生活につながる」等、現在の学校現場に照らし合わせ、危機管理が身近な問題であることに気づけたようである。

改善点としては、内容が盛りだくさんのため、幾分消化不良になったことや、資料配布の必要性、評価観点が分かりにくいなどがあげられる。こうした点を改善し、今後一層工夫していきたい。

# 結果報告書

授業科目名 予防教育科学  
 評価実施日 平成29年2月7日  
 担当教員名 内田 香奈子      回答者数 32 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	26	5	1			4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	22	8	2			4.6
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	24	5	2		1	4.6
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	22	8	2			4.6
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	23	6	2	1		4.6
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	24	5	3			4.7
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	24	6	2			4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	23	8	1			4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	16	12	3	1		4.3
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	24	6	2			4.7



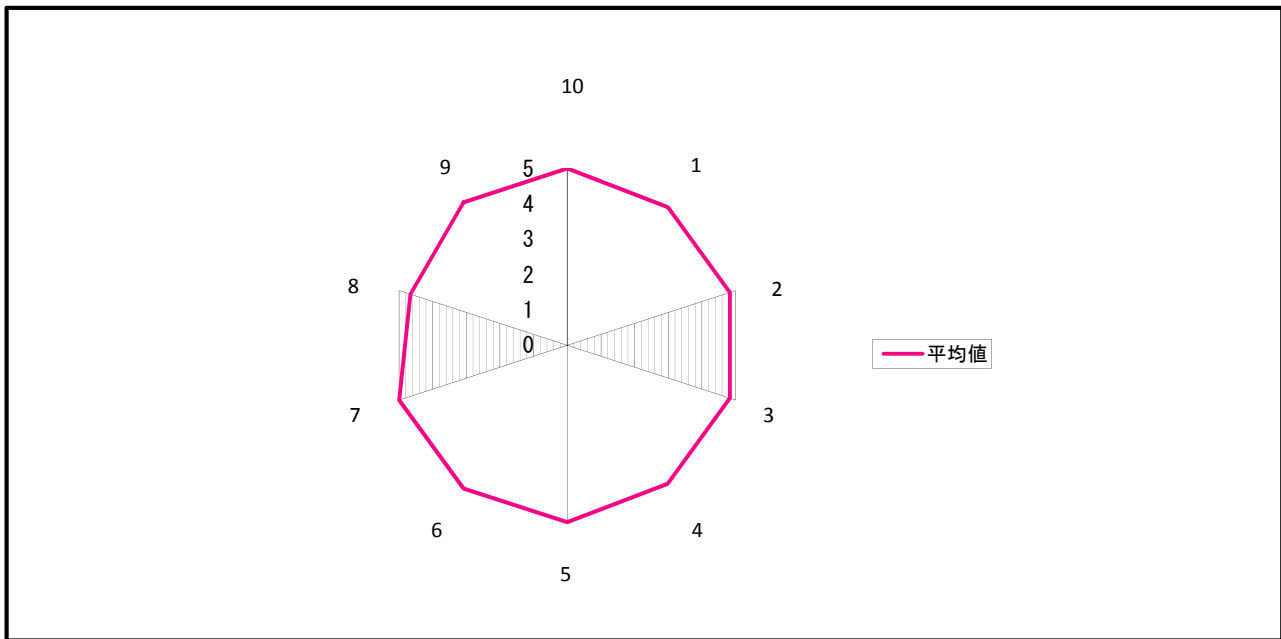
## 教員のコメント

総合評価は今回4.7の評価となり、昨年度よりも高い数値を得ることができた。具体的な改善例としては以下の通りである。昨年度は他に比べ、(4)の授業評価方法の説明に関するポイントが減少していた。そこで、今年度はガイダンスにおいて具体的な説明を行った他、レポート課題提示時などにも随時、説明を行った。その結果、ポイントが上昇した。その他、(3)実践力につながる内容、(5)授業進行の速さ、そして(6)わかりやすい説明などの項目についてポイントが上昇したことは、たとえば授業終了時に記載するコメントシートへの質問を、できるだけ次の時間にフィードバックするなどの方途を用い、学生との交互作用の機会を増やした結果であると推測される。ただし、コメント欄に、実習の時間を減らして専門的な知識を教示する時間を増やして欲しいという意見と、対して実習の多さが座学の理解を助けたという、相対する内容が見られた。本講義は様々なコースの学生が受講しており、各学生のニーズの折衷をくみ取る必要がある。今後はより模索しながら進めたい。

# 結果報告書

授業科目名 教育哲学演習  
 評価実施日 平成29年2月16日  
 担当教員名 木内 陽一      回答者数 6 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	5	1				4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5	1				4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	1				4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	5	1				4.8
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	6					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	6					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	6					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	5		1			4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	6					5.0

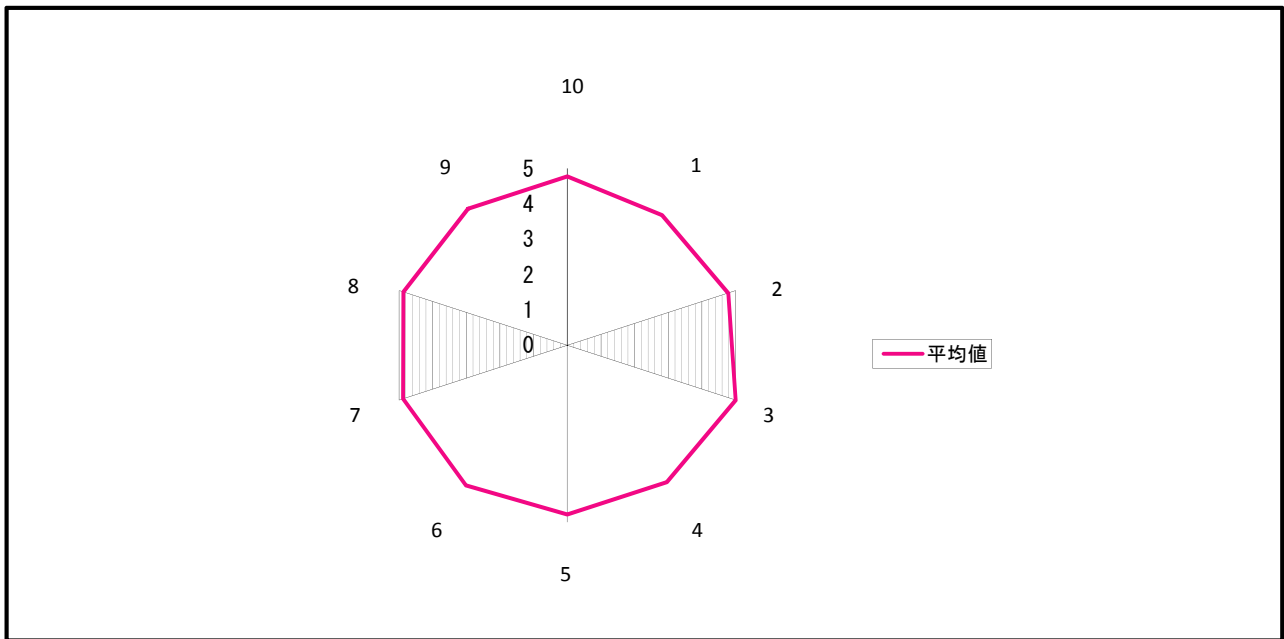


教員のコメント

# 結果報告書

授業科目名 教育認知心理学演習  
 評価実施日 平成29年2月7日  
 担当教員名 皆川 直凡      回答者数 9 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	5	4					4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7	2					4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	9						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	7	2					4.8
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	7	2					4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	8	1					4.9
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	8	1					4.9
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	7	1					4.9
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	2					4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	7	2					4.8



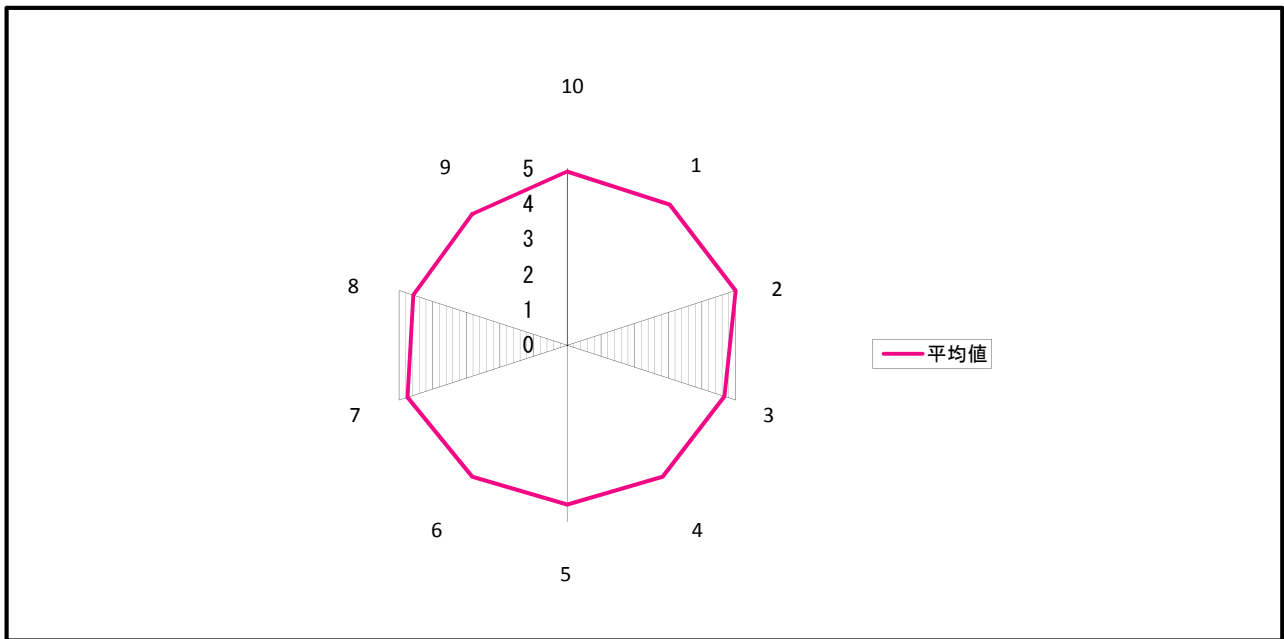
## 教員のコメント

本授業では、ほぼ前回にわたってアクティブ・ラーニング(調べ学習、発表・報告等)を実践した。この進め方が全10項目中9項目において、4.8以上の評価平均値(残りの1項目も4.6)を得ることに結びついたと考えられる。また、「(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。」、「(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。」の2項目も4.8以上(後者は、5.0)であったことから、授業の形式のみならず、内容への評価も高かったと考えられる。現職教員と教職志望者から成る受講生が本授業の内容と形式を教育現場で活用してくれるであろうという期待を抱かせる評価結果である。この結果を出発点として、一層の向上を期したい。

# 結果報告書

授業科目名 発達健康心理学演習  
 評価実施日 平成29年2月14日  
 担当教員名 山崎 勝之      回答者数 12 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	11	1				4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	12					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	9	2	1			4.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	8	3	1			4.6
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	7	4	1			4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	8	3	1			4.6
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	9	3				4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	8	3	1			4.6
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	8	3	1			4.6
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	11	1				4.9



## 教員のコメント

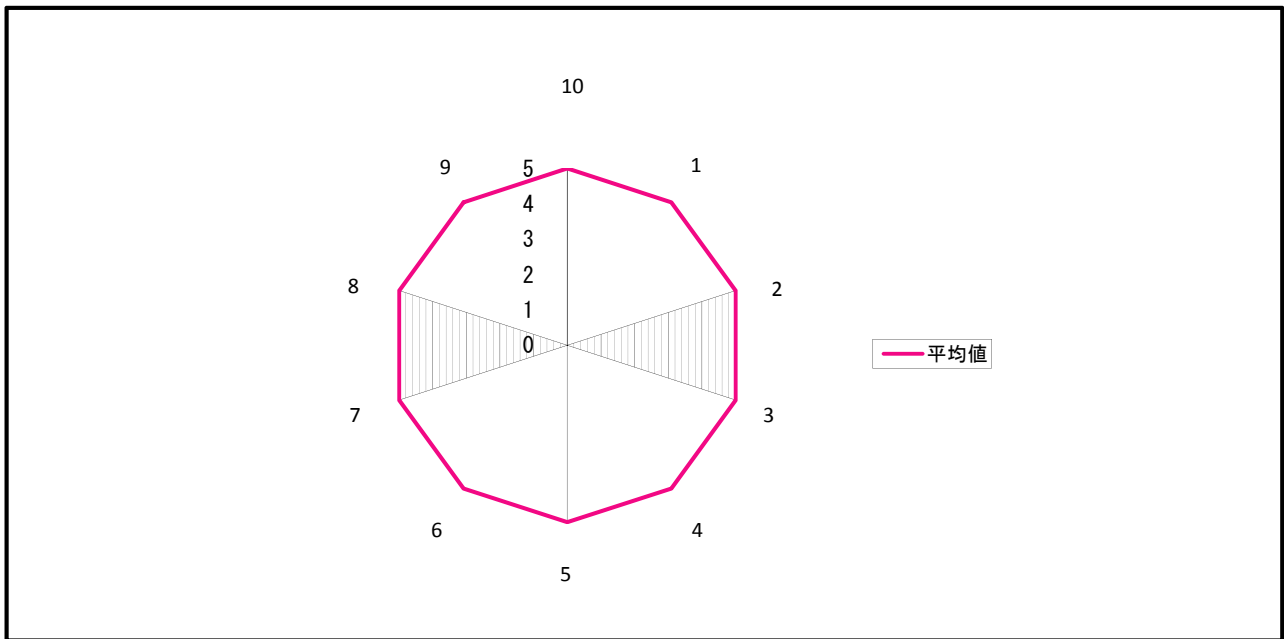
総合評価は4.9であったが、授業の内容と運営では反省点が多い。この授業は演習で、学生には多くの課題のもと、自ら深く、そして独創的に考えた上でのアウトプットを求めた。とりわけ、独創性は重視したことであった。この求めは、きわめて高度な学習になったと思うが、その学習への方法論はさらに高める必要がある。

学生の参加度は高く、誰もがこれ以上ないと言ってもよい授業参加姿勢であり、授業者も授業運営においては随分と参加学生に助けられた。学生のニーズに応え、さらに自然な参加度の高まりを期して、授業は改善し続けたい。

# 結果報告書

授業科目名 比較教育社会学研究  
 評価実施日 平成29年2月1日  
 担当教員名 山本 晃輔      回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	2					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2					5.0



## 教員のコメント

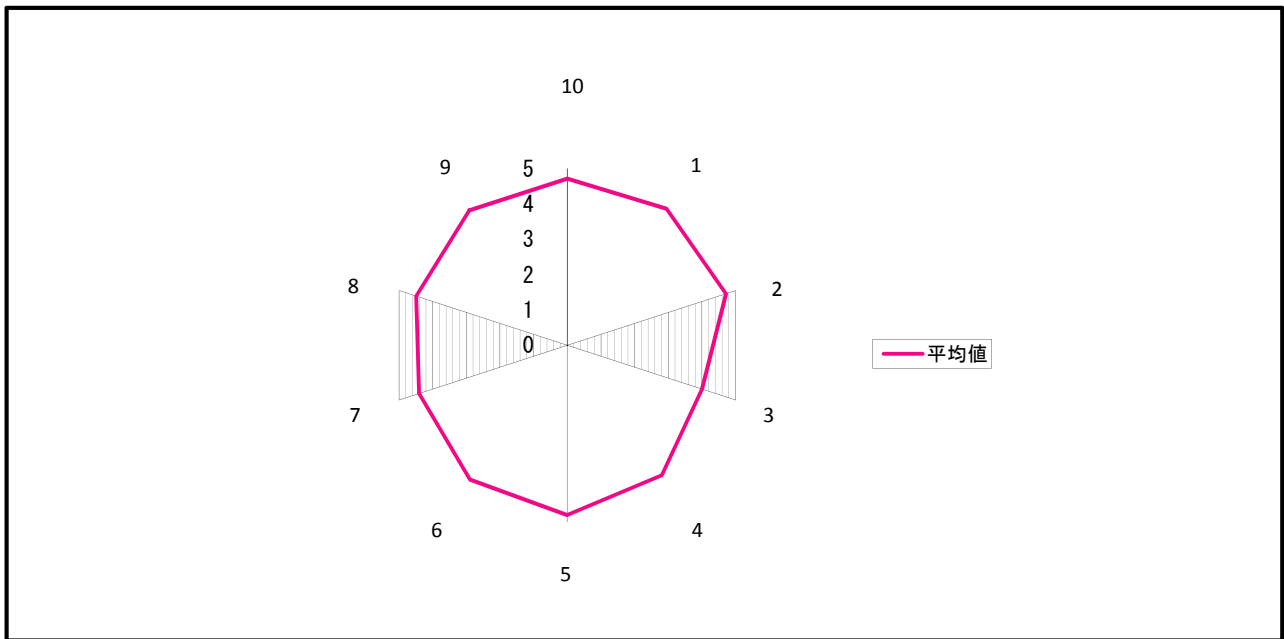
教育関係領域における「教育と社会」の重要性は高まりを見せている。そうしたなかで、教員を目指すみなさんと最前線の論文を共有できたことは非常に有意義な時間であり、担当者もたいへん勉強になりました。授業が不開講となり次年度に行かせないことは残念ですが、今後の指導に役立てたいと考えています。

# 結果報告書

授業科目名 臨床心理学演習  
 評価実施日 平成29年2月16日  
 担当教員名 今田 雄三 葛西 真記子 吉井 健治 中津 郁子 小倉 正義 久米 禎子 栗飯原 良造

回答者数 39 人

質問項目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	31	7	1				4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	29	9	1				4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	14	14	7	2	1		4.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	24	12	3				4.5
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	33	5		1			4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	29	9		1			4.7
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	20	13	3	1			4.4
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	23	12	2	1			4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	31	5	3				4.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	30	8		1			4.7



## 教員のコメント

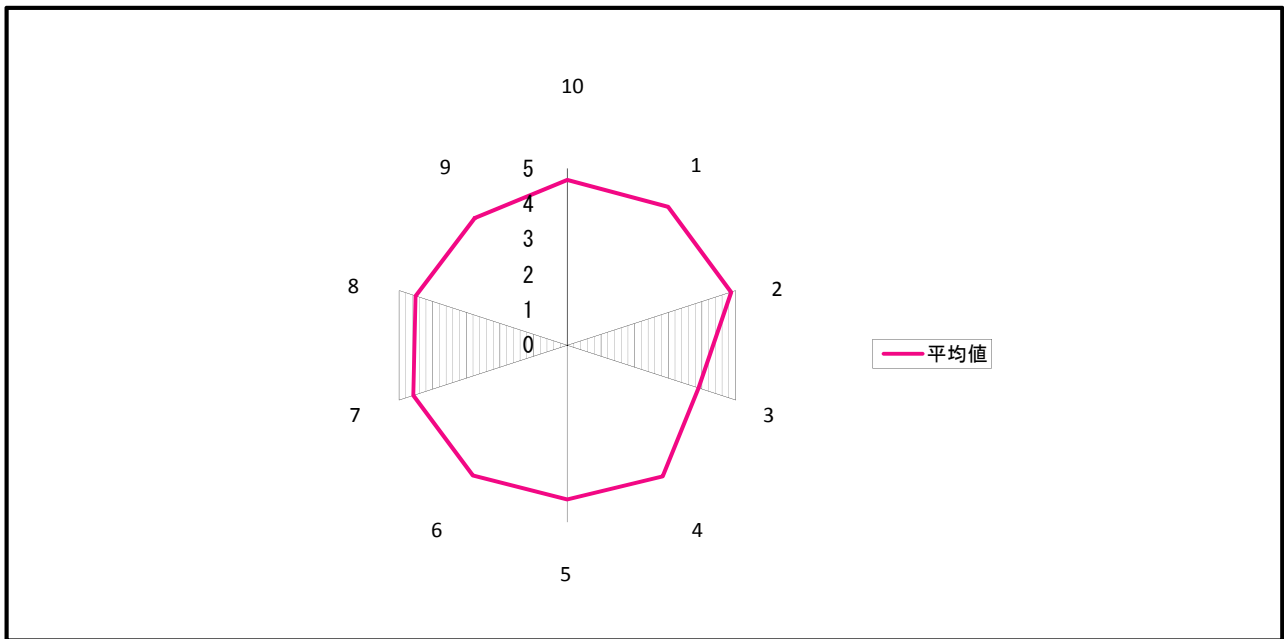
質問10項目中7項目での評価が4.5点以上、特に(10)の「この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。」の評価では4.7点と評価されており、受講生からきわめて高い評価を得られたものと考えます。なお、質問項目(3)の「教師の実践力の育成につながる内容であった。」に関しては、評価の平均点が4.2点であった。これは決して低い評価という訳ではないが、今後とも臨床心理士の実践の場として学校臨床は重要な位置を占めており、本授業で体験的に学んだ内容も学校現場での相談活動、教員との連携における実践力と関連することを明確に伝えるように心がけたい。自由記述では小グループの授業ならではの体験の深まりや、受講生自身が主体的に活動する場になったこと、あるいはケース担当に実践的な内容であった点などが評価されていた。授業に関する不満や改善点については、少数ながら「他のグループの授業内容も気になった」「グループで議論する時間が必要」といった意見があった。今年度はFDの公開授業との関係で一度だが他のグループの授業を見学する機会を設けたが、必ずしも多数の見学者があった訳ではないのが残念であった。グループの議論については、今一度受講生の満足が得られるよう十分な配慮を心がけたい。



# 結果報告書

授業科目名 臨床心理査定演習Ⅱ  
 評価実施日 平成29年2月8日  
 担当教員名 葛西 真記子, 今田 雄三      回答者数 31 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	26	5					4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	27	4					4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	10	9	8	1	1		3.9
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	18	13					4.6
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	16	11	3	1			4.4
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	18	12	1				4.5
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	20	9	2				4.6
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	17	13	1				4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	15	15	1				4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	21	10					4.7



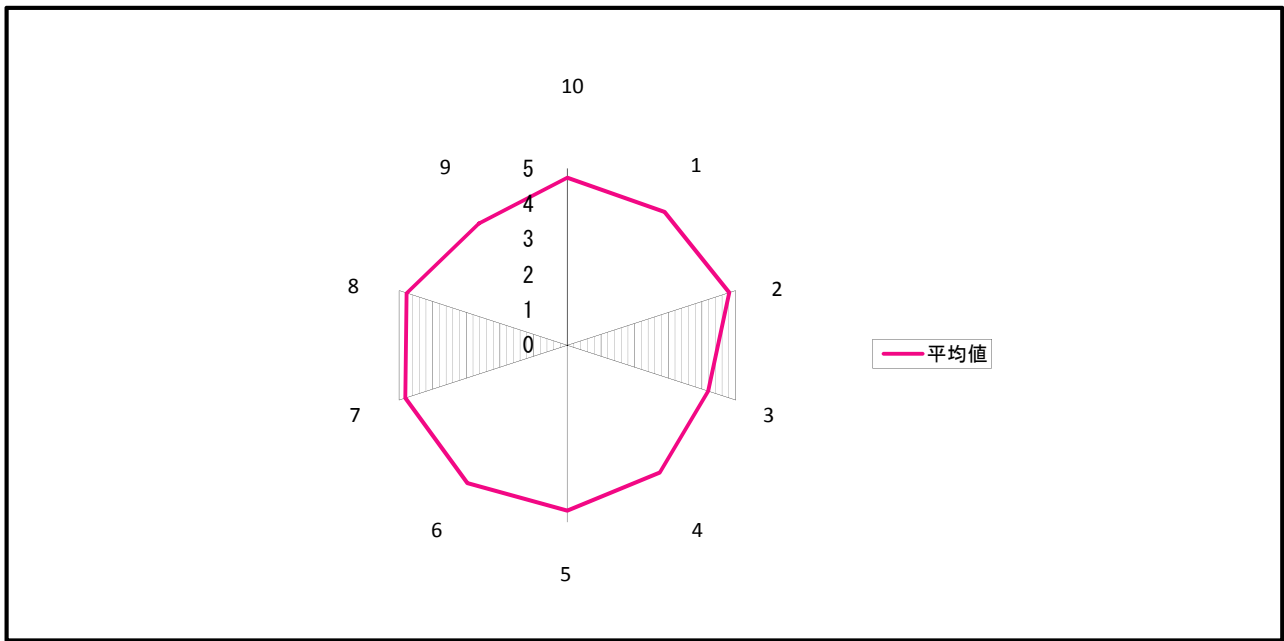
## 教員のコメント

学生の評価が最も高かった項目は、「専門的知識を深めるのに役立つ内容であった」、「授業概要はこの授業を適切に表現していた」の2項目であり、どちらの本講義が臨床心理学分野の中でも専門性が高い投影法についての内容であったからであり、受講生は内容を全体的に「役立った」と感じていたようである。次に高かった項目は「成績の評価の説明は適切であった」、「教科書や配布された資料は適切であった」、「受講生にわかりやすく説明した」、「板書や視聴覚機器の使用は適切であった」の項目であり、具体的な授業の進め方・方法についても高評価であったといえる。それが、受講生の「授業に主体的・積極的に取り組んだ」につながり、授業全体の総合評価が4.7と高くなったと推測できる。改善する点としては、本講義に対して毎年、他の項目より評価の低い項目である「教師の実践力の育成につながる内容であった」であるが、本講義は学校現場ではほとんど使用されないロールシャッハ法という投影法が中心であり、その学校現場での応用等について言及していないからである。この点については、授業の内容を変更するしか改善の方法がないと思われるので、授業の内容の修正を含め、今後、検討することとする。

# 結果報告書

授業科目名 心理療法研究  
 評価実施日 平成29年2月3日  
 担当教員名 古川 洋和      回答者数 27 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	19	7	1			4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	22	5				4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	10	12	5			4.2
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	15	10	1	1		4.4
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	19	7	1			4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	23	3	1			4.8
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	22	5				4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	21	6				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	9	16	2			4.3
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	20	7				4.7



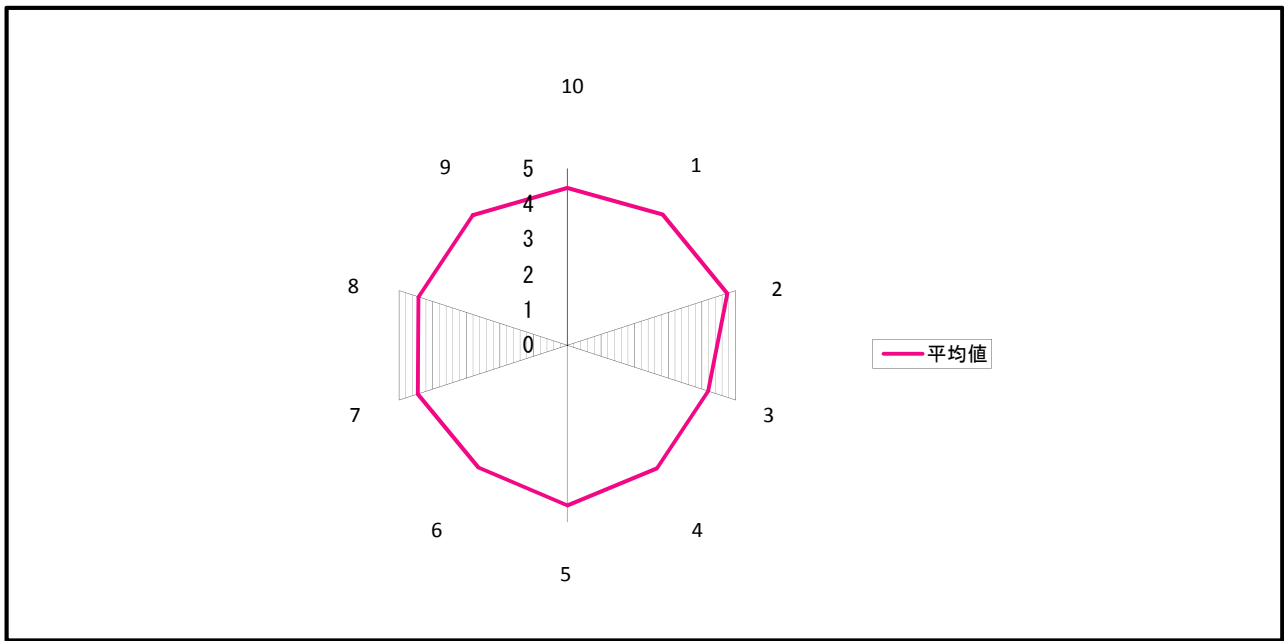
## 教員のコメント

総合評価はすべての評定が4あるいは5とされており、総合的な満足度は高い科目であると考えられる。評価項目「(3)教師の実践力の育成につながる内容であった」の項目については平均評定が他項目と比較して低くなっているが、当該科目は心理師としての態度・技能を育成することに主眼が置かれているため、当該項目自体が講義の目的を反映できていないと考えられる。したがって、次年度以降の講義は、今年度と同様に進行する計画が妥当であるといえる。

# 結果報告書

授業科目名 臨床心理面接研究 I  
 評価実施日 平成29年2月7日  
 担当教員名 中津 郁子      回答者数 40 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	27	10	2	1		4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	32	6	2			4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	18	11	9	1		4.2
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	20	16	2		2	4.3
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	26	10	3	1		4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	16	21	2		1	4.3
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	22	14	4			4.5
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	20	17	3			4.4
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	23	16	1			4.6
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	22	15	2	1		4.5



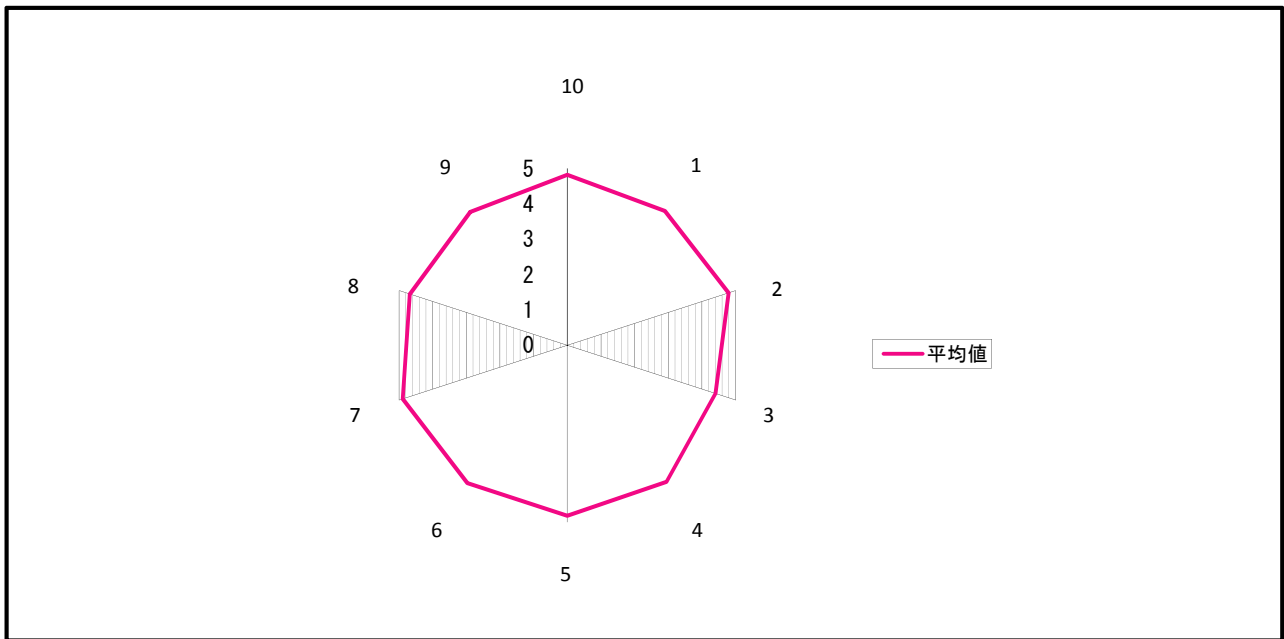
## 教員のコメント

この授業は昨年度までは担当者2名で行っていたが、今年度からは1人で授業を行うことになった。授業方法も昨年は講義形式のみだったが、今年度は、前半は講義形式で、後半は学生たちによる調べ学習形式による授業として実施した。総合評価では、昨年度は4.3であったが、今年度は4.5に上がった。評価項目のすべてが4点台になっていた。自由記述に書かれてあることでは、[2]よかった点としては調べ学習を行ったことへの記述が多くみられた。発表を通じて、積極的に学んだことや、専門知識をより一層学ぶことができたこと、「わかりやすいレジュメであった」ことや「ケースを持つうえで心構えができた」ことなどが挙げられていた。[4]授業への積極的な取り組みについて、回答を選択した理由に関しては、「興味・関心のわく授業であったこと」や「グループ内の発表に積極的に取り組んだ」「欠席なく全講義に出席した」「理由はないが当然のこと」などの意見だった。また、「グループメンバーに頼りすぎていた」という学生の反省も見られていた。[3]改善すべき点では、「グループ内の課題を明らかにして指導があればよかった」という意見が見られていた。また、項目ごとに回答内容を見ていくと、(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。という項目に少数であるが「そう思わない」に○をつけている人がいた。今後、さらに成績評価に関しては、出来るだけ明確に説明ができるように心がけたい。また、授業内容や指導方法等を工夫していきたい。

# 結果報告書

授業科目名 学校精神保健学演習  
 評価実施日 平成29年2月3日  
 担当教員名 今田 雄三      回答者数 39 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	29	9		1		4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	31	6	1			4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	21	10	6			4.4
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	31	7	1			4.8
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	31	7				4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	31	7				4.8
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	34	4				4.9
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	28	8	2			4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	28	9	2			4.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	33	5	1			4.8



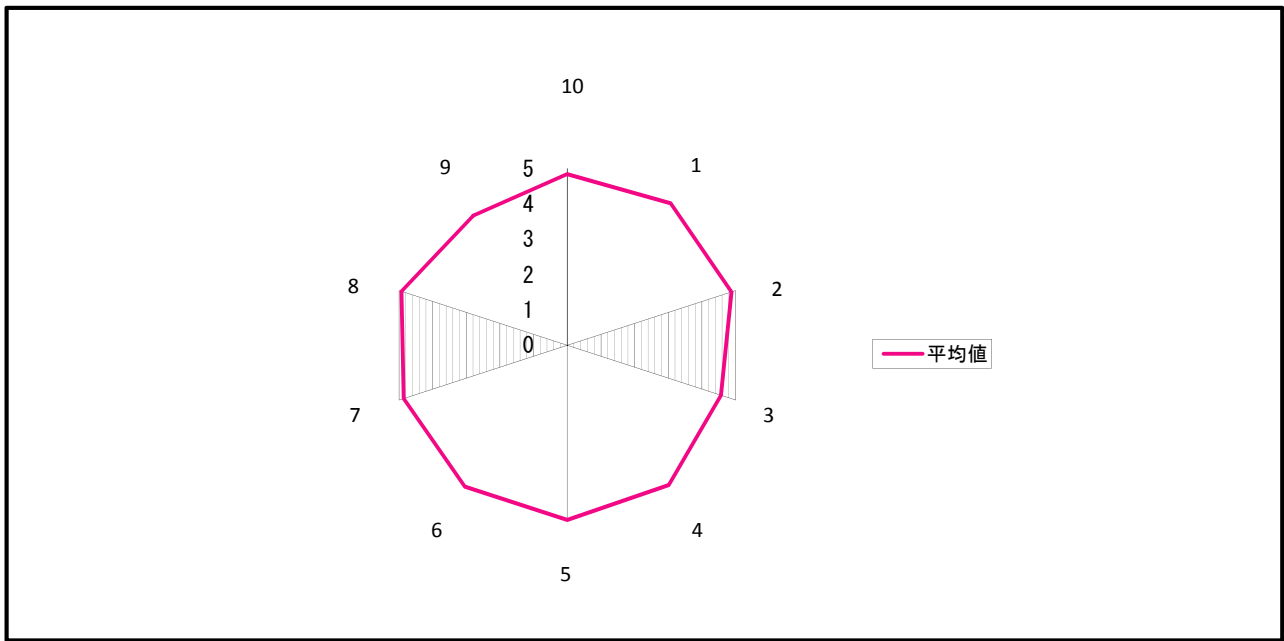
## 教員のコメント

質問10項目の9項目において評価の平均値が4.5点以上であった。特に(10)の「この授業を総合的に評価するとよかったと思う。」の評価では4.8点と評価されており、受講生からきわめて高い評価を得られたものと考えられる。なお質問項目(3)の「教師の実践力の育成につながる内容であった。」に関しては、今年度授業の課題の中に「医療機関と学校との連携の実際」に関する演習の実施方法を工夫したことによってか、評価の平均点が4.4点と、昨年度の評価である4.2点からやや向上していた。次年度以降も臨床心理士の実践の場として重要な位置を占めている学校現場でのアセスメント、相談活動、教員との連携についての知識・実践力の養成という観点を演習に反映させ、本授業が教師の実践力育成につながる内容であることを実感できるように心がけたい。なお、昨年度のアンケートの「授業の改善点として「人見知りなのでディスカッションの時間がしんどい」という意見があったことに鑑み、今年度は個人演習のシェアリングについて、各自がどの程度の人数と意見交換するか、無理のないよう選択できるように工夫したことの成果があったようで、グループ演習に関する不満等の記述は見られなかった。引き続きグループ演習の雰囲気作りや進行上の工夫などについては適宜工夫を重ねていきたい。

# 結果報告書

授業科目名 臨床心理学統計法  
 評価実施日 平成29年2月8日  
 担当教員名 古川 洋和      回答者数 32 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	31	1					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	30	1		1			4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	23	5	3	1			4.6
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	28	4					4.9
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	30	2					4.9
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	30	2					4.9
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	28	2	1				4.9
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	30	2					4.9
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	19	11	2				4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	28	3	1				4.8



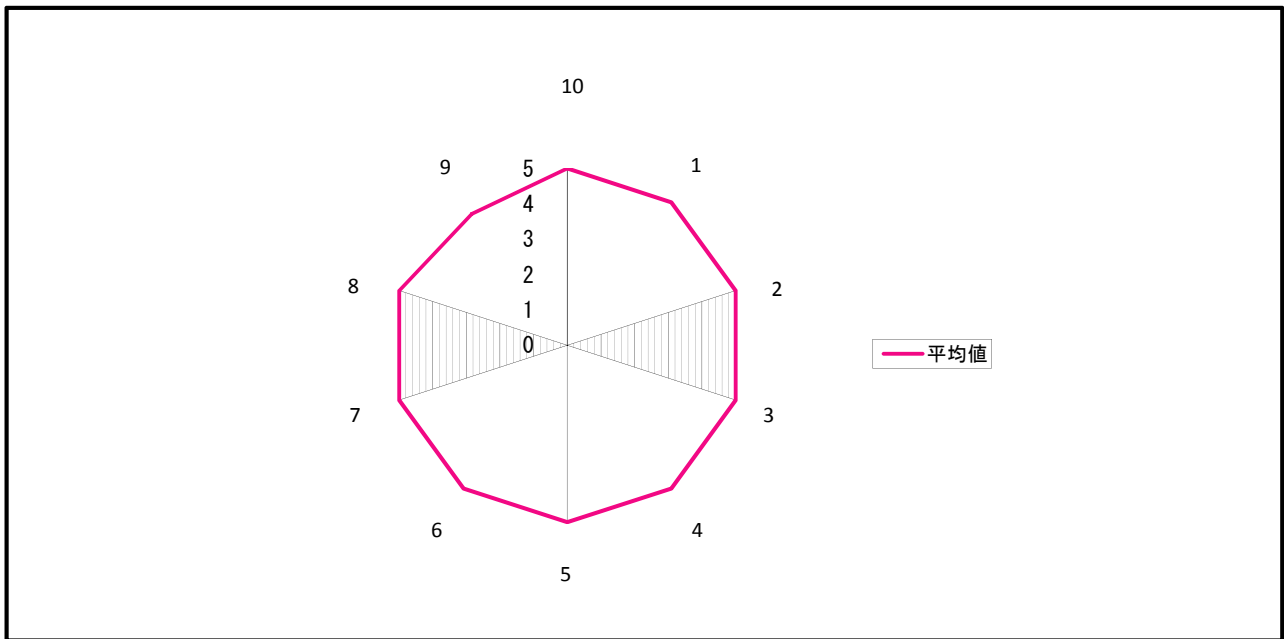
## 教員のコメント

総合評価の平均が「4.8」と高いことから、受講生にとって満足の伴う講義を実施することができたと考えられる。質問項目「(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ」については、他項目と比較して低い評定となっていたものの、当該項目は何を持って主体的・積極的であるかが曖昧なため受講生の取り組みを評価するための項目として妥当性に欠けると考えられる。したがって、次年度以降の講義は、今年度と同様に計画することが妥当であると考えられる。

# 結果報告書

授業科目名 幼年期福祉演習  
 評価実施日 平成29年1月26日  
 担当教員名 木村 直子      回答者数 5 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	5					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	5					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	5					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	5					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	5					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4		1			4.6
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	5					5.0



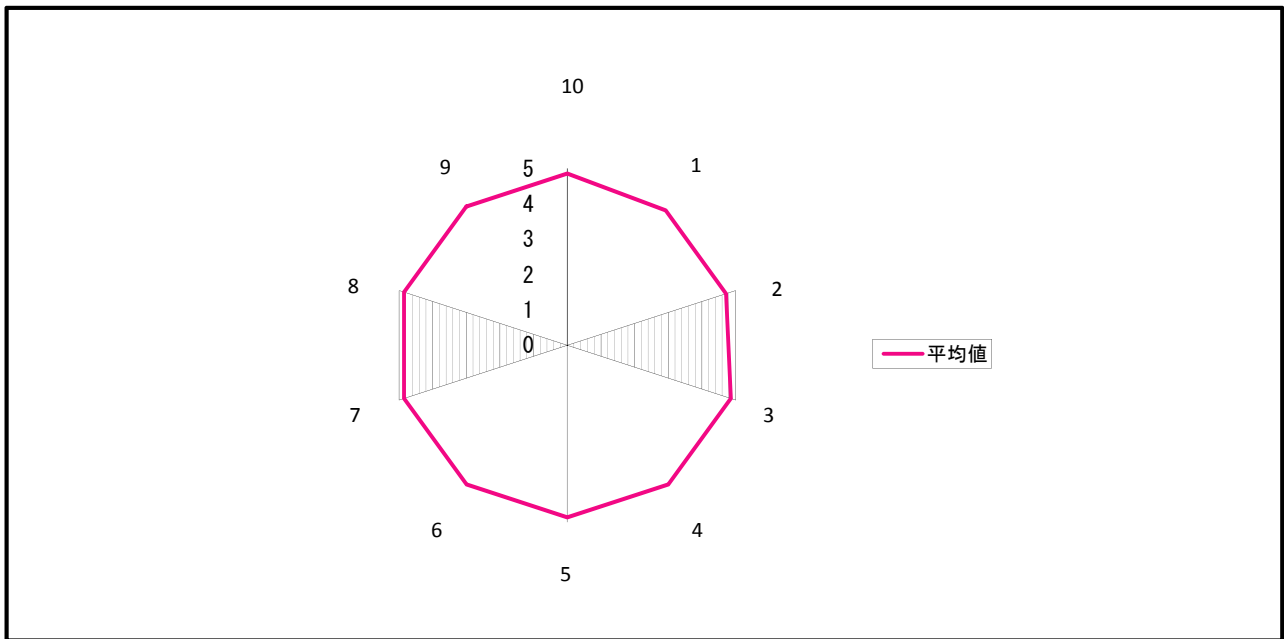
## 教員のコメント

今年度もさまざまなコースの院生に受講していただいた。昨年同様、演習は大きく2つの側面から構成した。1つは、具体的なケースについての処方箋や援助の方針を考える事例研究、もう1つは、援助や援助者の価値に関わる古典を読み深めるレビュー研究である。とりわけ具体的な事例を扱い、その援助内容、援助方針についてのアクティブラーニングでは、受講した院生同士が積極的にディスカッションを行う場面も多く見られた。そのことが、アンケートの自由記述式部分において、授業に対する肯定的な意見が多くみられ、積極的に授業に挑めたという回答につながったと考えられる。また自由記述部分には、予習・復習・授業外学習につながったという回答も多く、院生の主体的かつ積極的な取り組みにつながる可能性を広げることができたのではないかなと思う。

# 結果報告書

授業科目名 幼年発達心理演習  
 評価実施日 平成29年2月2日  
 担当教員名 田村 隆宏      回答者数 7 人

質 問 項 目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	5	2				4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5	2				4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	6	1				4.9
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	6	1				4.9
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	6	1				4.9
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	6	1				4.9
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	6	1				4.9
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	6	1				4.9
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	1				4.9
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	6	1				4.9



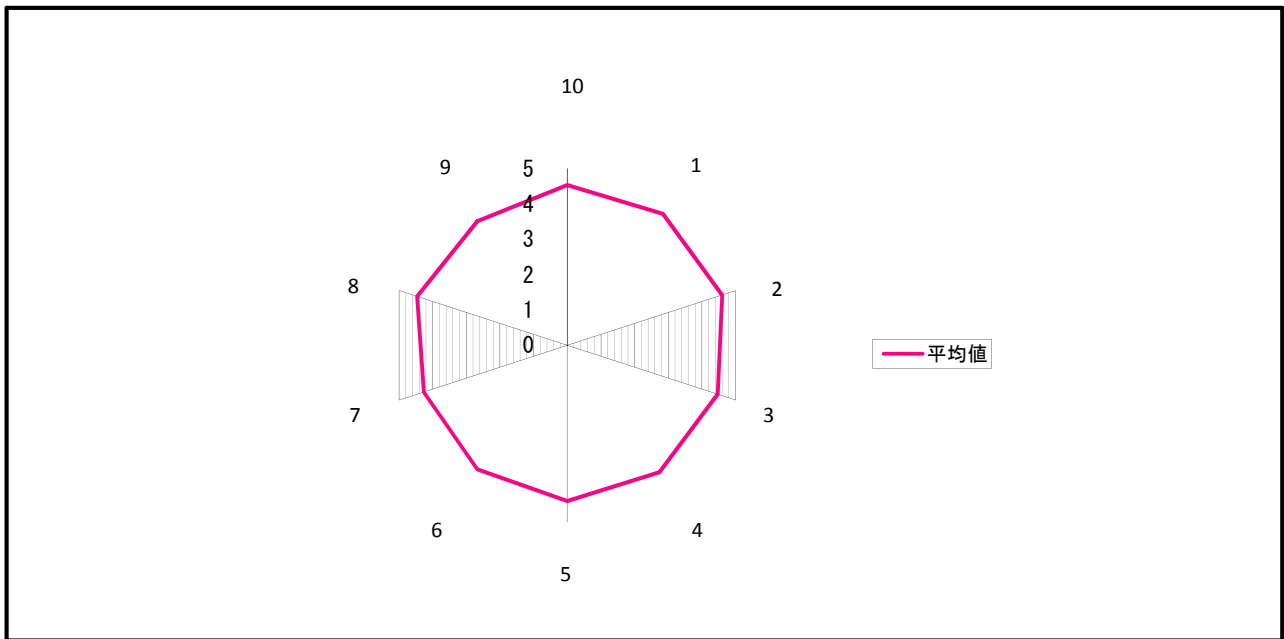
## 教員のコメント

各項目の評定値をみると、ほとんどの項目が4.7以上であり、良好な評価を受けている結果となった。今後の授業では内容に関してはこれまで以上に教師の実践力に関わるものに焦点化させること、成績評価の説明をより具体的にわかりやすくすること、配付資料を分かりやすいものにすることが改善すべき点である。自由記述をみると、「ディスカッションで他の受講生の様々な視点からの意見を聞きながら、さらに考察を深めることができたのでよかった。」といった討論形式を高く評価する意見が多かったことから、さらにこの形式を精練させる必要があると考えられる。

# 結果報告書

授業科目名 現代総合学習論  
 評価実施日 平成29年2月10日  
 担当教員名 谷村 千絵      回答者数 15 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	9	6					4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	10	4	1				4.6
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	9	4	2				4.5
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	9	2	3				4.4
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	9	4	1	1			4.4
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	8	5	1	1			4.3
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	7	6	1	1			4.3
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	9	5		1			4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	6	2				4.3
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	10	3	2				4.5



## 教員のコメント

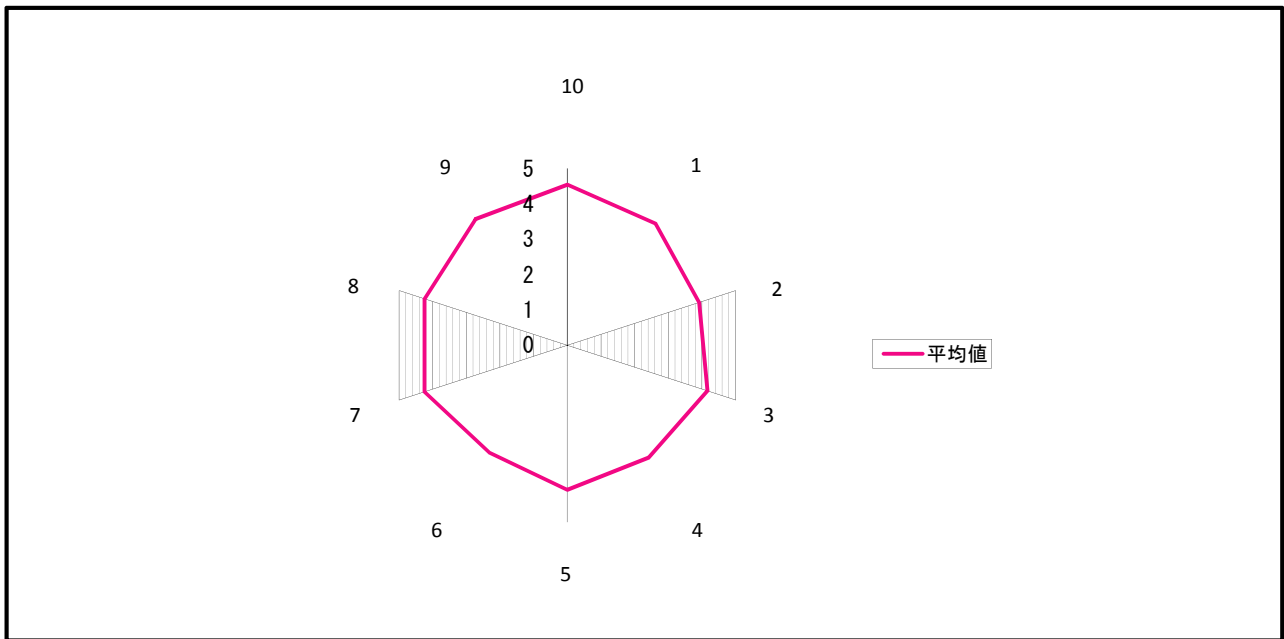
おおむねよい評価であった。  
 新居浜市教育委員会との連携で、新居浜市惣開小学校のESDの授業実践を見学することが可能となった。自由記述欄では、学校を見学できたこと、ESDという考え方やその実践の仕方に触れられたこと、また、グループワークを多用したことで、いろいろな意見に触れられたことがよかったという意見が多かった。学校との連携の都合上、後期開始の10月に見学に行くことになったので、スケジュールが合わずに学校見学できなかった学生がいたことは残念だったという意見が複数あり、また、その結果、見学後の授業内容に変更が生じたことに準備不足を指摘するコメントがあった。これについては指摘の通りである。大学の半期の授業と学校現場との連携を図る際にはやむをえないこともあったが、今回は、少人数でも参観機会を得られる者は増やすことを選択した。受講生には、その都度、状況の周知を徹底し同意のもとで授業を展開するようにしたので、少なくともその場では理解が得られていたと思われる。後半には映画を鑑賞し、教育について、教師について、学校について、グループで意見を深め合った。映画については、教材化すること(あらすじをプリントにし、重要なチャプターのみを見る)ことを提案してくれた学生がいたが、本授業では、作品としての映画を鑑賞し、自分なりの考察を展開してほしかったので、授業者の前理解や枠組みを極力控えることとした。授業の感想として、とても面白かった、意義深かったという感想が多く見られた。



# 結果報告書

授業科目名 現代教育人間論  
 評価実施日 平成29年2月9日  
 担当教員名 太田 直也,谷村 千絵,近森 憲助,田村 和之 回答者数 12 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	6	4	1	1			4.3
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	6	2	1			3.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	5	1	1			4.2
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	4	4	3	1			3.9
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	5	4	2	1			4.1
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3	5	3		1		3.8
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	6	5			1		4.3
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	6	5			1		4.3
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	5	1				4.4
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	7	3	1				4.5



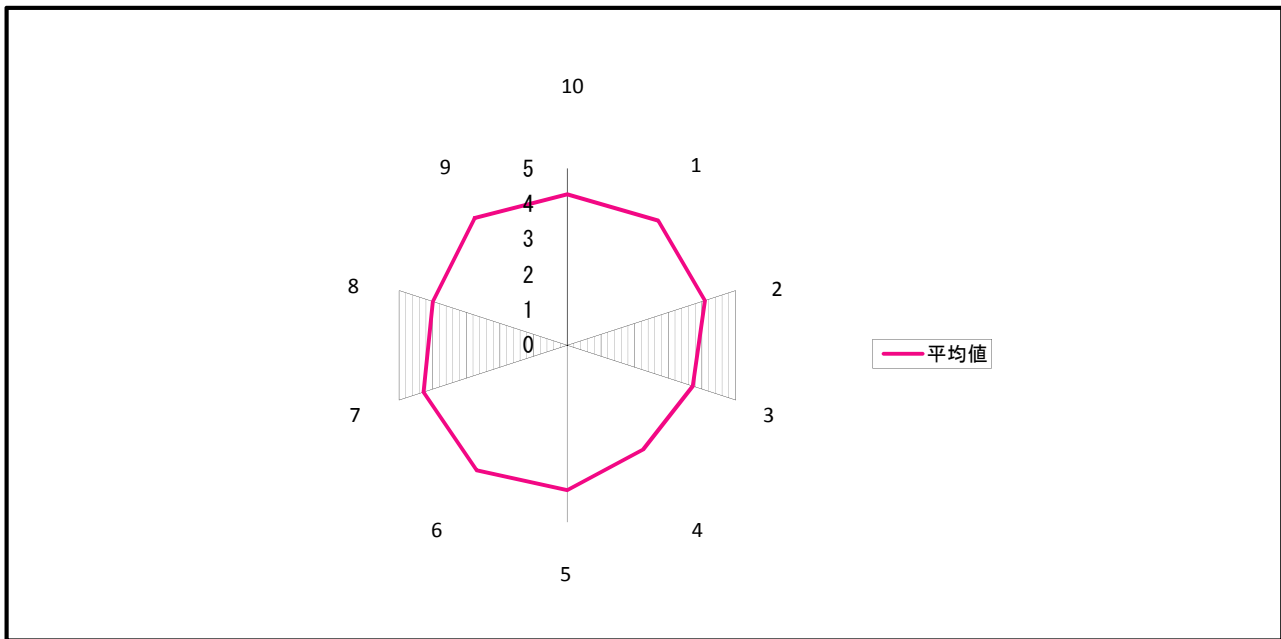
## 教員のコメント

近森、太田、谷村の3名の教員が、それぞれの専門から講義を行った。抽象度が高く難しい内容であったが、3者をつなげるキーワードも提示し、毎時間後に学生が質問や感想を提出する取り組みも昨年までと同様に続いた。学生のコメントには、「オムニバス形式で多様な考え方にふれることができた」、「教育に対して持っていた固定観念が取り除かれた」、「先生方が一生懸命、かみ砕いてくださった」ことが、よかったこととして挙げられていた。「難しかった」というコメントもあったが、「予習復習のための教材を用意して頂けるとよい」、という積極的提案もあった。「参考文献をあたるなど、主体的に学んだ」、「わからないなりに真剣にきいた」、「自分なりに理解しようとした」という、うれしい感想もあった。もとより、正解を伝えるための授業ではなく、教育や人間について、より広く深く考えるための授業であるので、本授業が学生が主体的に学ぶための一助となっていれば、その目的は達成している。内容、進め方共に、2と1を記した学生が1名いたが、とくにどういった点に問題があったのかについて記述欄にコメントがなかったので、詳細は不明である。内容や進め方について、通常事業時の感想用紙にも意見が述べられるようにはしていたが、積極的に活用するよう、今後は受講生に促したい。

# 結果報告書

授業科目名 人間とコミュニケーション I (基礎)  
 評価実施日 平成29年2月9日  
 担当教員名 谷村 千絵, 金野 誠志      回答者数 11 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	6	4		1			4.4
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5	4	1		1		4.1
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	2	4		1		3.7
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	2	4	4	1			3.6
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	4	5	1	1			4.1
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	7	2	1	1			4.4
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	5	4	2				4.3
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4	2	4				4.0
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	4	1				4.5
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	6	3	1	1			4.3



## 教員のコメント

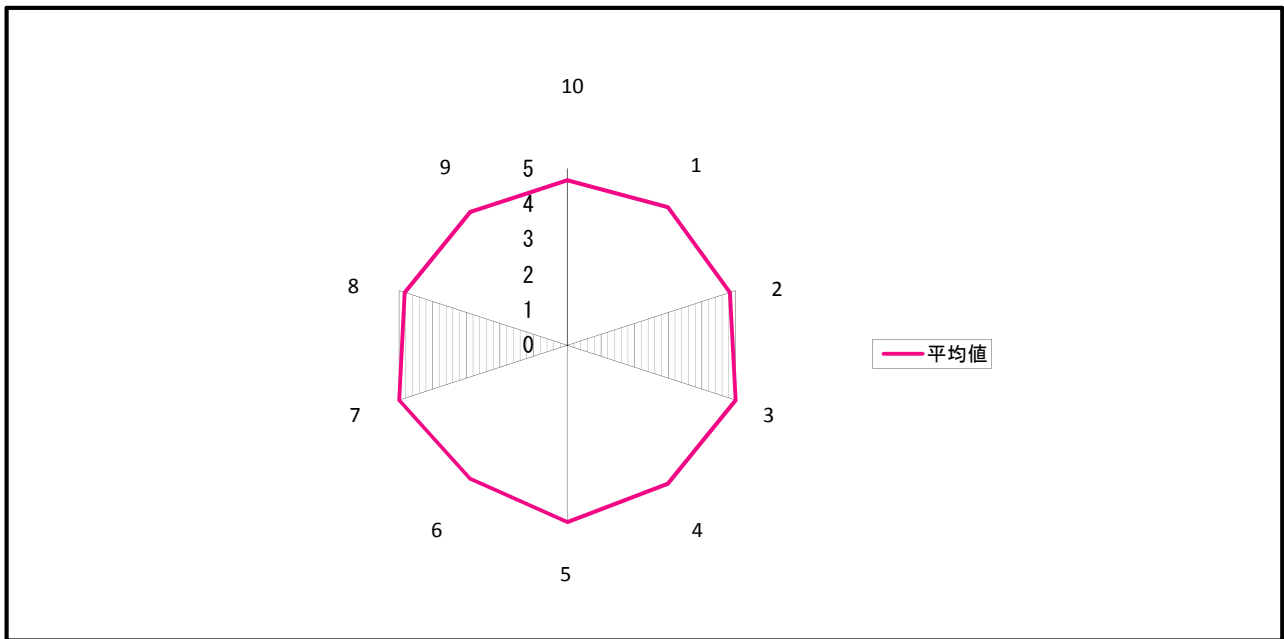
自由記述欄では、文献講読をグループで進めることについて、内容理解が深まり、発見があることの面白さを指摘するコメントが多く見られた。教育思想とメディア革命の関係性について述べるテキストを対象にしているが、出版は1980年代のもので新しくはないにもかかわらず、多くの学生は、その内容にいつも引き込まれているようだ。彼らにとっては「古典」なのかもしれない。正解を素早く得るための練習ではなく、多様な思考が編み込まれたものとしてテキストを紐解き、読解においても自らの思考を編む実践を行うことの重要性と面白さへの気づきが寄せられて、よかった。ただ、体系的な知ではないことから専門的ではないと(1)との評価もされている。専門的であるとはどういうことか、とりわけ人文科学におけるその意味を、説明する必要があったと思われる。次年度の改良点としたい。



# 結果報告書

授業科目名 人間と環境 I (基礎研究)  
 評価実施日 平成29年2月10日  
 担当教員名 田村 和之      回答者数 6 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	5	1				4.8
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5	1				4.8
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	6					5.0
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	5	1				4.8
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	6					5.0
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	4	2				4.7
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	6					5.0
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	5	1				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	2				4.7
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4	2				4.7



## 教員のコメント

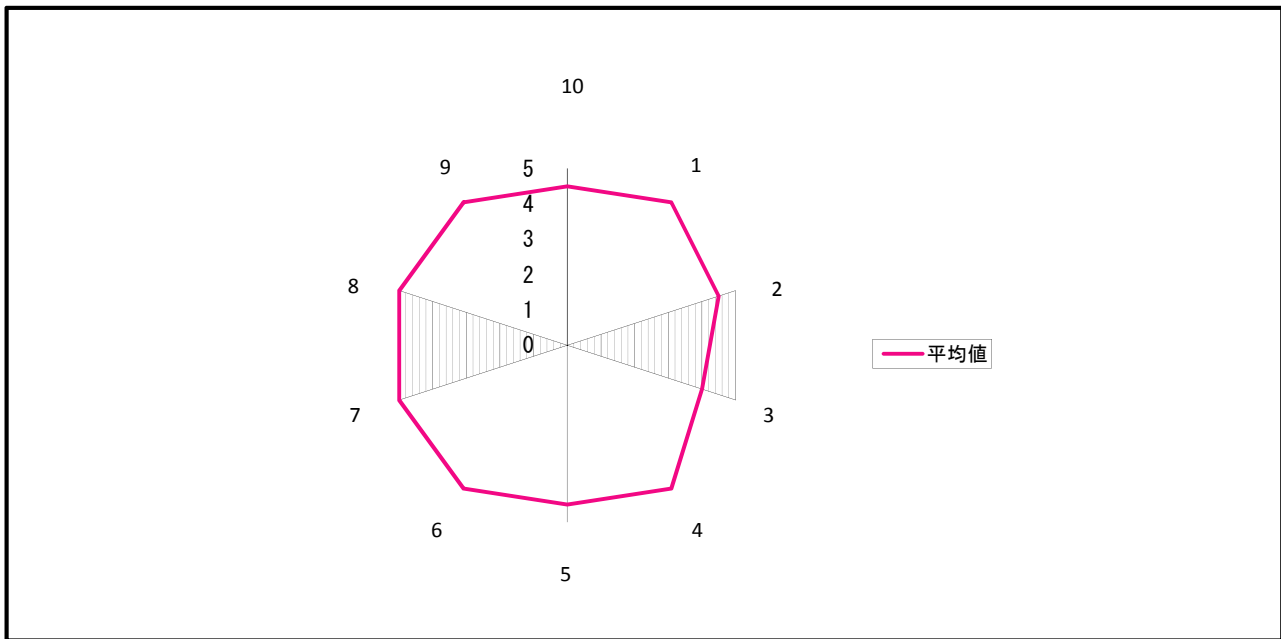
授業の前半の数回では、「環境教育とは何か」という講義を中心に進め、中盤以降では各学生に複数のテーマ(各自の出身地の文化や特産品など)を使ってどのように環境教育の教材として使用することができるか、またどのような教科横断的な授業を展開することができるかを調査・発表してもらった。  
 また、各発表の後には学生を含めた全員で意見を出し合い、他の使用方法や教材としての可能性についてディスカッションを行った。

学生からは非常に好評価であり、今後もこのような授業内容で継続していきたい。

# 結果報告書

授業科目名 人間と環境Ⅲ(実践研究B)  
 評価実施日 平成29年2月14日  
 担当教員名 田村 和之,近森 憲助      回答者数 2 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1	1					4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1		1				4.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2						5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	1	1					4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2						5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	2						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2						5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	1	1					4.5



## 教員のコメント

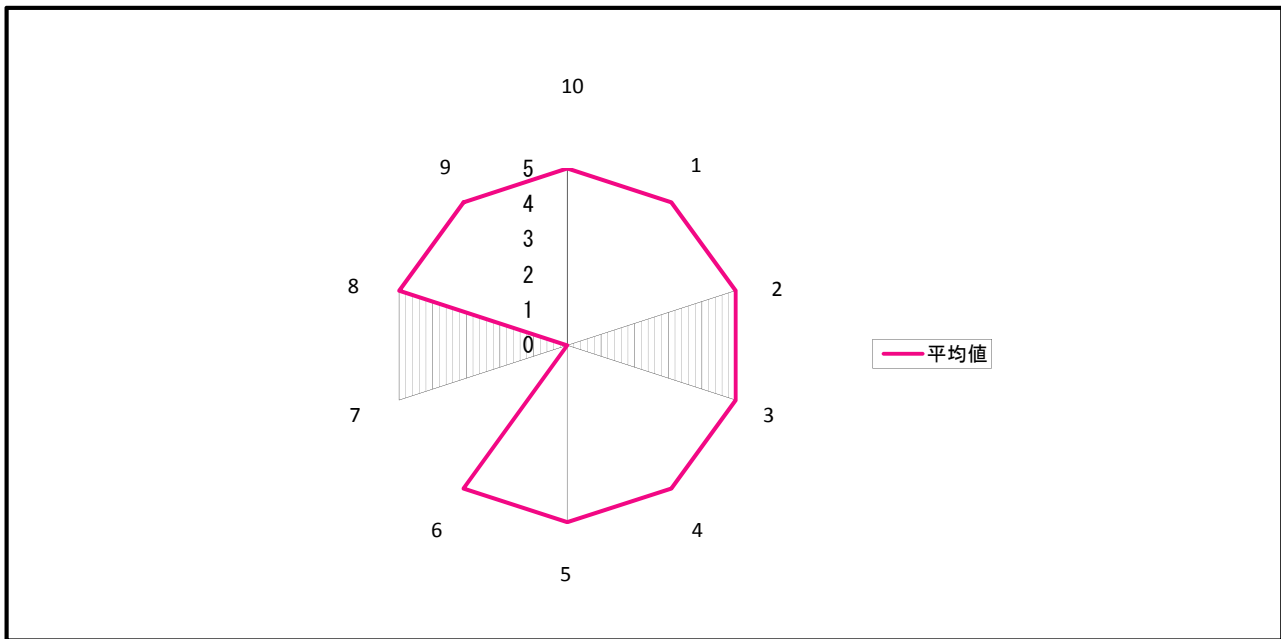
本年度の授業は実践的な内容というよりは実践のための背景となる理論的な授業内容になっていた。そのため、(3)の質問で評価が2分されてしまったように思われる。ただし、それ以外の評価は概ね良い評価となっている。ただし、授業自体は学生の考えを中心にクラス全体でディスカッションを行いながら進める形で行われた。

実践のための理論も重要なので、今後もこのような授業スタイルで継続していきたい。

# 結果報告書

授業科目名 現代教育課題特論  
 評価実施日 平成29年12月22日  
 担当教員名 小西 正雄      回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。						#####
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2					5.0



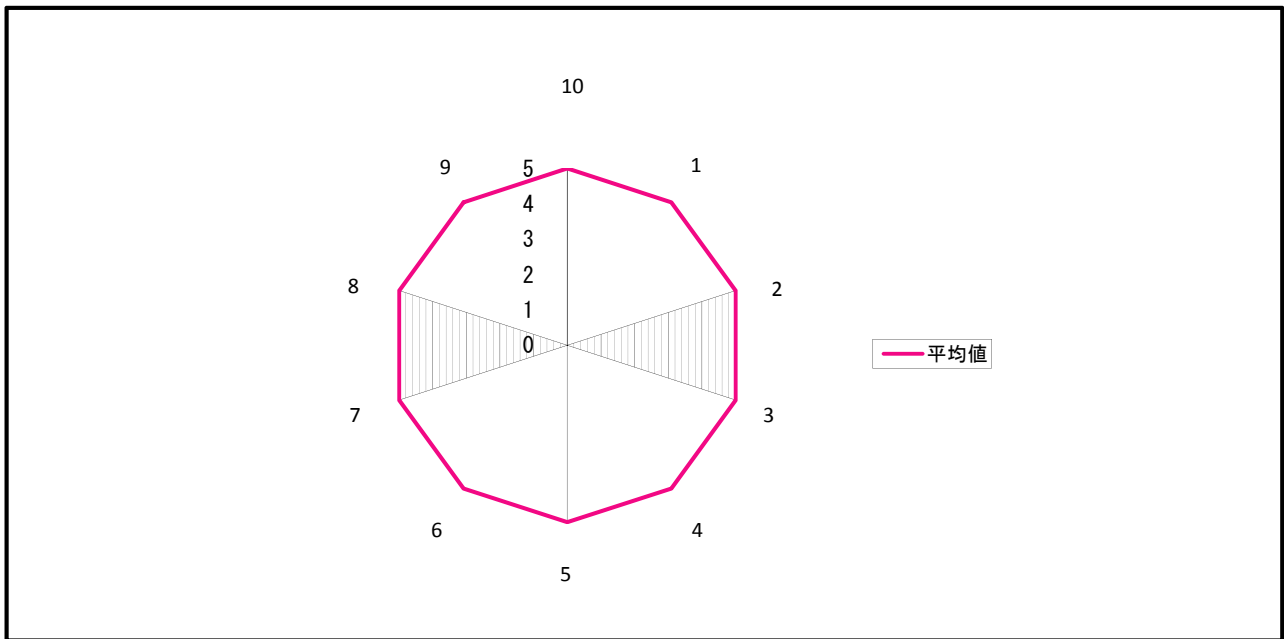
## 教員のコメント

人数が少なかったため、やりやすい面とやりにくい面があったが、統計の有為性はともかく高評価を得たのはありがたいことである。次回はさらに教材提示の方法を改善するなどして受講生の期待に応えられるように努力したい。

# 結果報告書

授業科目名 特別支援教育コーディネーター実践論  
 評価実施日 平成29年1月31日  
 担当教員名 井上 とも子 回答者数 4 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	4					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	3					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	2					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4					5.0



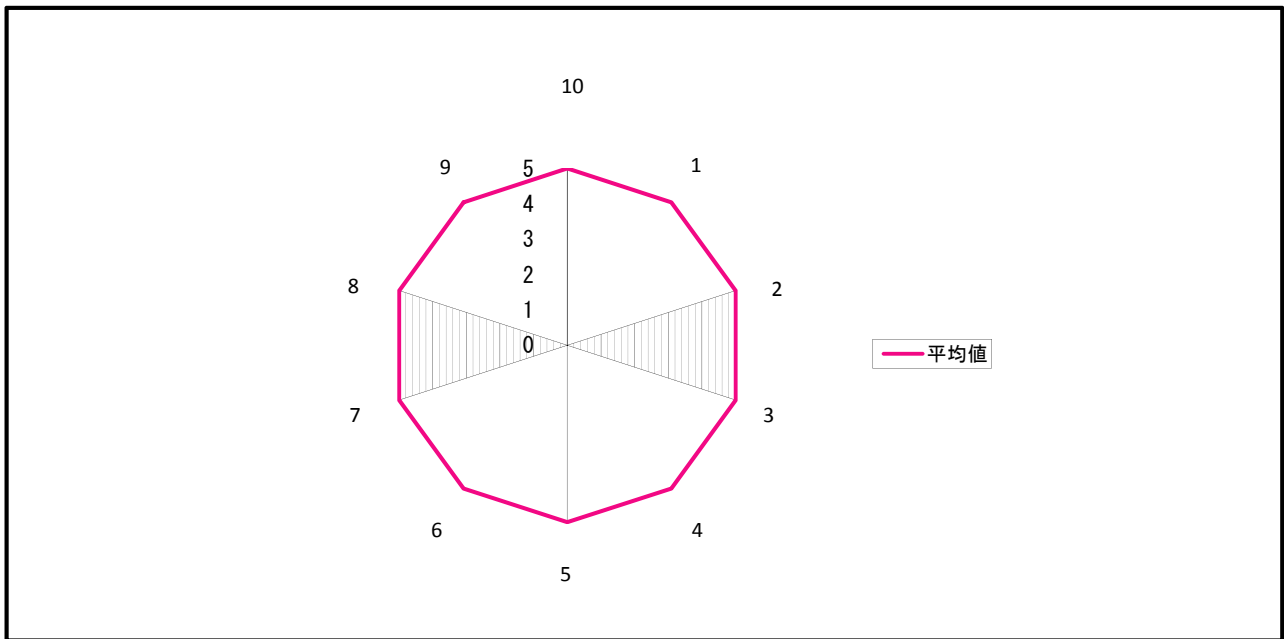
## 教員のコメント

この授業は、実際に幼児の支援・指導に当たりながら、実践論を学ぶ。毎週、1時間半の指導場面を維持するために、準備や振り返りに指導時間の何倍もの時間をかけ話し合ったことと思われる。その中で、チームティーチングを行う上でのポイント、リーダーを支えるサブリーダーの動きの難しさなど実感できたものとする。この4人は、チームワークよく、一人ひとりが自分のすべき事、できる事を出し合い、お互いに補完しあって、子どもの指導に当たることができていたと高い評価をしたい。一人ひとりの指導実践力も、よく考えて行動する中で、高まっていくことができていた。指導後のカンファレンスで指摘した注意点も、次の週にはうまく改善されており、何より、子ども達が元気を失わずに、積極的に主体的に活動に参加し、何より、笑顔が随所に観られ、自分から仲間に話しかけるなど、最も大きな課題であった仲間同士の関わりが持てるようになったことは、この指導の成果であり、チーム力であったと評価できる。それぞれベテランの域にある現職教員が、指導の「自分流」を押さえたり崩したりしながら、新たな指導方法を学んでいくことに辛さも伴ったと考えられるが、4人の差さえ合いで乗り切ったように思う。

# 結果報告書

授業科目名 社会資源開発運用・連携論  
 評価実施日 平成29年1月31日  
 担当教員名 井上 とも子      回答者数 4 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	4					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	4					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	3					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4					5.0



## 教員のコメント

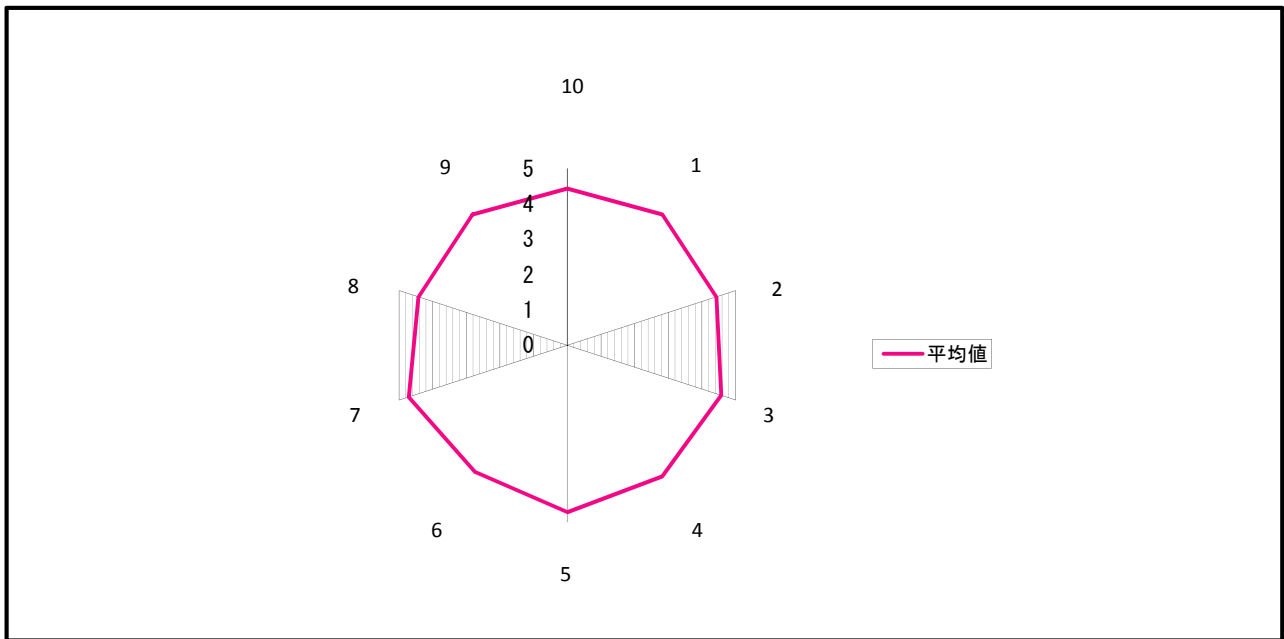
この授業は、教科書を使用しての座学で進めるのではなく、調べてきたことを元に協議したり、自分自身で考えてきたことを報告しながら、社会資源に目を向け、学校の中だけに視点を止めず、いずれ、子ども達が巣立つであろう社会に視点を広げ、教育活動に活かせる社会資源を開発し、それを子どもの指導・支援に運用するだけでなく、保護者支援にも活用するべく、社会の中にある、障害児・者支援関係機関と連携していこうとする意欲と、活用する実践力を培うことを目的としている。4人のこの授業の中での取り組みは、積極的であり、毎週授業の最後に出される課題をまじめに受け止め、電話をかけた、出向いたりしながら、開発に力を注ぐことができていた。特に、最後の期末レポートでは、社会資源として1カ所の開発に留まらず、原籍校に戻ったときに活用できるいくつかの施設、機関を調べたり、資源を活用して実際の学級経営、子ども支援を年頭に計画することができていた。授業の中では報告者が発表する時間が多く、発表者以外の3人が、さらに意見が言いやすく、協議の形になるように、授業を工夫する必要があると感じている。授業開始時に目的を十分知らせるなど配慮が必要であった。



# 結果報告書

授業科目名 特別支援教育課程特論演習  
 評価実施日 平成29年2月7日  
 担当教員名 高橋 眞琴      回答者数 7 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	6			1		4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6				1	4.4
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	6			1		4.6
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	6			1		4.6
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	6		1			4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	6				1	4.4
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	6		1			4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	6				1	4.4
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	1	1			4.6
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	6				1	4.4



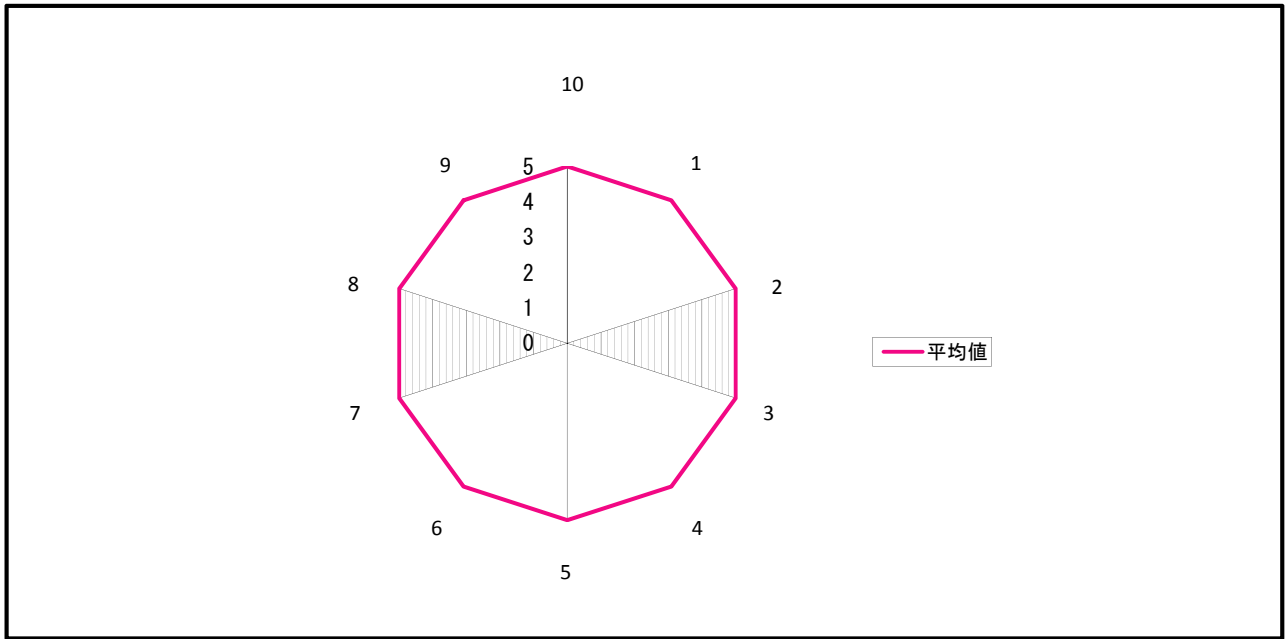
## 教員のコメント

本演習においては、特別支援教育における教育課程の調査および発表に加え、特別支援学校(肢体・知的・病弱)の新転任研修でも紹介されるような手技の演習を実際に行った。その結果、7名の受講者のうち、6名が高い評価をつけている。演習時には、動画、プレゼンテーション資料なども用いているが、1名の受講生の評価が「専門的知識を深めるために役に立つ」「視聴覚機器の使用」などで評価が低くなっているのが非常に残念である。授業日に体調不良や実習などで欠席をする受講生もいたため、当日欠席の場合には、これらの動画視聴や実技を伴う演習を受講していないケースも考えられる。また、ちょうど進路決定の時期でもあり、受講生の一部には、いろいろな思いがあったのかもしれない。今後は、受講生の意向や進路状況なども把握しながら演習を行っていきたい。

# 結果報告書

授業科目名 特別支援教育指導特論演習  
 評価実施日 平成29年2月9日  
 担当教員名 大谷 博俊      回答者数 4 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	4					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	4					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	4					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4					5.0



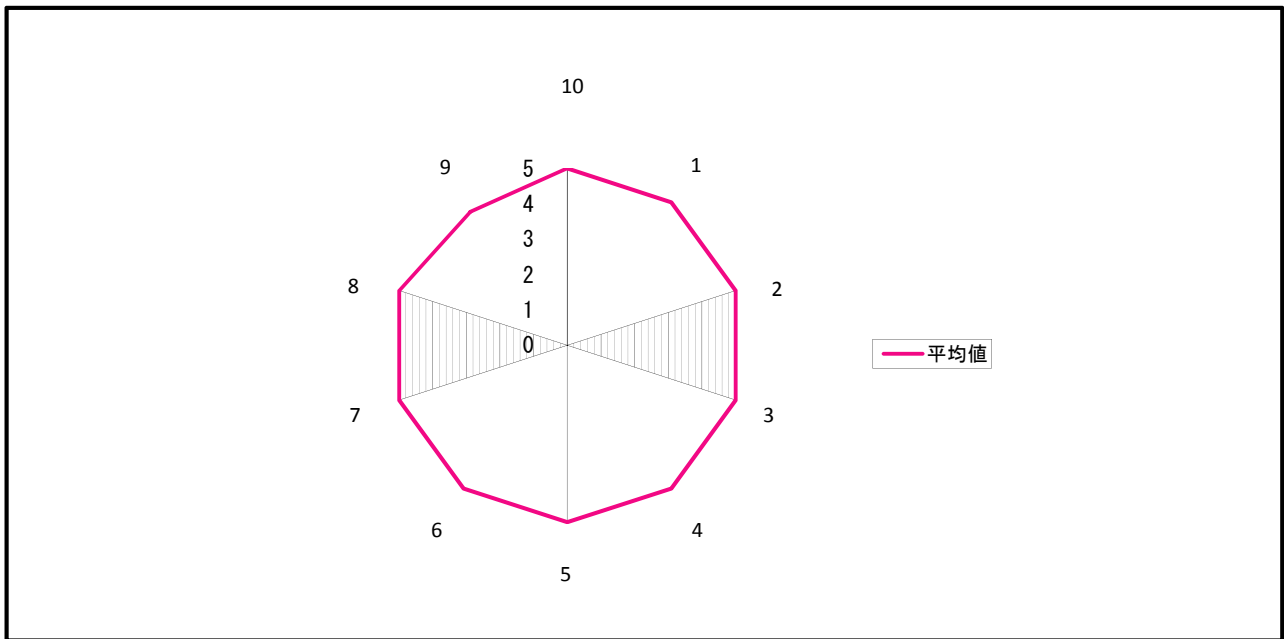
## 教員のコメント

受講生全員が、「授業の内容について(3項目)」「教員の授業の進め方について(5項目)」および「総合評価」、全てを「5」と評価しており、非常に満足していると考えられる。また、受講生の講義への取り組みも、全員「5」と評価しており、学習姿勢も非常によかったといえる。

# 結果報告書

授業科目名 特別支援教育臨床支援技法演習  
 評価実施日 平成29年2月3日  
 担当教員名 高原 光恵 回答者数 3 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	3					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	3					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	1				4.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3					5.0



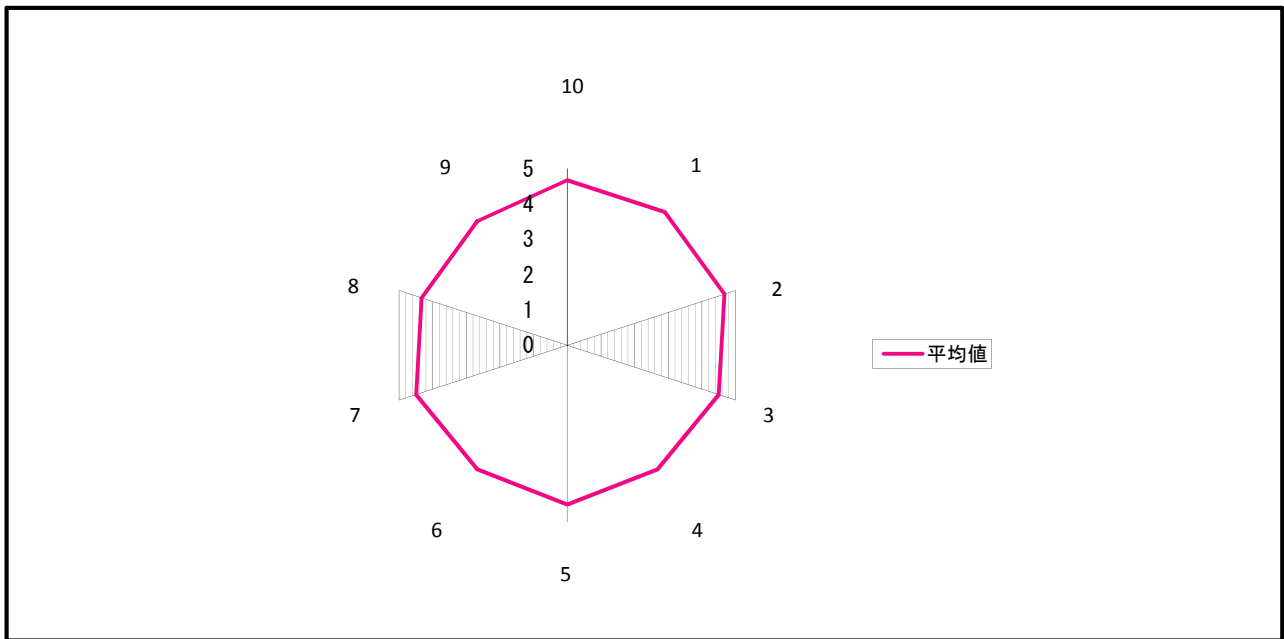
## 教員のコメント

全般に評価は高かった。少数のため、受講生同士の討議も丁寧にやりとりがなされた結果と思われる。論文を読み込む面白さは感じつつ、毎週の予習や発表準備が大変だったとの感想も寄せられた。受講生数の増加を望む声があったことから、初回オリエンテーションなどでもう少し受講生増加を試みる説明も必要と思われる。

# 結果報告書

授業科目名 発達障害児神経学演習  
 評価実施日 平成29年2月10日  
 担当教員名 田中 淳一      回答者数 6 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4	2				4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4	2				4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	3				4.5
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3	2	1			4.3
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	4	1	1			4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3	2	1			4.3
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	4	1	1			4.5
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3	2	1			4.3
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	2	1			4.3
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4	2				4.7



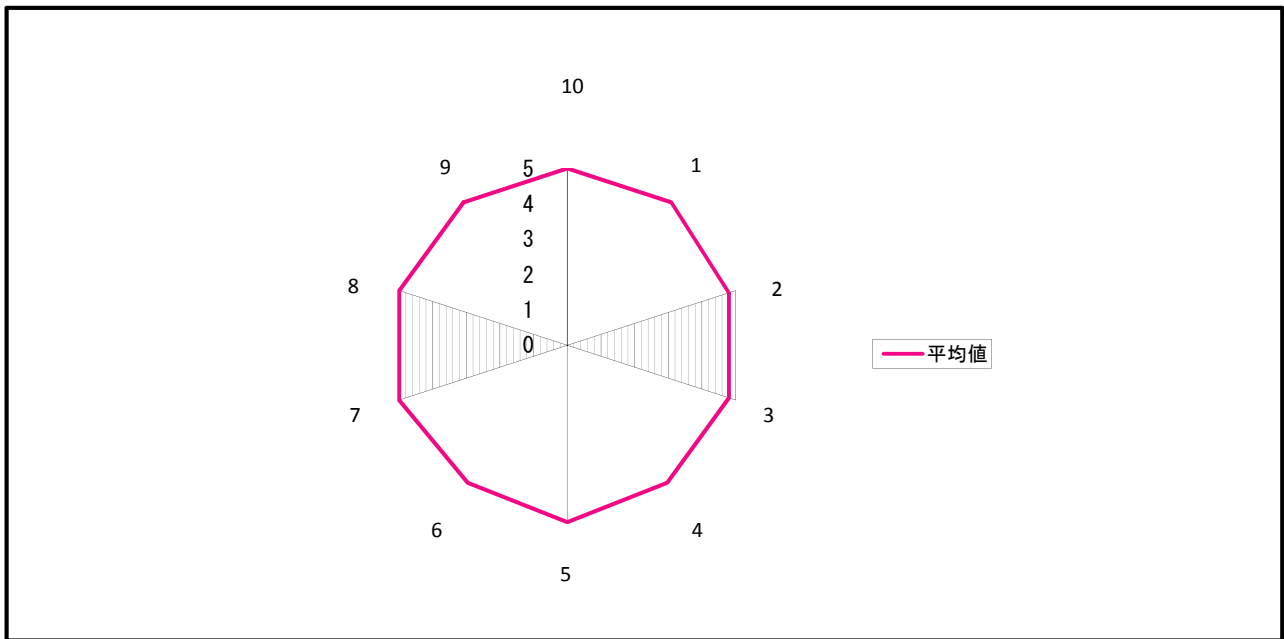
## 教員のコメント

総合評価が4.7であり、また各質問項目ともに平均値が4.3を上回っていることから、ある程度の適切な授業が出来たと考えられる。授業内容は、昨年度よりもより興味のあると思われるものを多くし、十分な調査を行わせた後に、発表を行うようにした。その後、不足している内容や詳細な説明を行う様に努めた。専門用語が多いが、学生自信は他の授業においてある程度理解していると思われたことから、他学生からの質問に対する応答等を実施し易い様にした。何よりも、この分野は興味、関心のある学生が受講するので、熱心に授業に参加してくれたように思われる。ただ、いくつかの項目で3との評価が見られるので、今後はすべての項目で3の評価をなくす努力が必要であると感じている。授業方法も大きな問題がなかったと考えられるが、アンケートでの良かった点、悪かった点のほとんどは空白であり、具体的に指摘して頂ければ改善点がみえて良かったと思われる。

# 結果報告書

授業科目名 日本事情・日本文化  
 評価実施日 平成29年2月9日  
 担当教員名 田中 大輝      回答者数 5 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	5					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4	1				4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	1				4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	4	1				4.8
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	5					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4	1				4.8
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	5					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	5					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	5					5.0



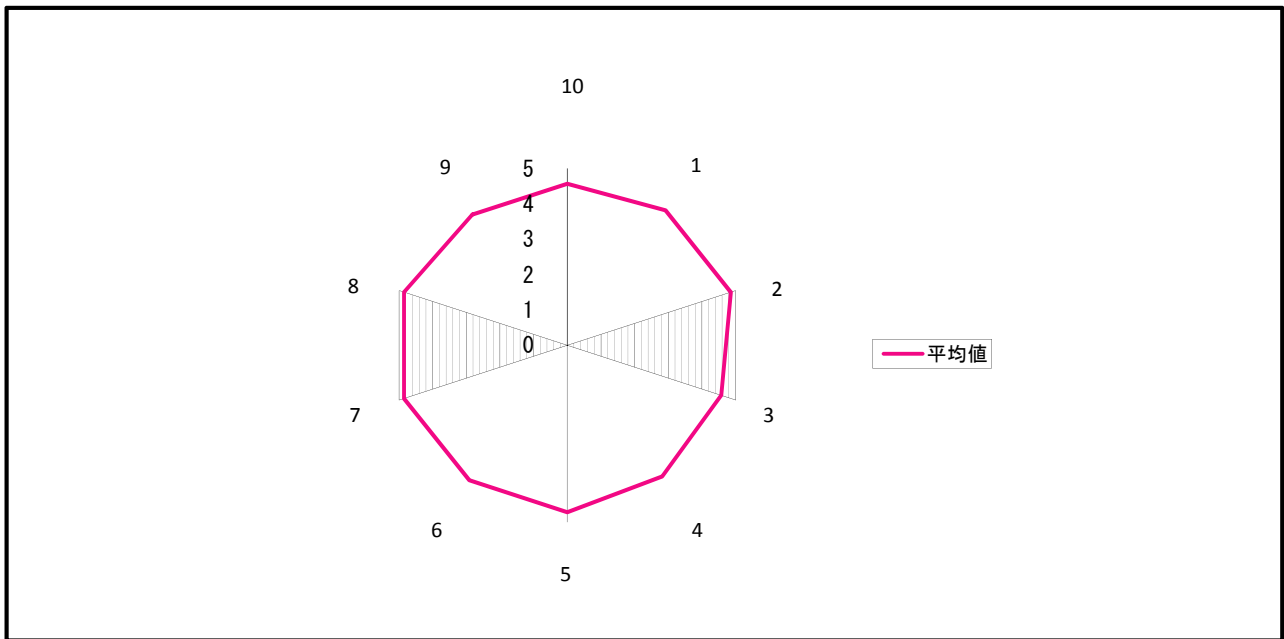
## 教員のコメント

本授業では、「日本の暮らし・徳島の暮らし」や「ジェスチャー・対人距離・身体接触」など、様々なテーマを通して日本の社会や日本人の考え方についての理解を深めることを目指した。また、日本の文化と比較して、留学生自身の国について発表したり、他の国の出身の留学生にその国のことを質問したりすることによって、世界の様々な国の文化や考え方について相互に理解を深め合うことも目的とした。受講者数は1名(＋聴講10名)であり、授業評価アンケートの自由記述の項目では、「日本事情、そしていろいろな国の文化を学びました。日本の文化とマナーについて学力が上がりました。実用性も高いです。」「日本と他国との文化の違いについて知ることができ、おもしろかったです。」「This course provided us many usefull information about Japanese culture. The way SENSEI explained the lesson was also super easy to understand. Even though SENSEI used Japanese all the time, we could really understand the lesson because SENSEI helped us a lot.」など、授業内容の実用性やわかりやすさを高く評価する声が多く見られた。一方で、「落語・漫才・漫談など、もっとおもしろい文化を知りたい。」「In the future, maybe more games or cultural things will be great to be put in this class.」など、参加者の興味をさらに引きつける内容を求める声も出ていた。本授業は参加者の日本語能力や興味・関心が多様であったため、全員のニーズに応えることは難しかったのであるが、できる限り幅広い参加者に満足を与えられるよう、今後も最善を尽くしたい。

# 結果報告書

授業科目名 日本語Ⅲ  
 評価実施日 平成29年2月13日  
 担当教員名 田中 大輝      回答者数 7 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	5	2				4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6	1				4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	3				4.6
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	5	1	1			4.6
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	6		1			4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5	2				4.7
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	6	1				4.9
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	6	1				4.9
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	3				4.6
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4	3				4.6



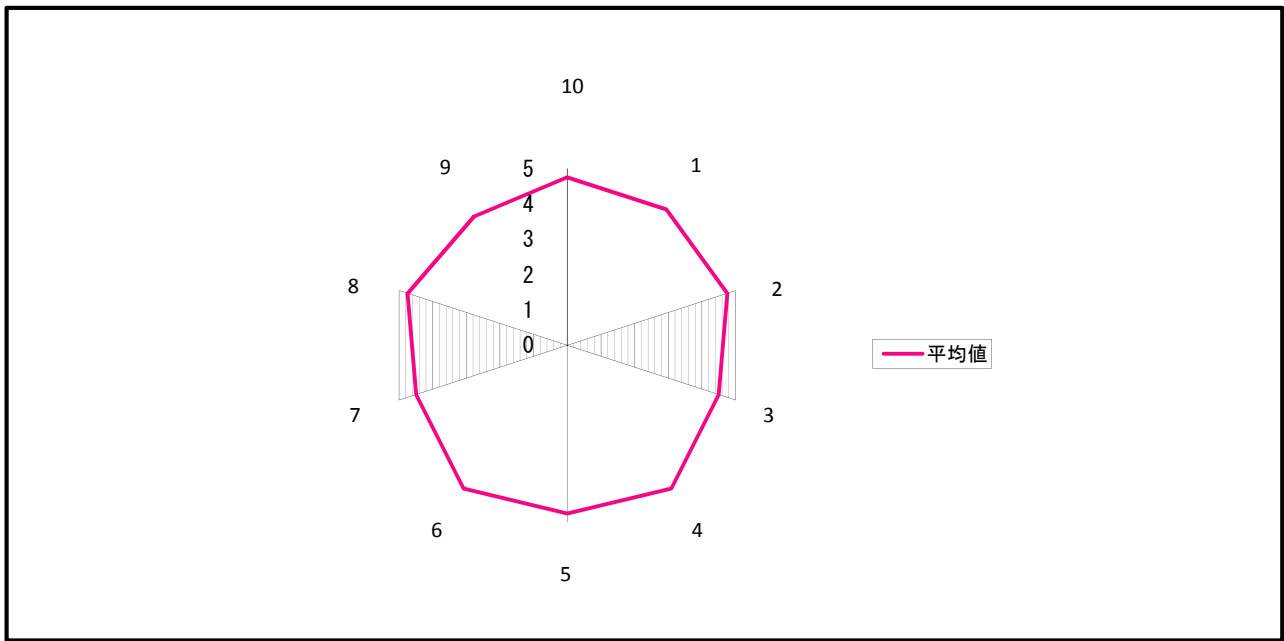
## 教員のコメント

本授業では、大学で学ぶ留学生にとっての基礎的な能力である、「適切にメールを書くことができる力、適切に情報を収集することができる力」などを養うことを目的とした。受講者数は1名(+聴講9名)であり、授業評価アンケートの自由記述の項目では、「この授業で勉強したことは生活に役立つと思う。」、「メールを書くこと、スピーチをすること、そして図書館で資料をさがすことなど、実用性が高いと思います。」、「メールとスピーチの振り返りは詳細です。」など、授業内容の実用性や解説・説明の丁寧さを高く評価する声が多く見られた。一方で、「教室がちょっと小さかった。」、「授業の進度はもっとはやい方がいいかなと思います。」、「勉強した内容をもっと詳しく説明してほしいと思う。」など、学習環境や授業の進度等に改善(再考)を求める声も出ていた。本授業は参加者の日本語能力に著しい隔たりが見られた(N1レベル~N4レベル)ため、全員のニーズに応えることは難しかったのであるが、できる限り幅広い参加者に満足を与えられるよう、今後も最善を尽くしたい。

# 結果報告書

授業科目名 日本語IV  
 評価実施日 平成29年2月8日  
 担当教員名 妹尾 春子      回答者数 4 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3	1				4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	1				4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	2				4.5
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	4					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	3	1				4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	2	2				4.5
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3	1				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	2				4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3	1				4.8



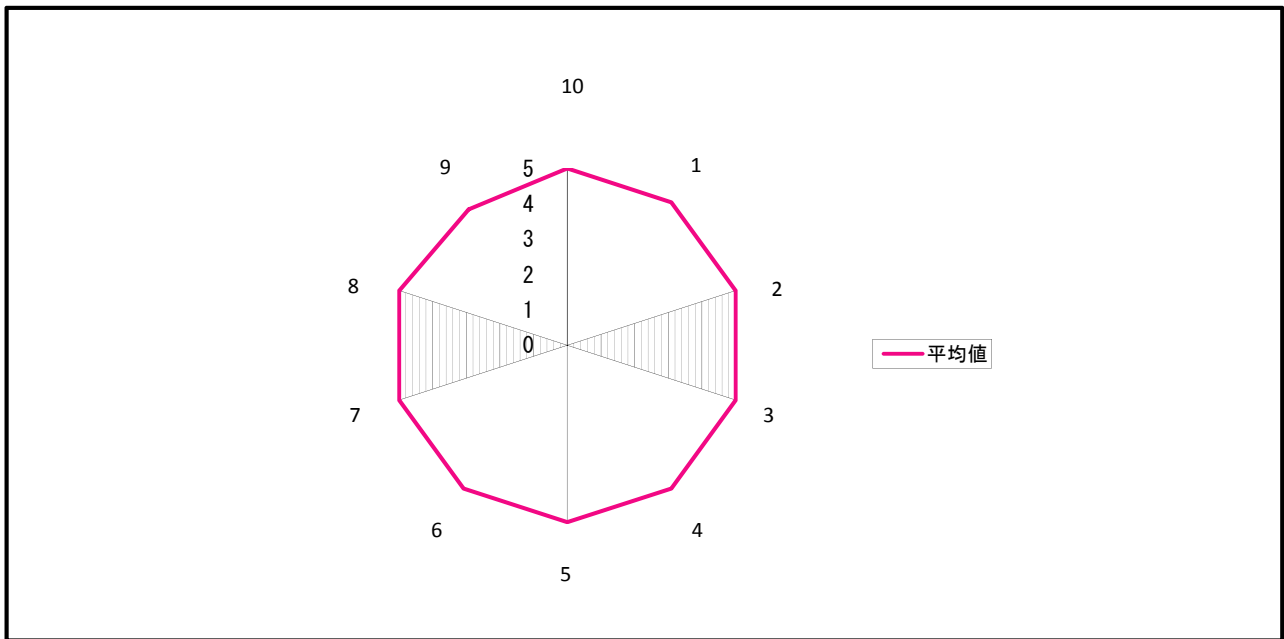
## 教員のコメント

このクラスでは書き言葉の習得を目指し、新聞記事やさまざまなジャンルの文章の縮約・要約訓練を行った。また一人一回新聞記事を選び、その要約を発表してもらった。発表の時間が限られていたことから、学生からはもう少し色々な意見を述べたかったという意見も聞かれた。次回は発表の時間配分に工夫し、要約・縮約の訓練が何に役立っていくのかを分かりやすく説明したい。

# 結果報告書

授業科目名 日本古典語演習  
 評価実施日 平成29年2月20日  
 担当教員名 原 卓志      回答者数 4 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	4					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	4					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	4					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	1				4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4					5.0



## 教員のコメント

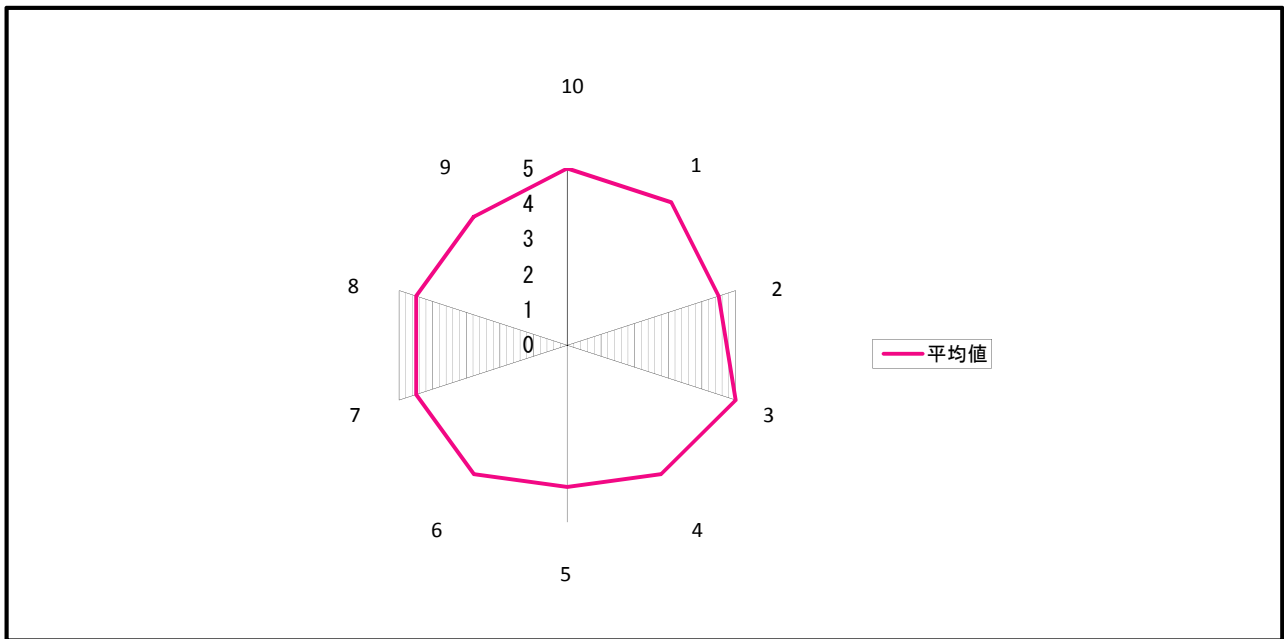
前期に引き続き、国伝山地蔵寺所蔵の『異船一條并大小名等諸事傳聞噂而已之記』を取り上げて解説を進めた。  
 受講生からは、本授業の良かった点について、「初めての古文書を読み解く経験ができたこと」「古典に対する知識やとらえ方が広がり、興味を持って古典作品を見ることができるようになったこと」「古文書の文字に興味を持つことができた。幕末の歴史的背景も学べた」「自ら探求する必要がある、学ぶ意欲が持続したこと。ディスカッションしながら進む授業だったので楽しかった」というコメントが寄せられた。  
 江戸時代の個性的な文字を読解するのは、骨の折れる作業であったと思われるが、書き記された内容が興味深いものであるということも手伝ってか、和気藹々と楽しい時間を過ごすうちに、それまで読めなかった多くの文字が、すらすらと読めるようになっていたことは、素晴らしい経験になったと思われる。



# 結果報告書

授業科目名 日本語文法演習  
 評価実施日 平成29年2月10日  
 担当教員名 田中 大輝 回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1	1				4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	1	1				4.5
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	1		1			4.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1	1				4.5
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	1	1				4.5
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1	1				4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	1				4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2					5.0



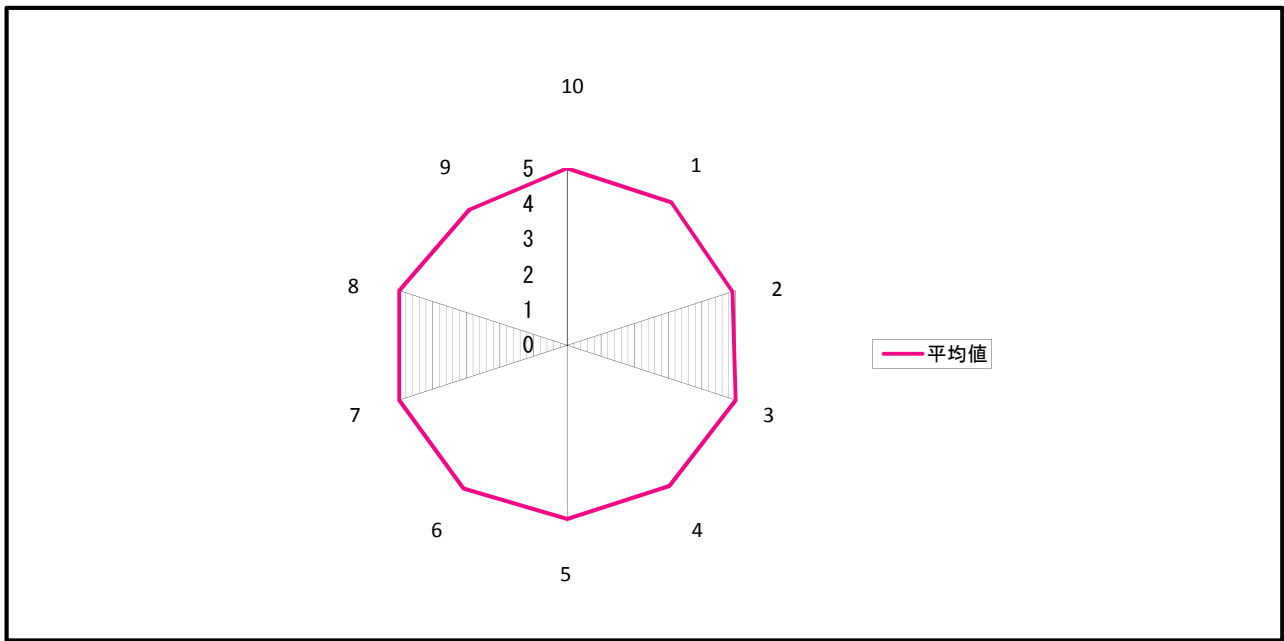
## 教員のコメント

本授業では、「指示詞(コソ・ア)」について、古典的な論文から最近の論文までを幅広く検討することで、従来何が問題とされてきて、現在何が問題として残されているのかを理解することを目指した。また、そのような研究の積み重ねによって得られた知見を日本語教育の現場でどのように活かすべきかを議論した。授業評価アンケートの自由記述の項目では、「ある分野にしぼってここまで長期間学ぶことは初めてだったので、良い経験になったと思います。」「発表の準備に取り組み、積極的に疑問点などについて質問を考えることができました。例文作成なども意欲的に取り組むことができました。」など、授業の内容や学生自身の授業への参加姿勢について肯定的な声が多く見られた。一方で、今年度は受講者が2名と少なかったため、演習形式の授業としては受講者の負担が大きくなってしまっていたことが問題であったと思われる。急遽、授業担当教員による発表(講義)の時間を増やすなど、可能な限りの工夫を行ったつもりであるが、今後は、受講者の確保や受講者の負担へのさらなる配慮に努めたい。

# 結果報告書

授業科目名 日本語語彙論  
 評価実施日 平成29年2月10日  
 担当教員名 田中 大輝      回答者数 11 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	11					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	10	1				4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	11					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	10	1				4.9
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	10	1				4.9
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	11					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	11					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	11					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	8	3				4.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	11					5.0



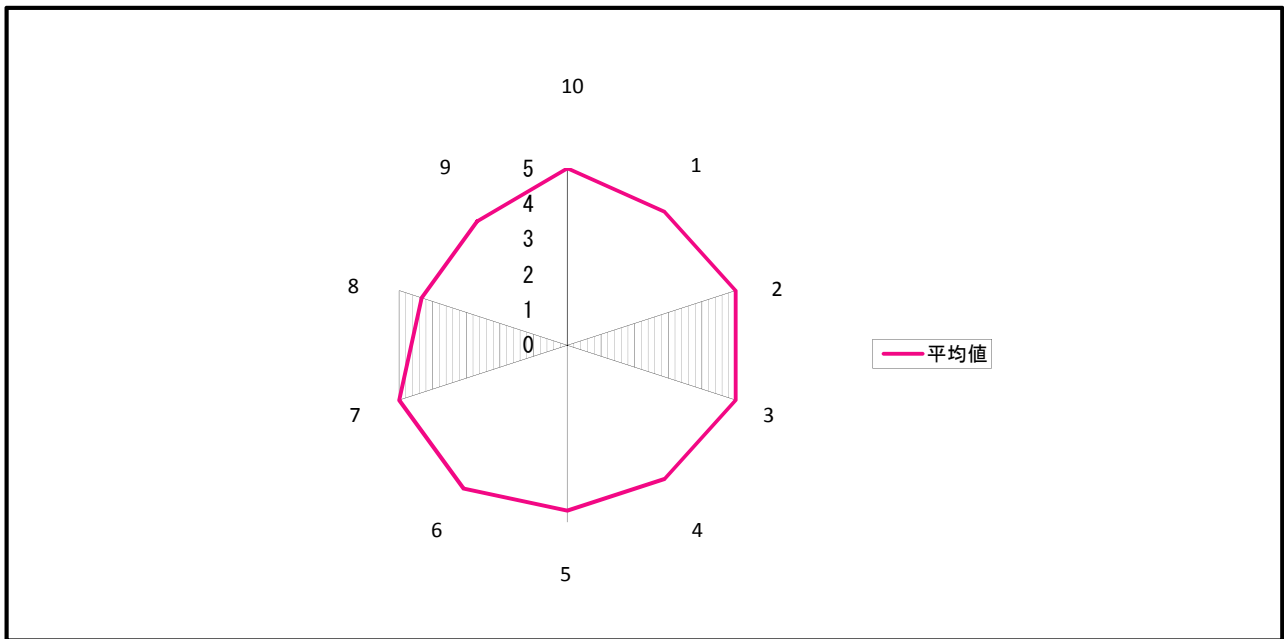
## 教員のコメント

本授業では、語彙の計量や語の意味など様々なトピックについて理解を深めることで、日本語学習者に対して適切な語彙指導ができるようになることを目標とした。授業評価アンケートの自由記述の項目では、「先生は毎回、非常に詳しく説明してくださったり、学生の質問に丁寧に答えてくださったりと、非常に良いご指導をしてくださいました。」「発表後のフィードバックの時間もしっかりあり、反省点から学ぶことも多かった。」「評価方法等も明確に示されていたので、より積極的に授業に取り組むことができた。」など、授業方法を高く評価する声が多く見られた。一方で、「人数に比べると教室がせまかった。他コースでも受講を希望している人がいるので、できれば来年度は広いところにしてほしい。」「発表会の振り返りに関して、確かに勉強になることはたくさんあったのですが、少し細かすぎて、聞いているうちに心が折れそうになりました。」など、受講者に対する他の側面での配慮を求める声も出ていたため、今後の参考としたい。

# 結果報告書

授業科目名 国語科授業演習  
 評価実施日 平成29年2月9日  
 担当教員名 幾田 伸司      回答者数 3 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2	1				4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2	1				4.7
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2	1				4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	3					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1	2				4.3
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	2				4.3
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3					5.0



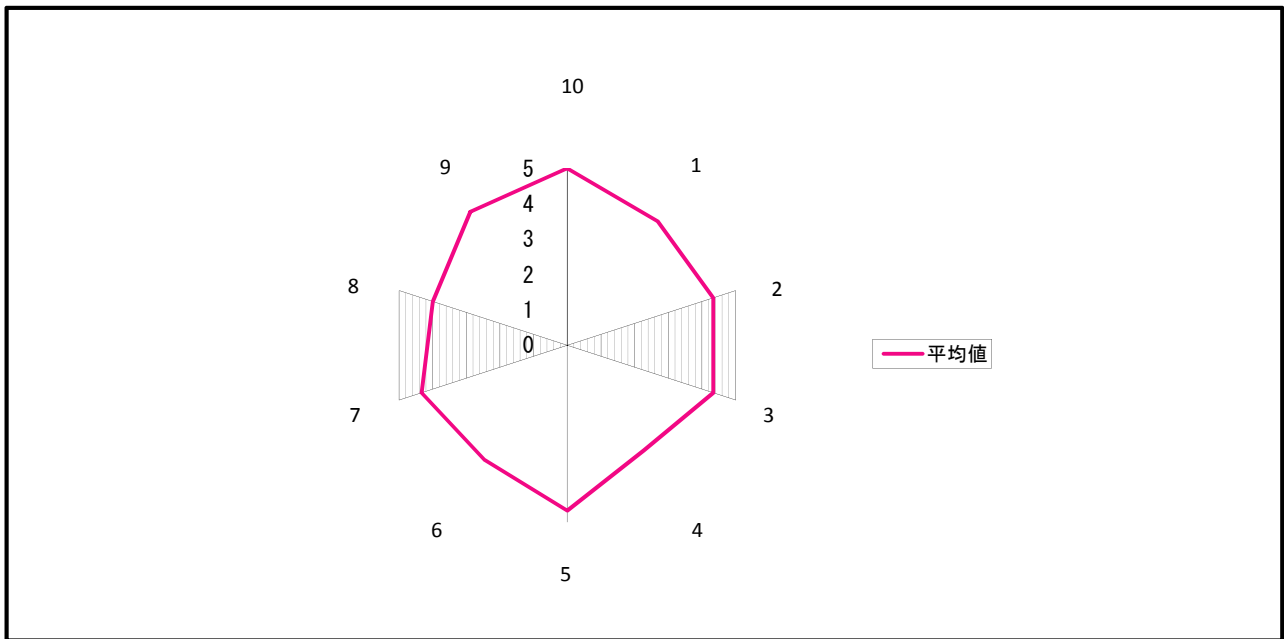
## 教員のコメント

例年同様、演習科目で受講者が少なかったこともありますが、全体的に高評価をしていただきました。受講者のコメントでは少し受動的だったという自己評価もありましたが、討議場面で考えを求めるとみな自分の考えを述べられていましたし、私としては議論が深まらなかったという感じは受けていません。少人数だったとはいえ、それぞれの持っている国語科授業に対する知識や考え方が多様でしたので、ストレートの受講生は現職の方に比べると聞く側にまわりがちだったと感じられたのかもしれませんが。受講者の背景知識の多寡は、私からの説明を多くするなどして配慮しているつもりでしたが、十分ではなかったということだと思います。内容や総合評価としては満足できたと感じてもらえたようなので、関連情報の提示や討議の進め方などは、次年度に向けての課題として今後も研鑽していきたいと考えています。

# 結果報告書

授業科目名 国語科教材開発演習  
 評価実施日 平成29年2月6日  
 担当教員名 余郷 裕次      回答者数 3 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	1	2					4.3
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1	2					4.3
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	2					4.3
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。		2	1				3.7
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2	1					4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1	1	1				4.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	1	2					4.3
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1	1	1				4.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	1					4.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3						5.0



## 教員のコメント

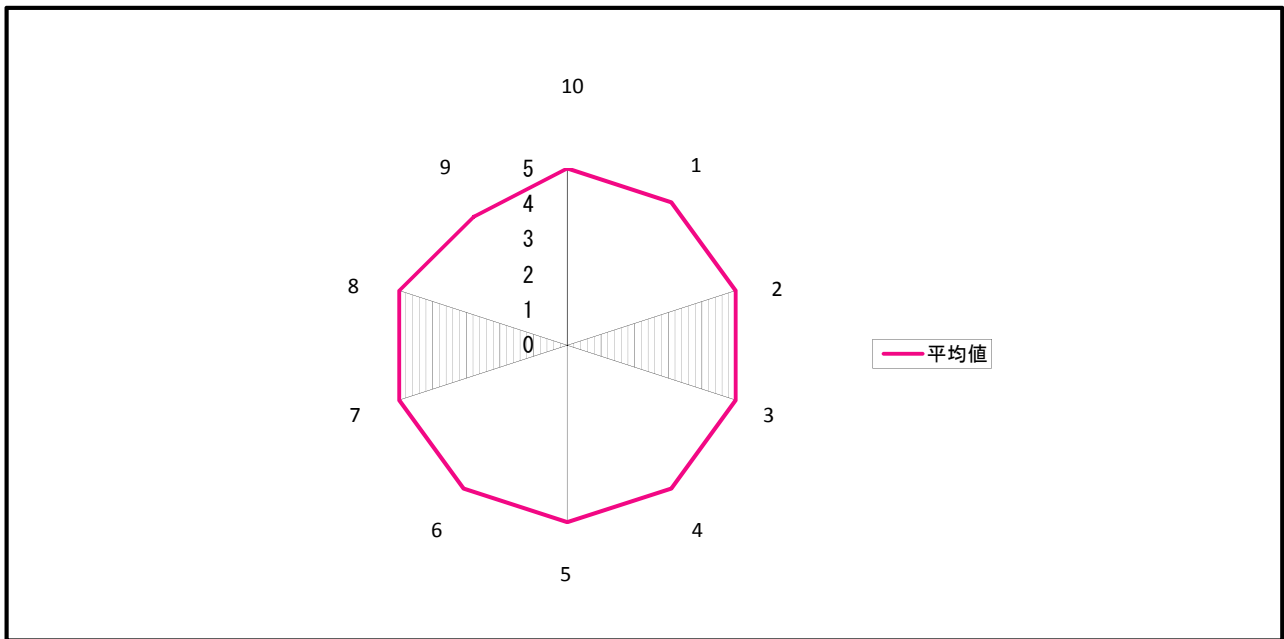
「総合評価」は、5.0の高得点評価であった。この結果は、受講者数が3名と少なく、授業者に対する遠慮から、好意的な評価をしてくれたこと、もともとこの分野に興味・関心のあった受講者であったことによるものと考えられる。受講生が5名以下のような場合、アンケートの記入者が特定できてしまい、アンケート自体が不適切とも考えられる。できれば受講生10名程度を確保したい。

受講生のコメントとして、「各自が研究しているテーマを発表し、整理できる点」、「自分が行っている研究分野とはまた違った分野の研究について知ることができ、勉強になった。」、「他の人が行っていた模擬授業に意欲的に参加したり、自分の発表もきちんと事前準備して取り組めたから。」などがあった。受講者3名であったため、各自が自身の研究テーマについて、じっくり取り組めたことと、他の人の研究テーマについても理解を深めることが出来たというメリットがあった。今後も、受講生の研究やその発表の支援になるような演習を心がけたい。

# 結果報告書

授業科目名 英米文化研究Ⅲ(言語文化研究)  
 評価実施日 平成29年2月13日  
 担当教員名 宮崎 隆義 回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	2					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	1				4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2					5.0



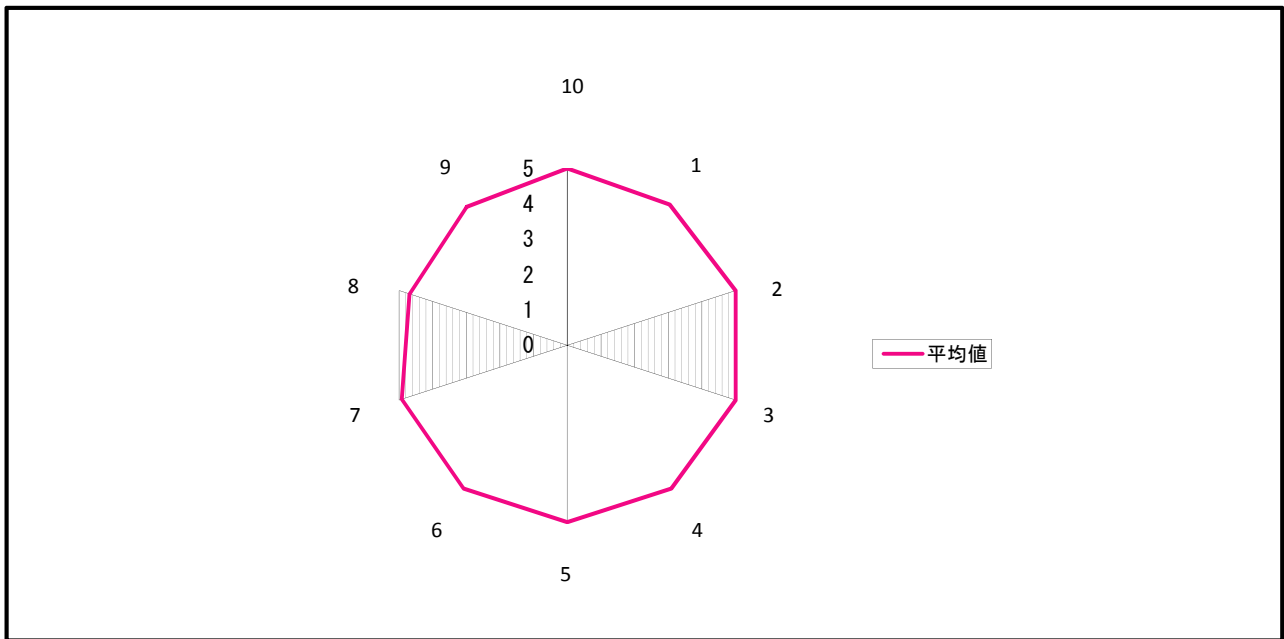
## 教員のコメント

受講生がふたりだけとなったが、ふたりとも非常に熱心で、意欲的であるので充実した授業となっている。受講生の専門性を考えると内容がやや専門的すぎるきらいがあるが、その点については、ふたりの将来のことも見据え、ふたりが教員として授業運営に臨んだ時、いかにこうした教材がヒントになるかをともに考えるようにしている。ややレベルの高いものを扱うことによって、柔軟に教材のレベルを考慮することができるということも一緒に確認している。授業に対して高い評価をもらったことには感謝しており、さらに充実した内容を考えてゆきたい。ふたりとも他の授業や教員採用試験で忙しいので、自主的な学習に手が回らないことがうかがえるが、ふたりの状況に対して柔軟に対応している。

# 結果報告書

授業科目名 学習英文法演習 I  
 評価実施日 平成29年2月8日  
 担当教員名 眞野 美穂 回答者数 13 人

質問項目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	12	1					4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	13						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	13						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	13						5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	13						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	13						5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	12	1					4.9
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	9	4					4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	11	2					4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	13						5.0



## 教員のコメント

授業評価の平均点と、自由記述からも内容面、進め方ともに問題はなく、学生は積極的に取り組んだ様子が取り組めて安心している。特に授業の中で話し合い活動を取り入れていたことも、有意義なものとなっていることがよく分かったため、今年度以降も続けて行いたいと考えている。

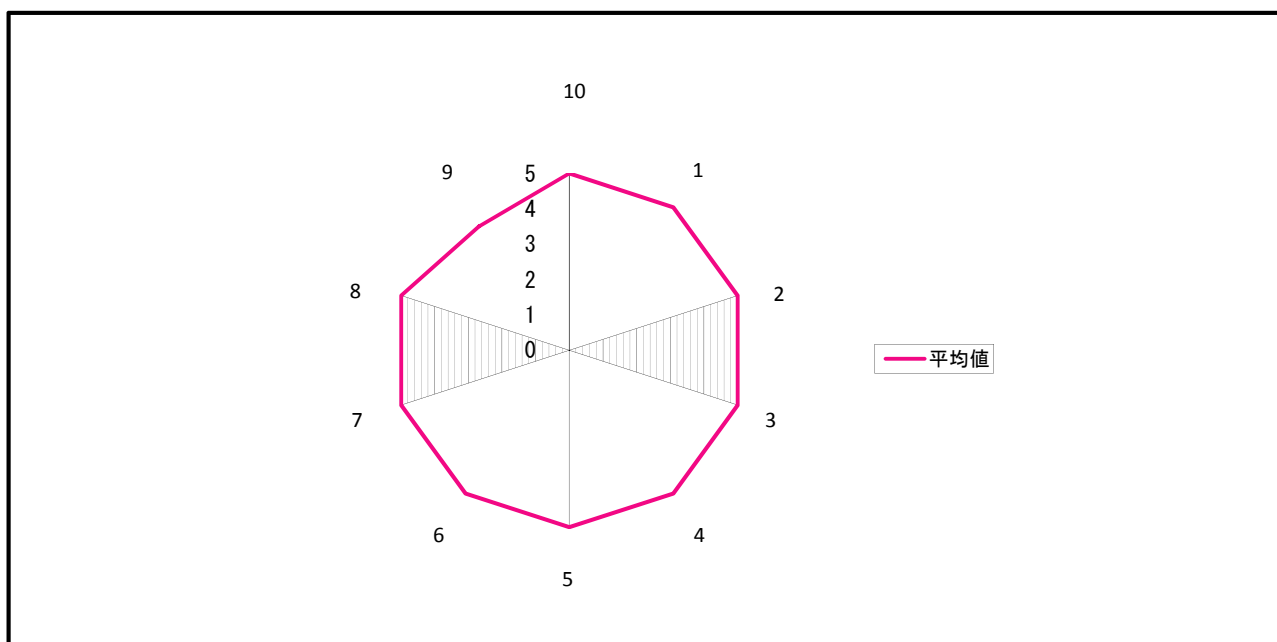
内容に関しては少し難しいところもあったようであるが、説明を加えることで理解に問題はなかったようである。教育との関連を考えることも今後も続けていきたいと考えている。

全体的に見直しが必要な点は見当たらないが、履修生を見ながら改善できる箇所を今後も考え続けたいと思う。

# 結果報告書

授業科目名 学習英文法演習Ⅱ  
 評価実施日 平成29年2月10日  
 担当教員名 藪下 克彦      回答者数 3 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	3					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	3					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2		1			4.3
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3					5.0

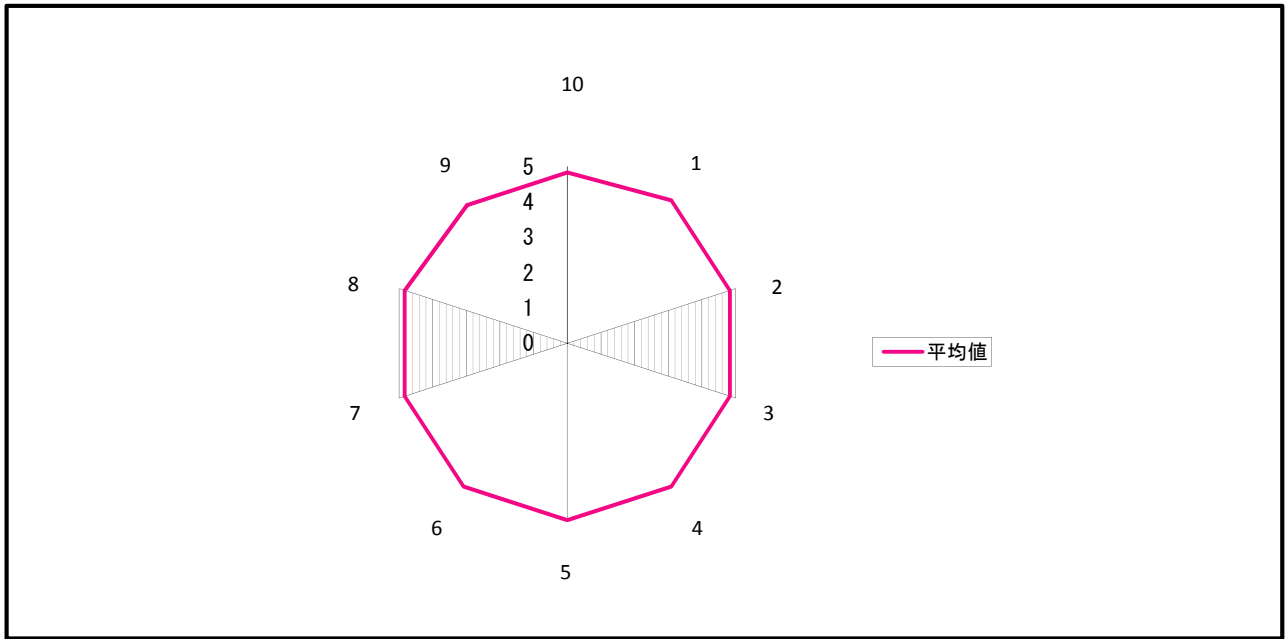


教員のコメント

# 結果報告書

授業科目名 アカデミック・ライティング I  
 評価実施日 平成29年2月8日  
 担当教員名 吉川 エリザベス      回答者数 6 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	6						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5	1					4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	1					4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	6						5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	6						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	6						5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	5	1					4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	5	1					4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	1					4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	5	1					4.8



## 教員のコメント

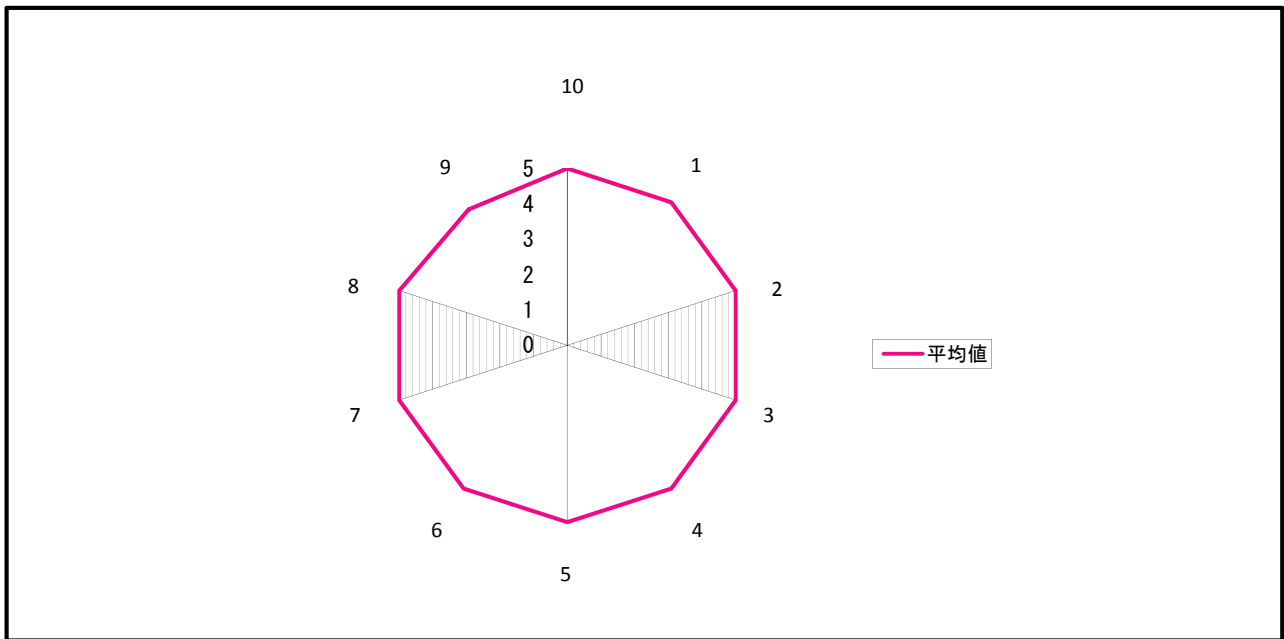
Students seem to appreciate the educational value of this course. I will strive to continue to ensure that the course is seen as relevant to students' practical competence for teaching. That handouts are appropriate for the course and students' levels, and that I encourage students to actively participate in the class.



# 結果報告書

授業科目名 小学校英語内容構成論  
 評価実施日 平成29年2月7日  
 担当教員名 畑江 美佳      回答者数 4 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	4					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	4					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	4					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	1				4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4					5.0



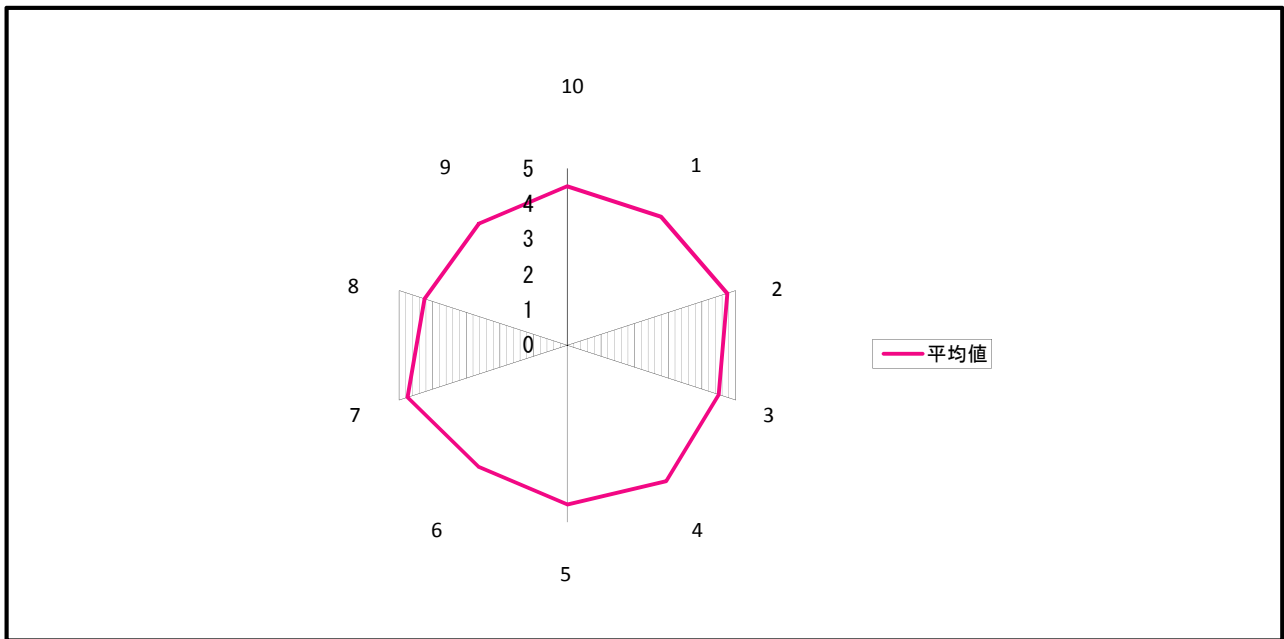
## 教員のコメント

自身の授業の取り組みについて4を付けた学生が一名だけで、他はすべての項目において5であったことから、学生は、本授業で学ぶことが多くあり、授業の進め方も、アクティブ・ラーニングを取り入れて、主体的に学ばせる方法をとったため、学生に受け入れられたと考えられる。自由記述では、「活発な意見交換ができたことや「最新の英語教育情報が得られた」ことなどの記述があり、本授業に満足したことが表れていた。

# 結果報告書

授業科目名 初等中等英語科教育演習 I  
 評価実施日 平成29年2月10日  
 担当教員名 石濱 博之 回答者数 4 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2	2				4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	1				4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	2				4.5
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3	1				4.8
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2	2				4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2	1	1			4.3
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	3	1				4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2	1	1			4.3
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	3				4.3
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2	2				4.5



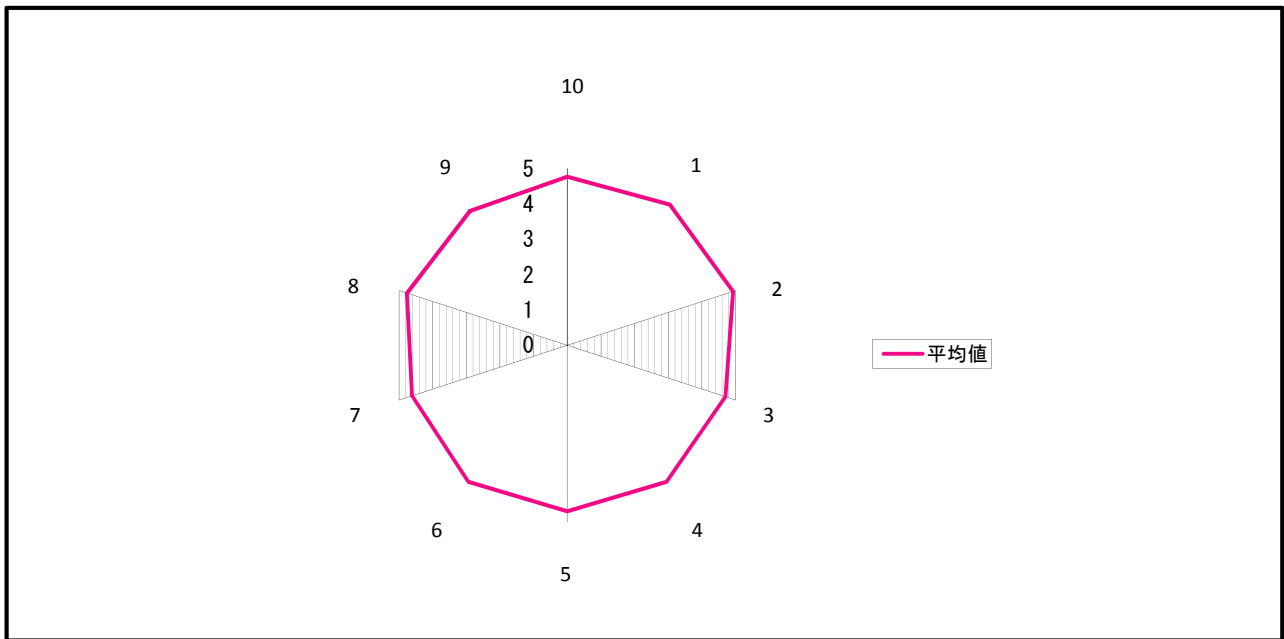
## 教員のコメント

4名の平均点の評価と実際のアンケート調査を見て、4名ですから、各々の受講生がどのような取り組んだかを見ることができた。概ね、欠席することなく受講した学生は、評価が高いことがわかった。この授業では、これから修士論文を書くにあたり、評価についての基本的な考え方(英文)とSPSSでデータを使った基本的な処理の仕方を提供した。評価に関する英文を読ませたが、英語を専門とする大学院生ならば、英文の評価の基本的な概念を読んでもらいたかった。真剣に取り組んだ受講生は、英文を読んできた。SPSSの操作の仕方は、英語教育でも統計を使って論じる場合があるので、その仕方を提供した。初めてSPSSを使う受講生が多く、どの程度統計処理をできるかが今後の指導のあり方につながると思った。SPSSの操作は、授業ばかりでなく、自分でやってみることを促すべきであった。英語教育の論文等を書く場合を想定していたが、本当にSPSSを活用して、基本的なデータ処理を身につけてほしいと、学生の評価を見て思っている。更に、その授業の内容を精選したい。

# 結果報告書

授業科目名 初等中等英語科教育演習Ⅱ  
 評価実施日 平成29年2月13日  
 担当教員名 山森 直人                      回答者数 13 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	12	1					4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	12	1					4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	9	4					4.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	11	1	1				4.8
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	10	2	1				4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	11	1	1				4.8
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	10	1	2				4.6
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	10	3					4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	9	4					4.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	10	3					4.8



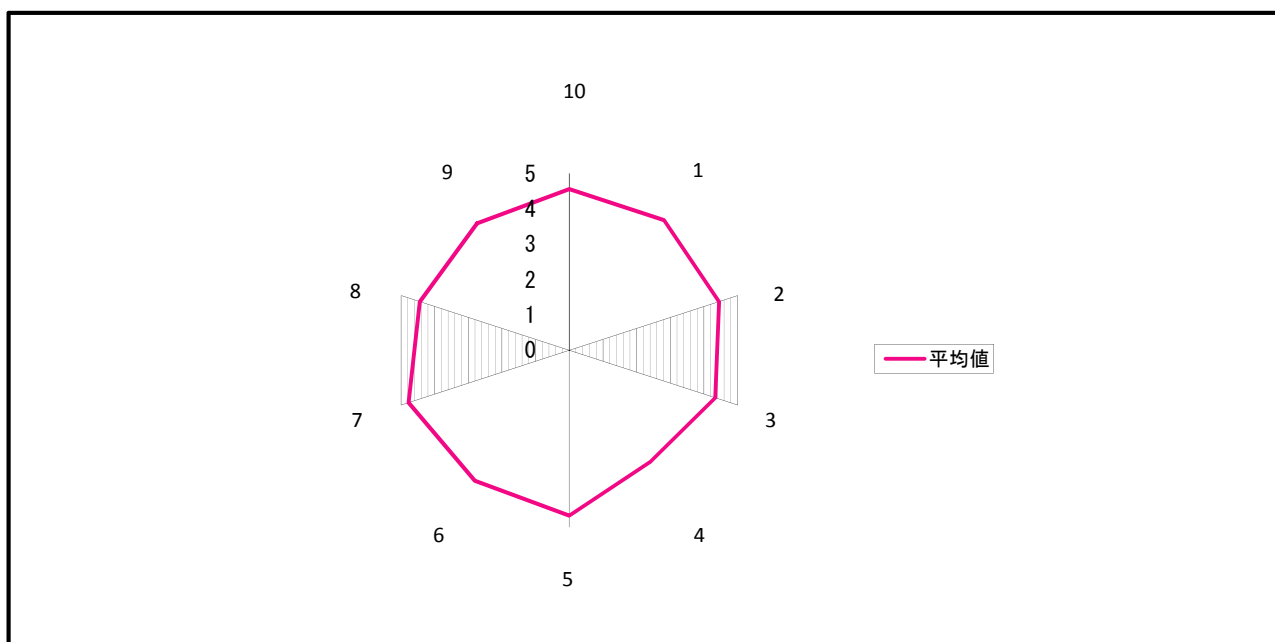
## 教員のコメント

(1)から(9)の全ての項目が4.5以上であり、総合評価(10)が4.8であることをふまえると、本授業は受講生より高い評価を得たと思う。  
 授業評価アンケートの自由記述欄には、本授業の良かった点として、(授業中の対話やネット掲示板を用いて)受講生同士の意見や考え等を共有する場を設定したり、授業実践の映像を視聴する機会を設けたり、様々な資料を提示したりしたことが挙げられており、その結果、高評価につながったものと考えられる。  
 高評価を得たものの、授業者としては、授業で扱う内容のなかに、できるだけ新しい情報を取り入れていきたいという思いがあり、今後改善を図りたい。

# 結果報告書

授業科目名 教科内容構成(英語科)  
 評価実施日 平成29年2月7日  
 担当教員名 藪下 克彦,前田 一平,真野 美穂 回答者数 9 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	5	4				4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5	3	1			4.4
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	4	1			4.3
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2	5	1	1		3.9
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	6	3				4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	6	2	1			4.6
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	7	2				4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	5	3	1			4.4
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	3	1			4.4
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	6	2	1			4.6

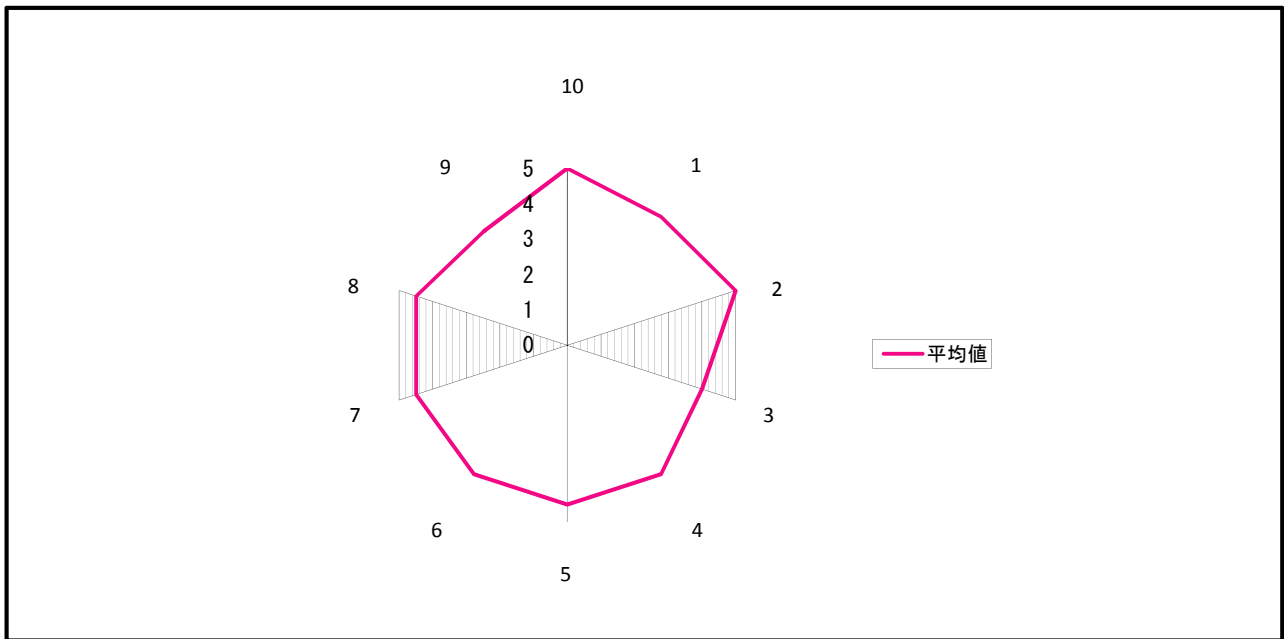


教員のコメント

# 結果報告書

授業科目名 歴史学研究 I  
 評価実施日 平成29年12月26日  
 担当教員名 川岡 勉                      回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	1	1				4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。		2				4.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	1	1				4.5
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	1	1				4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1	1				4.5
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	1	1				4.5
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1	1				4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。		2				4.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2					5.0



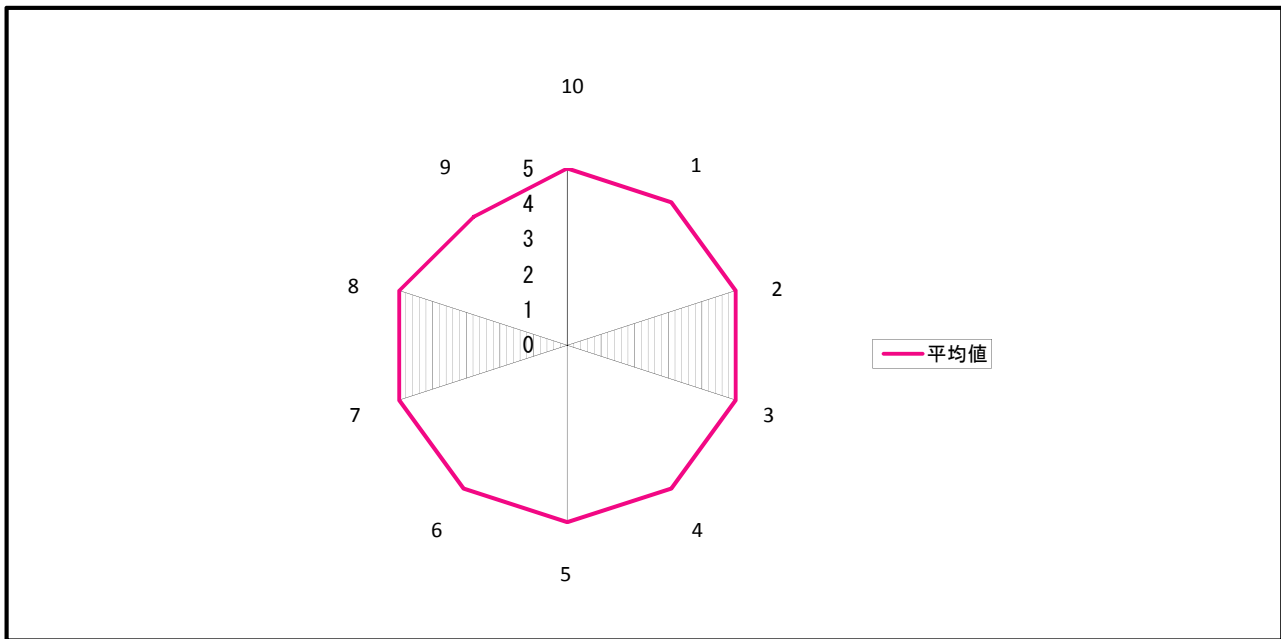
## 教員のコメント

受講生は2人とも熱心に授業を聴講し、専門的な内容であったにもかかわらず、理解力も高かった。歴史事象のもつ意味や背景について、考察を深めて欲しい。

# 結果報告書

授業科目名 歴史学演習 I  
 評価実施日 平成29年2月13日  
 担当教員名 長谷川 賢二      回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	2					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	1				4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2					5.0



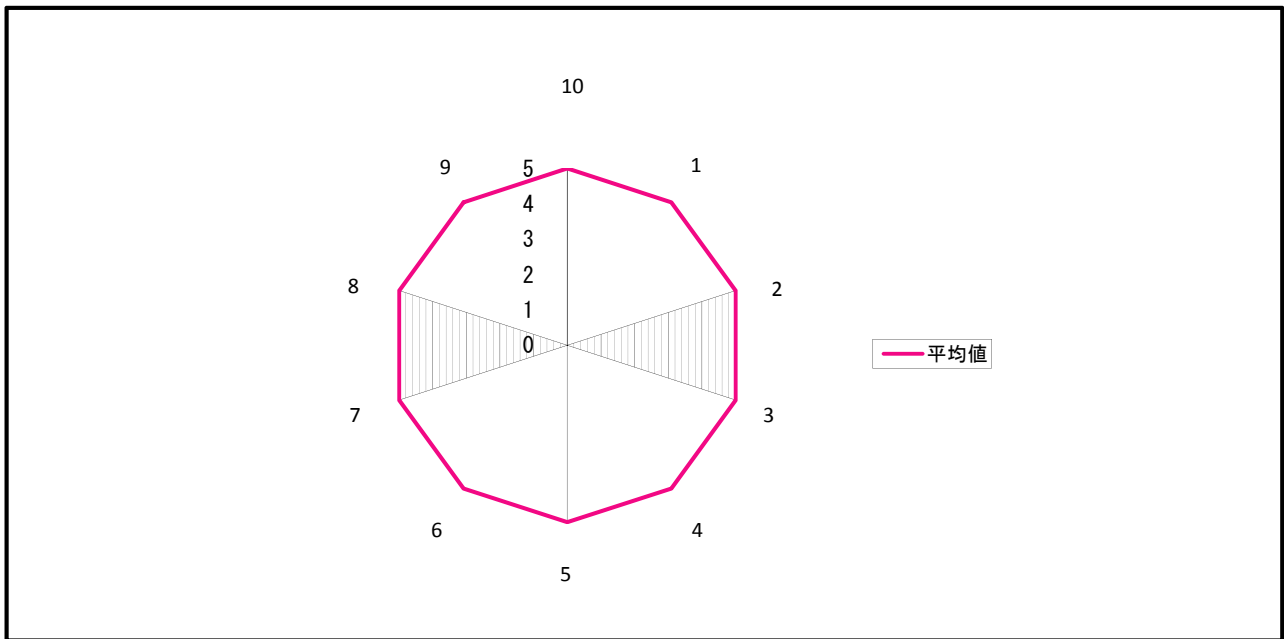
## 教員のコメント

受講生が少なく、しかも、演習テーマの中世史を研究している者がいなかったため、かなり負担になったと思います。専門は異なっても、社会科または地歴科の教員になったときに役に立つよう知識を吸収してもらえるよう努めたつもりです。それぞれに課題をこなしながらテキストを輪読したことが、今後の糧になることを願っています。

# 結果報告書

授業科目名 歴史学演習Ⅱ  
 評価実施日 平成29年2月9日  
 担当教員名 町田 哲                      回答者数 1 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	1						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	1						5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	1						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1						5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	1						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1						5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	1						5.0



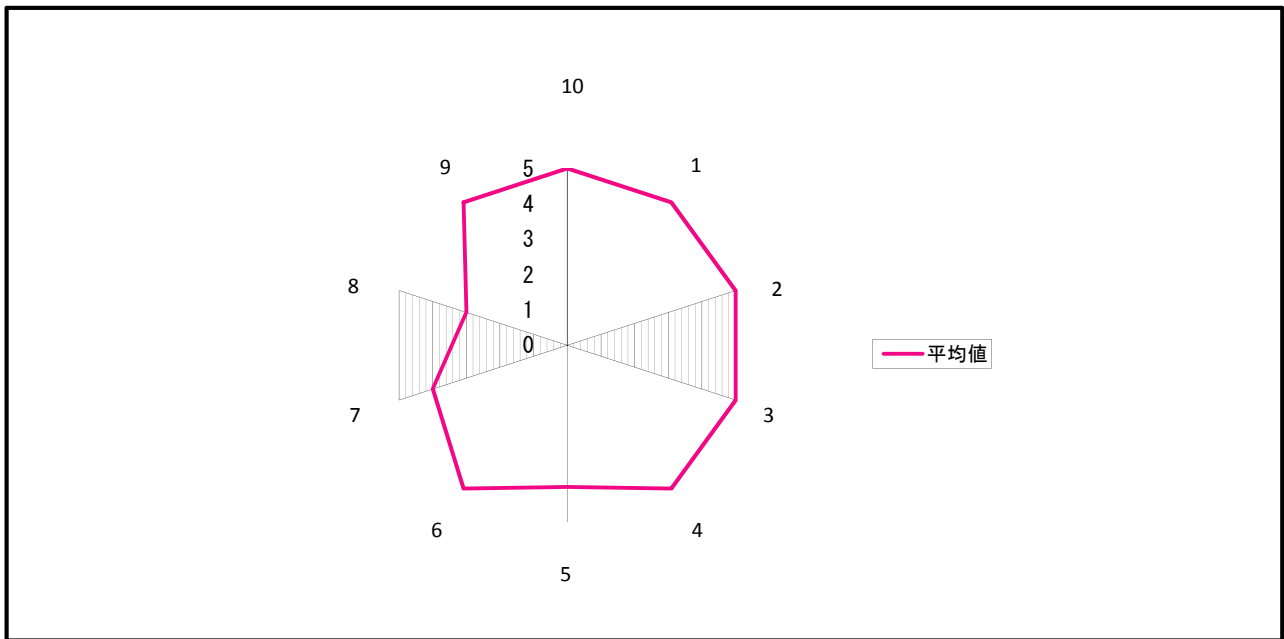
## 教員のコメント

本年度の歴史学演習Ⅱは、残念ながら受講生が1名だけであった。近代日本の史的展開、とりわけアジア・太平洋戦争期に関する研究文献を講読した上で、当該地域の歴史資料を丁寧に読み、そこからわかることを考えていくという内容・スタイルをとった。これによって、近代日本の史的展開を、統制する側と地域社会の側の両面から、複眼的に理解する力量を獲得することをめざした。受講生もその目標にむけて、予習・復習をしっかりと行い、授業に対しても積極的に参加し、概ね目標を達することができた。

# 結果報告書

授業科目名 法学・政治学演習  
 評価実施日 平成29年2月7日  
 担当教員名 麻生 多聞      回答者数 1 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	1						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	1						5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。		1					4.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1						5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。		1					4.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。			1				3.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1						5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	1						5.0



## 教員のコメント

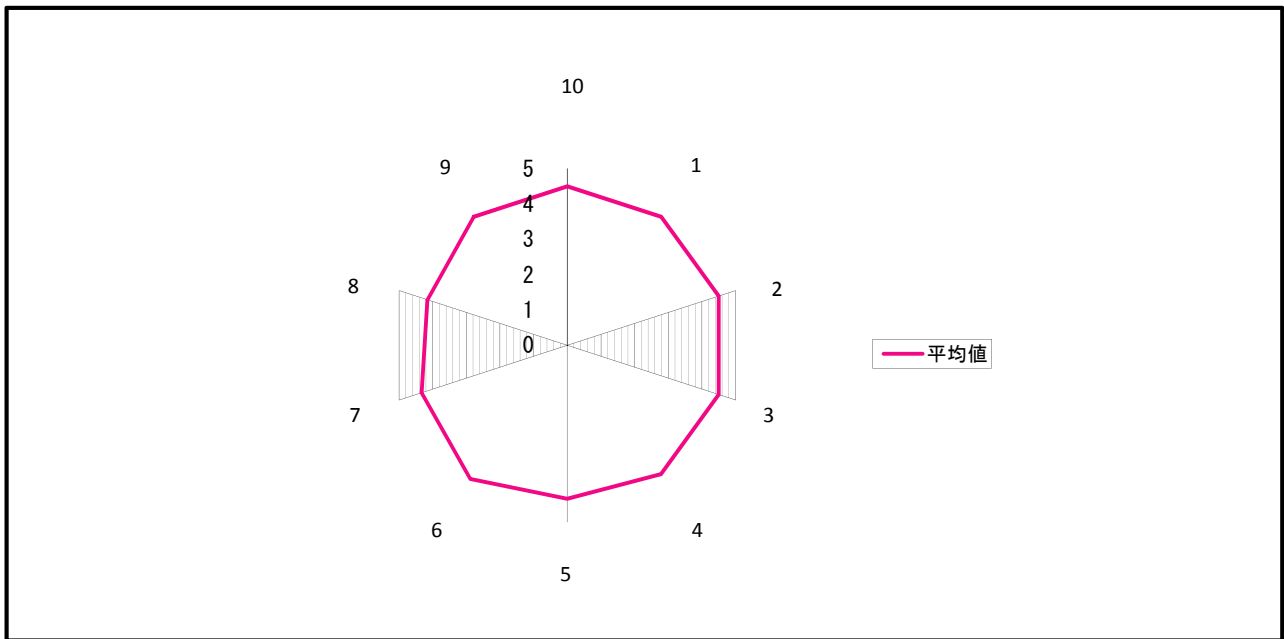
今年度は履修者が1名ということで、とてもアットホームな雰囲気で行われました。当初は『基本的人権の事件簿』(有斐閣)というテキストを用いましたが、法学専門ではない学生さんにはやや難易度が高いということで、途中から『リアル憲法学』(法律文化社)にテキスト変更することになりました。演習に際しては予習をしっかりとこなしてくれていることがわかり、また質問も積極的に出してくれたため、やりがいの感じられる時間となったことに感謝しています。ただ一点、「板書や視聴覚機器の使用」について、「ホワイトボードなどを活用してもらいたい」との要望があったことについては、反省をしています。履修者1名ということで、講義室では広すぎるため場所を研究室に変更した結果、研究室にホワイトボードなどの板書設備がないため、ご不便をおかけしてしまったようです。今後は履修者が少数であっても、やはり板書を活用できる講義室を使用することにはしたいと考えています。



# 結果報告書

授業科目名 現代の諸課題と社会認識教育  
 評価実施日 平成29年2月13日  
 担当教員名 井上 奈穂                      回答者数 6 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3	3				4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4	1	1			4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	1	1			4.5
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3	3				4.5
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2	4				4.3
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4	2				4.7
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	3	2	1			4.3
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2	3	1			4.2
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	1	1			4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4	1	1			4.5



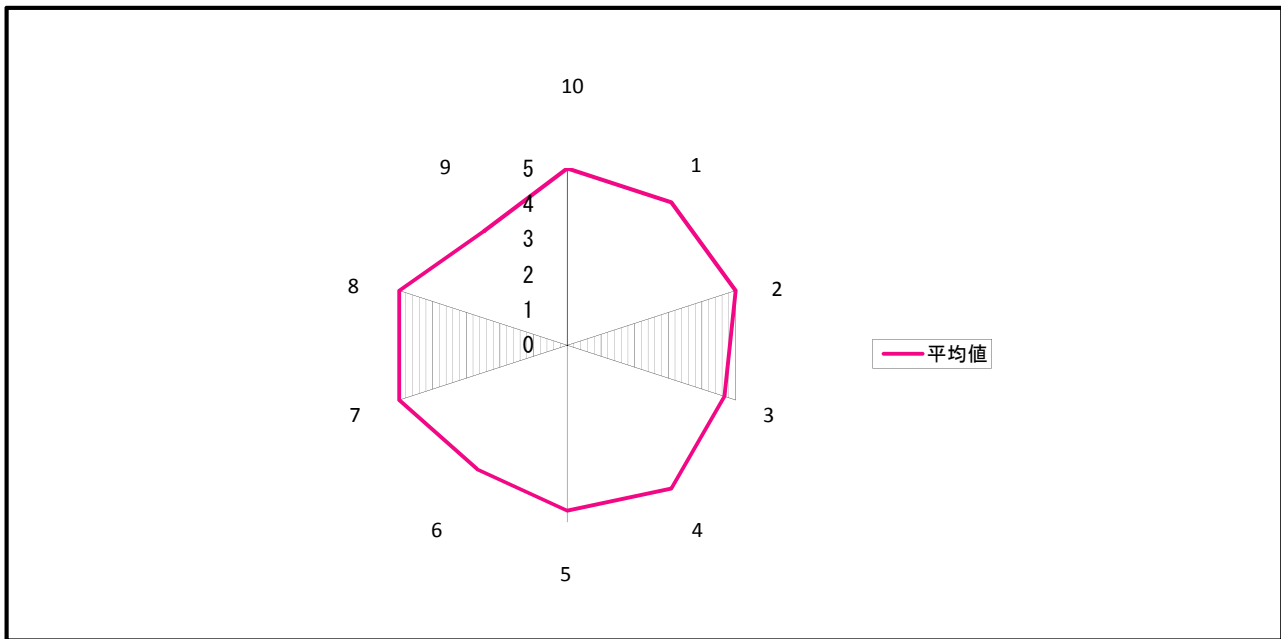
## 教員のコメント

概ね満足しているといえる。課題としては、授業を進みといえる。また、今回の授業ではほとんど板書を使わずパワーポイントを使って行ったが、授業の中で必要に応じて板書を活用することも考える必要があるのではないかと考える。29年度はこの反省を踏まえ、より良い授業を目指したい

# 結果報告書

授業科目名 社会科教材開発演習 I (地理領域)  
 評価実施日 平成29年2月3日  
 担当教員名 伊藤 直之      回答者数 3 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	1				4.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2	1				4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1	2				4.3
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	3					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。		3				4.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3					5.0



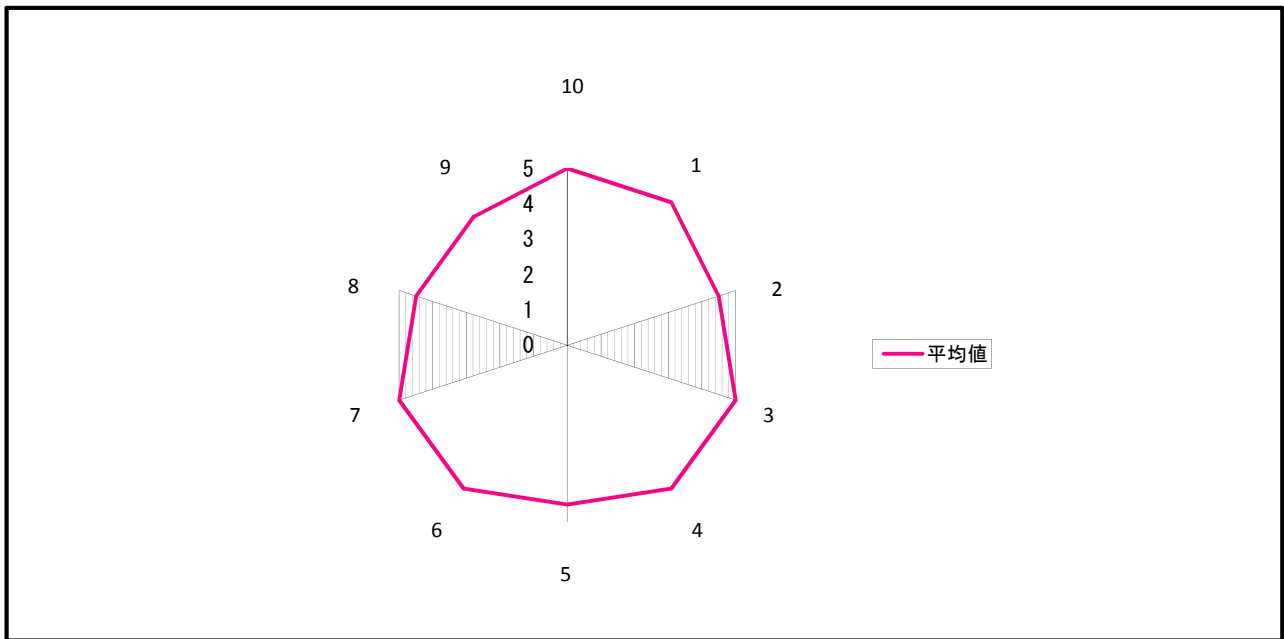
## 教員のコメント

受講者がわずか3名であったため、学生も回答・評価しにくい側面があったように思われる。  
 とはいえ、質問項目9番目「あなたの授業への取り組みについて」が、3人すべてが最高評価を付けていない。  
 この原因の一端は授業者にもある。主体的・積極的な取り組みを促すような授業計画と指導を心掛けたいと思う。

# 結果報告書

授業科目名 社会科教材開発演習Ⅱ(歴史領域)  
 評価実施日 平成29年2月16日  
 担当教員名 梅津 正美 回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1	1				4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	1	1				4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	2					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1	1				4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	1				4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2					5.0



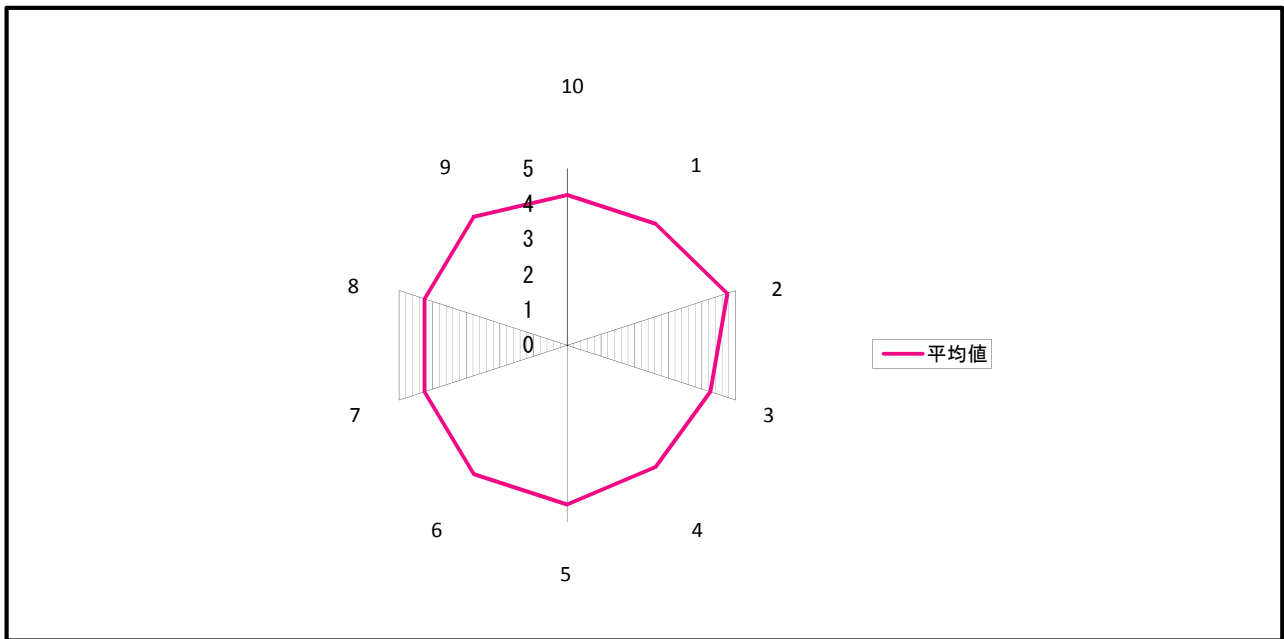
## 教員のコメント

平成28年度は受講者が2名であり、本授業においてはこれまでで最も少数であった。そのため、当初の歴史授業論の類型化と特質・限界に関する分析・解釈・発表を個々の受講者に課す従来の演習スタイルを変更し、講義回の中での模擬授業の実践と合評、また「太平洋戦争」を対象とする授業づくりを、教員と受講生で共に行った。少人数ながら学修課題に対する受講生の取組は意欲的で熱心であり、質の高い単元開発を行うことができた。そのような取組の成果が、受講生による授業評価の結果に表れていると思われた。

# 結果報告書

授業科目名 代数学演習  
 評価実施日 平成29年2月10日  
 担当教員名 平野 康之      回答者数 4 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	1	3				4.3
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	1				4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	3				4.3
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	1	3				4.3
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2	2				4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2	2				4.5
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	1	3				4.3
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1	3				4.3
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	2				4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	1	3				4.3



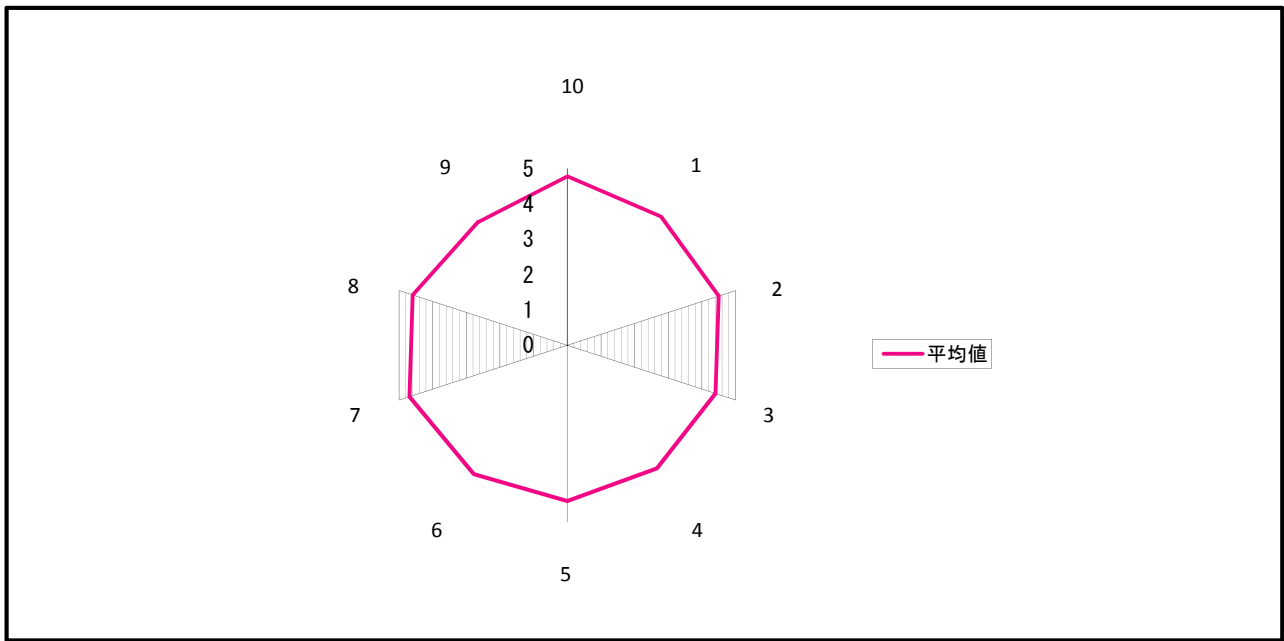
## 教員のコメント

すべての平均値が4.3以上であり、「(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった」が4.8、「(5)授業の進む速さは、適切であった」、「(6)受講生に分かりやすく説明した」という問いに対して評価の平均値が4.5であったので、この授業が受講者に一律の評価は受けていると思われる。総合評価として「(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う」という問いの平均値が4.3であったので大多数の受講者が概ね、この授業に満足しているものと思われるが、参考文献の紹介や資料の適切な配布、適切な板書や視聴覚機器の適切な使用に関して今後、改善していきたい。

# 結果報告書

授業科目名 幾何学研究  
 評価実施日 平成29年2月21日  
 担当教員名 松岡 隆                      回答者数 10 人

質 問 項 目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	6	3	1			4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5	5				4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	4	1			4.4
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	5	3	2			4.3
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	5	4	1			4.4
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5	5				4.5
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	7	3				4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	7	2	1			4.6
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	5	1			4.3
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	7	2				4.8



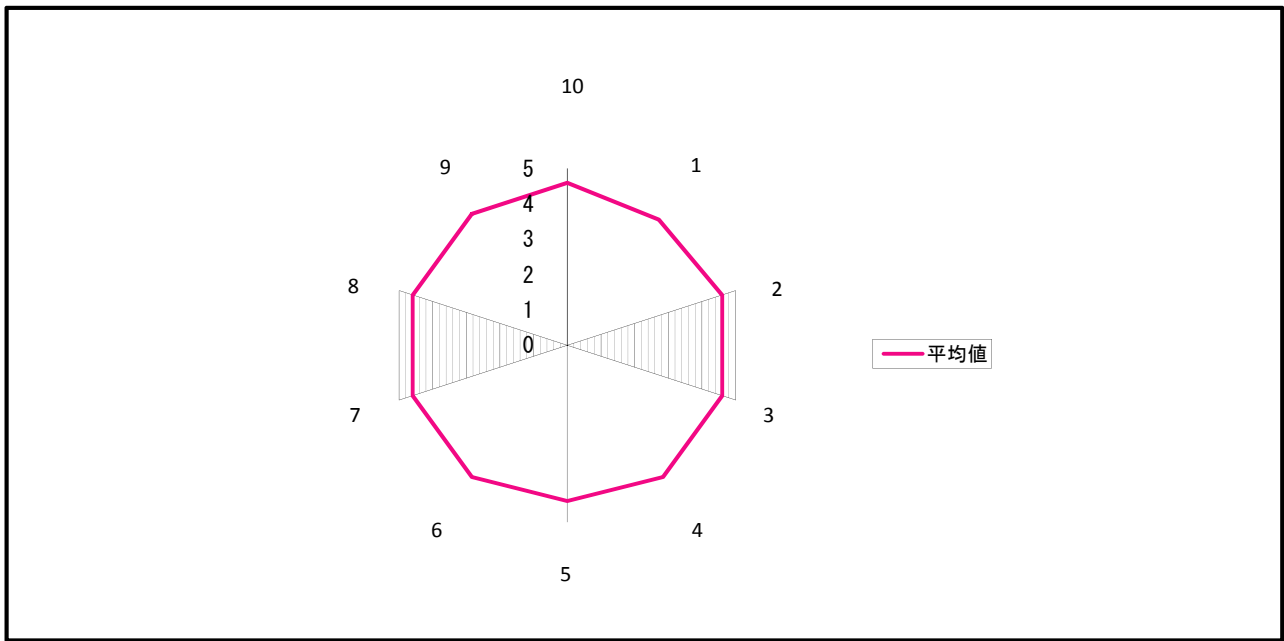
## 教員のコメント

各項目の評価平均値が4.3から4.7の間で、総合評価が4.8であり、高い評価が与えられていると考える。自由記述の「よかった点」欄には以下の回答があった。「ほとんどの内容が未知であったので楽しかった。」「新しい発見がたくさんあって非常に面白かったです。」「実践的な授業だったので、自分自身で内容理解がすぐに来たところ。楽しかった。」「おもしろかったです。小学校、中学校で使えるところはないか考えていきたいと思った。」「視覚教材が多かったところ」「おりづるやモアレといった日常的なものを幾何学的に捉える視点を得られたこと」。幾何と身近な世界を結びつけるという授業の趣旨がうまく伝わっていると感じられる。授業の質問9の理由としては「授業の内容に興味がかれた。」が挙げられていた。また、改善点については回答が無かった。

# 結果報告書

授業科目名 幾何学演習  
 評価実施日 平成29年2月21日  
 担当教員名 松岡 隆      回答者数 5 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2	3				4.4
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	2				4.6
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	2				4.6
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3	2				4.6
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2	3				4.4
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3	2				4.6
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	3	2				4.6
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3	2				4.6
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	2				4.6
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3	2				4.6



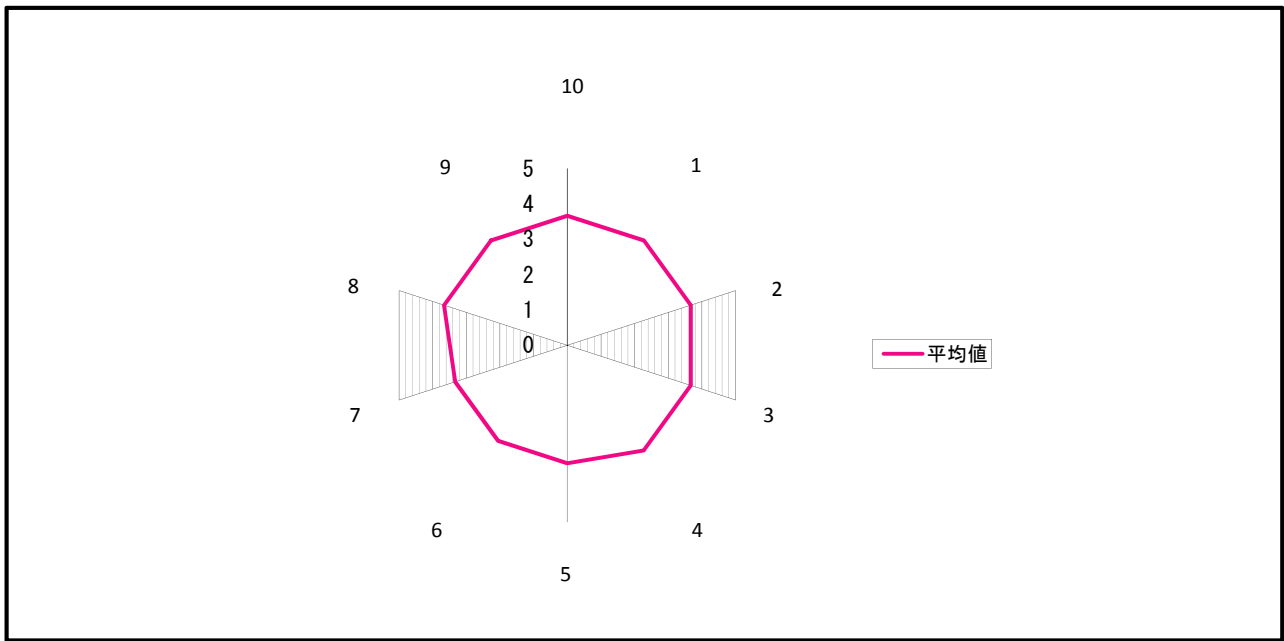
## 教員のコメント

各項目の評価平均値が4.4から4.6の間で、総合評価が4.6であり、高い評価が与えられていると考える。自由記述の「よかった点」欄には回答「授業に参加するたびに作品を作って考えてのくり返しが非常に楽しかった」があった。変形を用いた幾何学の遊具づくりが中心内容であったが、この回答にその効果が一端が見られる。改善点については回答が無かった。

# 結果報告書

授業科目名 解析学研究  
 評価実施日 平成29年2月9日  
 担当教員名 成川 公昭      回答者数 3 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。		2	1			3.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。		2	1			3.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。		2	1			3.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。		2	1			3.7
	(5)授業の進む速さは、適切であった。		1	2			3.3
	(6)受講生に分かりやすく説明した。		1	2			3.3
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。		1	2			3.3
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。		2	1			3.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。		2	1			3.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。		2	1			3.7



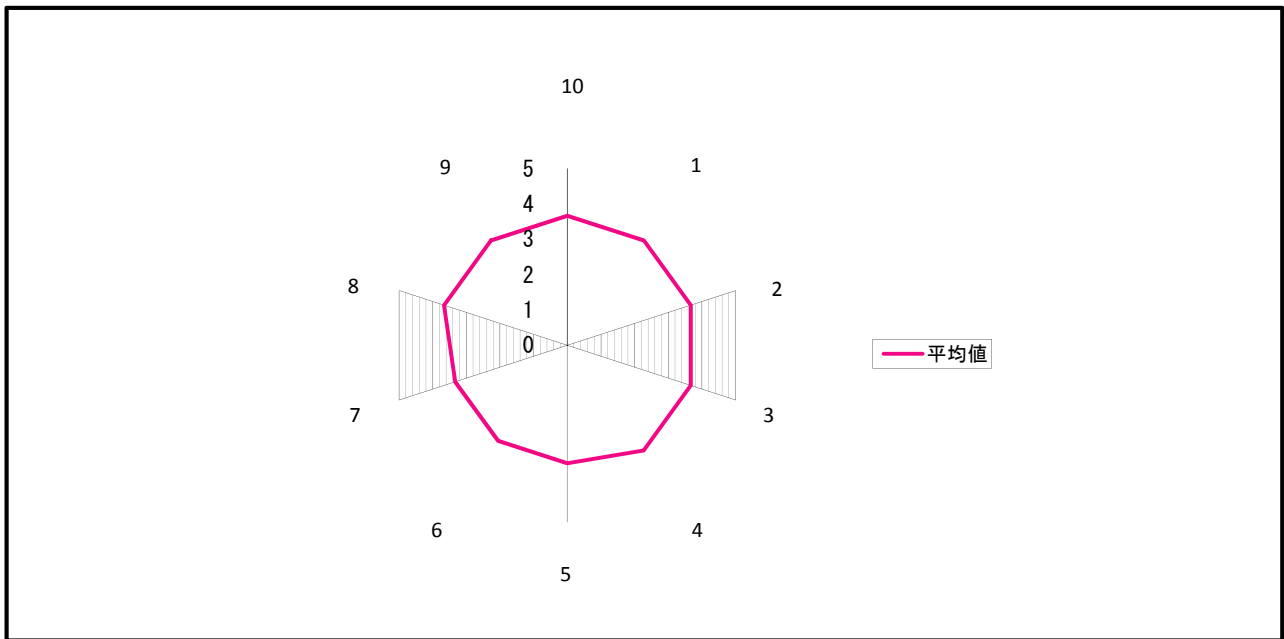
## 教員のコメント

今年度の解析学研究の受講生は3名のみであり、丁寧に授業を進めることが可能と思ったため、例年に比べその内容をやや高いレベルにすると同時に演習問題を学生に課題として与え、授業中に発表させる形態をとった。例年通り、見方を変えれば中・高等学校で学ぶ初等幾何で説明できる内容からはじめ、続いて関数空間における極値問題へと話を進めた。アンケートを見ると、全ての項目において3または4の評価で平均値が3.7と、例年に比べやや低い評価がなされている。確かに後半部分においては複雑な微積分を駆使し、対応する微分方程式を導出し、それを解くといったハードな内容になってしまい、やや消化不良の部分があったのかもしれない。確かに、記述欄において、3名のうちの1名の学生が、「高度な内容であったが、例題が多くて命題の使用法がわかりやすかった」と記述している。しかし一方で、その高度な内容を、ゆっくりと例題で示すことによりある程度の理解が得られていたと感じることのできる意見であった。学生の反応をじっくりと見ながら進めた授業であったが、まだまだ不十分であったと反省させられる。

# 結果報告書

授業科目名 解析学演習  
 評価実施日 平成29年2月9日  
 担当教員名 成川 公昭      回答者数 3 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。		2	1				3.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。		2	1				3.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。		2	1				3.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。		2	1				3.7
	(5)授業の進む速さは、適切であった。		1	2				3.3
	(6)受講生に分かりやすく説明した。		1	2				3.3
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。		1	2				3.3
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。		2	1				3.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。		2	1				3.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。		2	1				3.7



## 教員のコメント

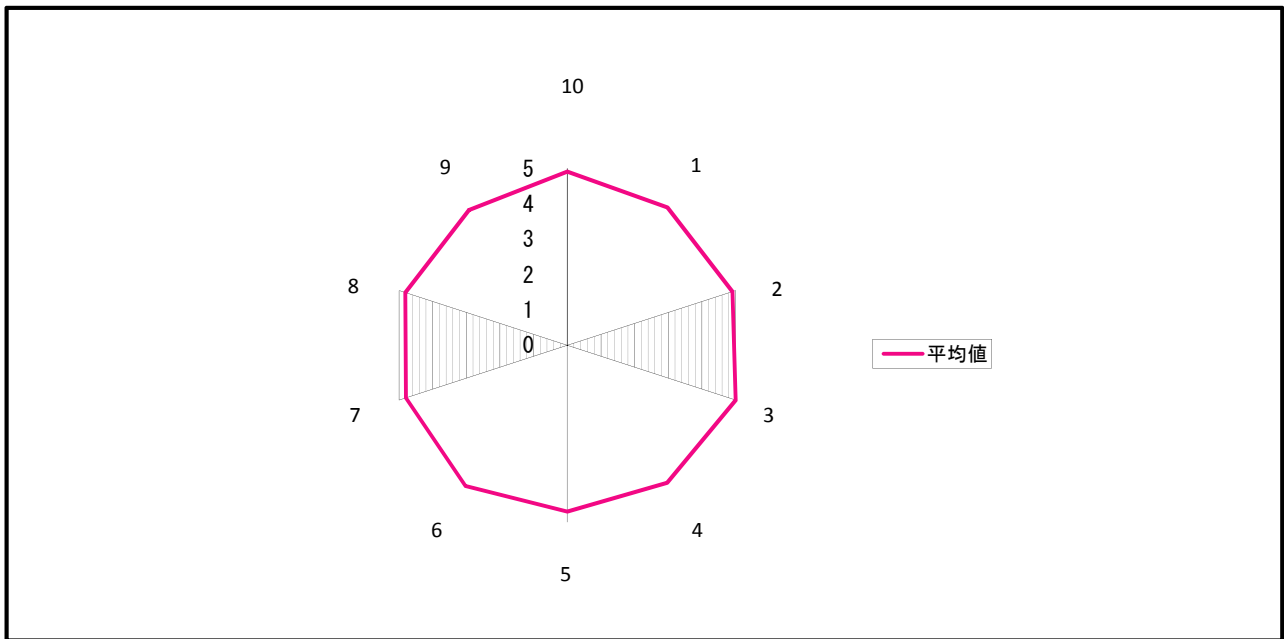
解析学研究と連結した授業であり、研究における授業内容を演習を通して更に深い理解を得ることを目的とした授業科目である。受講生も解析学研究と同じメンバーの3名であった。解析学研究の授業評価コメントでも記述の通り、例年に比べかなりハードな内容の演習を行った。授業評価アンケートの結果は解析学研究と同じく全ての項目において3または4の評価であり平均値は3.7となっている。課題として演習問題を出題し、次の授業時間に発表するという形態をとったが、全ての学生がかなりの時間を割いて四苦八苦してその問題に取り組んでいた。課題に取り組むその姿勢が身についたことは評価できるが、まだまだ未消化の部分があったことがこの評価に現れていると考えられる。3名と少人数の受講生であったにもかかわらず、まだまだ解説が不十分であったのかと反省させられる。記述欄では3名中1名の学生が、「問題が面白かった」と書いており、興味を持って授業に取り組んでいた様子が感じられる。



# 結果報告書

授業科目名 数学科教育学演習  
 評価実施日 平成29年2月17日  
 担当教員名 秋田 美代 回答者数 11 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	9	2				4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	10	1				4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	11					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	8	2				4.8
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	8	1	1			4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	10	1				4.9
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	8	2				4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	9	2				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	9	1	1			4.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	10	1				4.9



## 教員のコメント

本授業の目的は、「数学科教育学研究」の授業内容を基盤として、数学科における実践的課題を解決するための授業の内容・方法を、受講者が提案できるようにすることである。

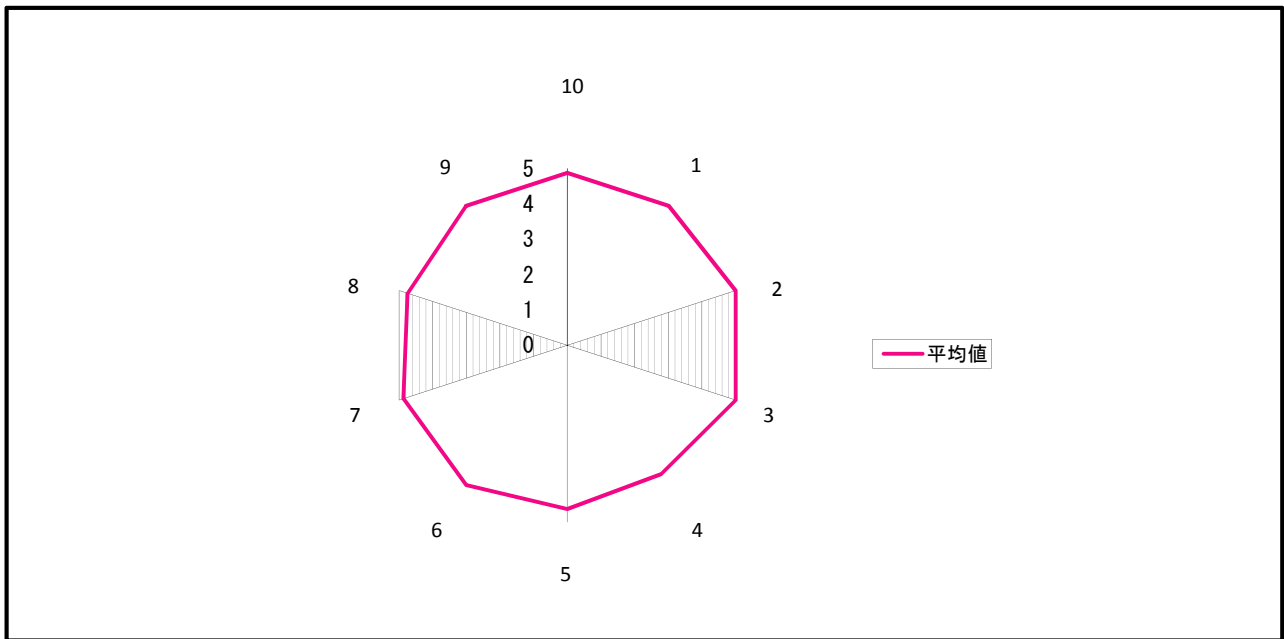
授業に対する総合評価は4.9であり、評価平均値が高い質問項目は「(3)教師の実践力の育成につながる内容であった」、「(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった」、「(6)受講生に分かりやすく説明した」等であった。記述による回答では、この授業のよかったと思われる点として「数学の本質から理論を立てて授業をつくることができたこと」、「様々な見方や、数学の教科的構造について知ることができたこと」、「現状の数学教育の課題を改善するために何が必要なのかをしっかりと考えることができたこと」等の記述があった。これらのことから、受講者は数学科の授業を構成するための理論を理解し、理論に基に授業内容・方法を構築する力を高めたと判断できた。

この授業で改善すべき点として、「発表後に改善案について全体で話し合う機会があればよかったと思う」と記述している受講者がいたことから、15回の授業の中で授業改善策の検討・意見交換までを含めることは時間的に厳しいが、次年度はこの点も考慮に入れて授業計画を立てるようにする。

# 結果報告書

授業科目名 数学科授業研究  
 評価実施日 平成29年2月13日  
 担当教員名 秋田 美代      回答者数 8 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	7	1					4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	8						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	8						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	6		2				4.5
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	6	1	1				4.6
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	7	1					4.9
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	7	1					4.9
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	6	2					4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	1					4.9
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	7	1					4.9



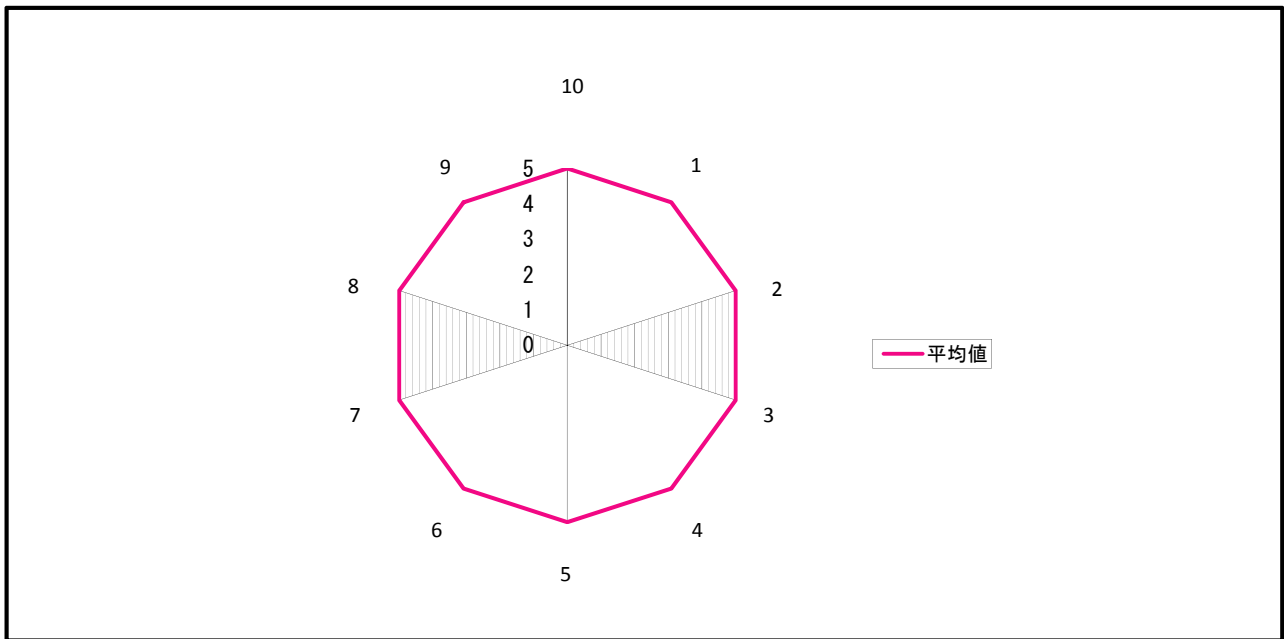
## 教員のコメント

本授業の目的は、受講者が、「数学教育において生徒の数学についての理解を深め、自律的な学びを生むための授業の在り方」を理解できるようにすることである。  
 授業に対する総合評価は4.9であり、評価平均値が高い質問項目は「(3)教師の実践力の育成につながる内容であった」、「(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった」、「(6)受講生に分かりやすく説明した」、「(7)教科書や配布された資料は、適切であった」、「(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ」等であった。記述による回答では、この授業のよかったと思われる点として「算数・数学において、単元内・単元間の関連性を考えることの重要性、考える方法、考えさせる方法について理解を深めることができた点」、「授業方法について学ぶことはあったが、子どもの考え方を考察して研究するのは初めてだったので、実力を付けることができた」、「子どもが問題を解く際の思考のアプローチについて深く学ぶことができた」等の記述があった。これらのことから、受講者は生徒の数学についての理解を深め、自律的な学びを生むための授業の在り方を理解できたと判断できた。  
 この授業で改善すべき点として、「構造チャートの説明が最初分かりにく戸惑った」、「学んだことを生かす授業実践等があればよりよくなる」と記述している受講者がいたことから、考え方とその考え方を授業実践に繋げる方法等についてもう少し詳細な説明を加えることが必要と考えられた。

# 結果報告書

授業科目名 数学科教材開発演習  
 評価実施日 平成29年2月16日  
 担当教員名 佐伯 昭彦      回答者数 3 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	3					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	3					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3					5.0



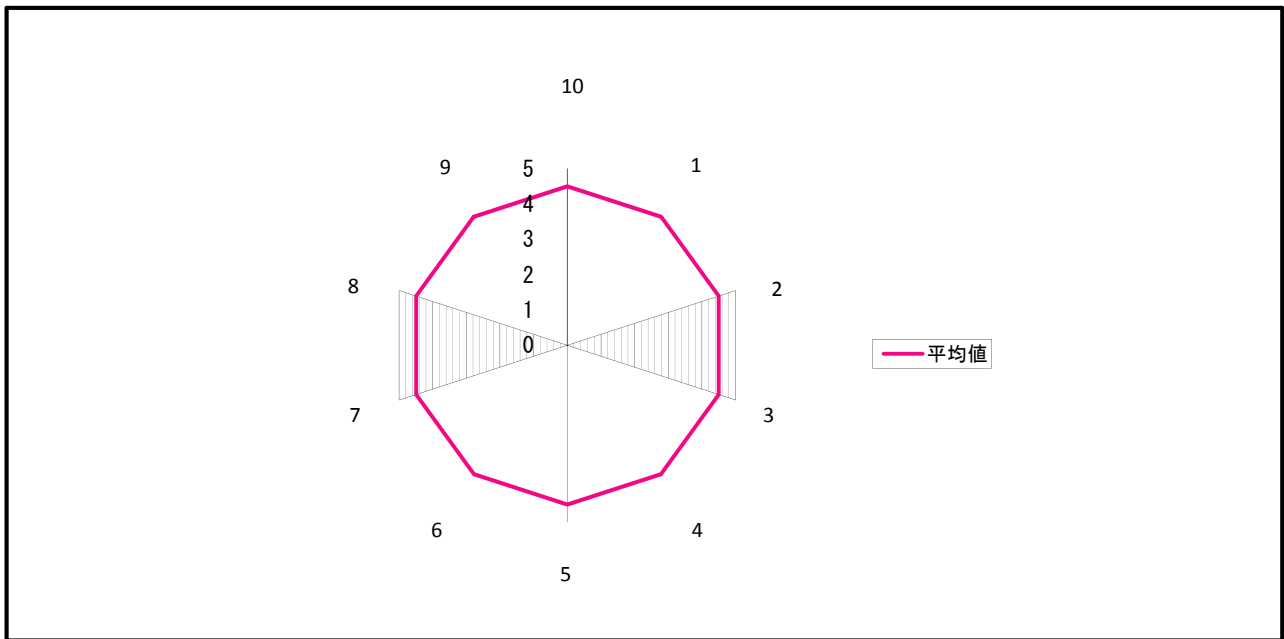
## 教員のコメント

受講生が4名の内の3名がアンケートを回答してくれたが、全員の学生が総合評価で5を選択し、各質問項目も良い評価が得られた。本授業は、松茂町立図書館の来館者に和算を紹介する活動を通して、多種多様な来館者に応じて分かりやすく説明する能力を高めるとともに、文化を地域社会に継承する教師の役割の重要性を理解することが目的であった。このため、和算の題材の選択、教材開発、ワークショップの企画など、学生達の主体的活動を重視したアクティブラーニング型授業を行った。こういった学生の主体的活動が良い評価を得た大きな原因だと考えられる。参加者のアンケートは概ね良好な結果が得られた。また、ワークショップの内容が新聞掲載されるなど、学外からも評価を受け、学生達の教育実践に関わる構想力・展開力・評価力を高めることができたと思う。以上のことから、本授業の目標は達成されたと思う。

# 結果報告書

授業科目名 物理学特論Ⅲ  
 評価実施日 平成29年1月31日  
 担当教員名 粟田 高明      回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	1	1				4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1	1				4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	1				4.5
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	1	1				4.5
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	1	1				4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1	1				4.5
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	1	1				4.5
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1	1				4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	1				4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	1	1				4.5



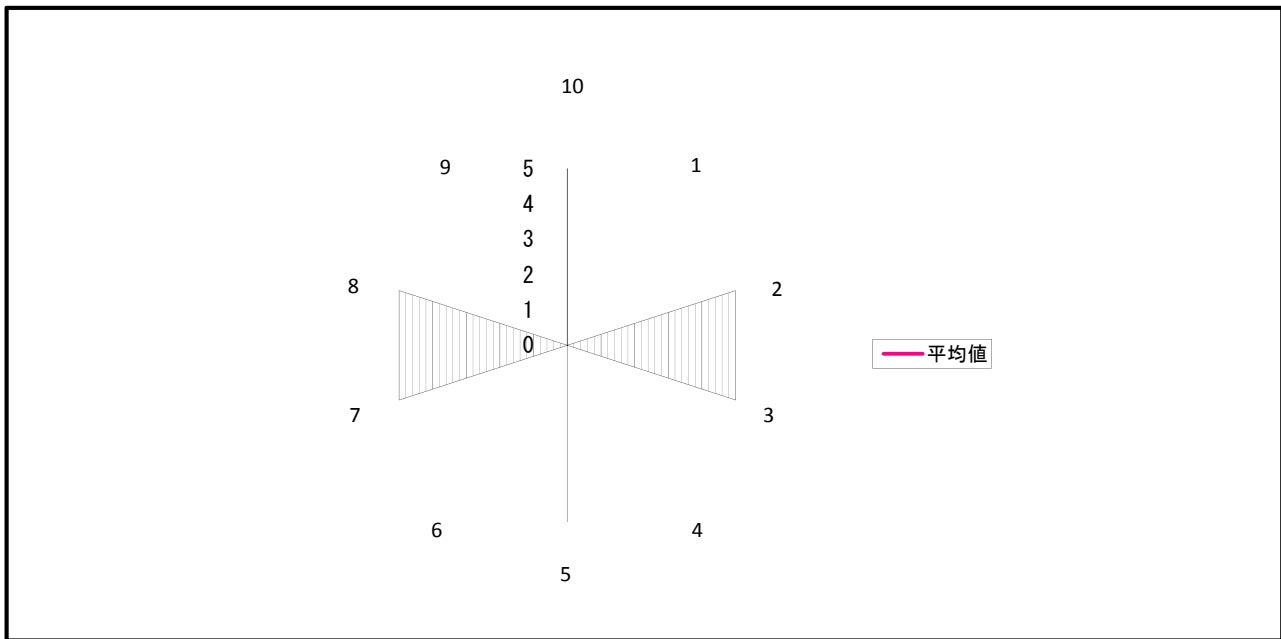
## 教員のコメント

受講者が2名と少なく、様々な事柄について深く内容を共有することができた。また学外者による講習等もあり充実した講義内容であったと考えられる。授業評価も高かったため、来年度以降も同様に進めていきたい。

# 結果報告書

授業科目名 生物科学特論 I  
 評価実施日 平成29年2月9日  
 担当教員名 米澤 義彦 回答者数 1 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。						#####
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。						#####
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。						#####
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。						#####
	(5)授業の進む速さは、適切であった。						#####
	(6)受講生に分かりやすく説明した。						#####
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。						#####
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。						#####
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。						#####
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。						#####



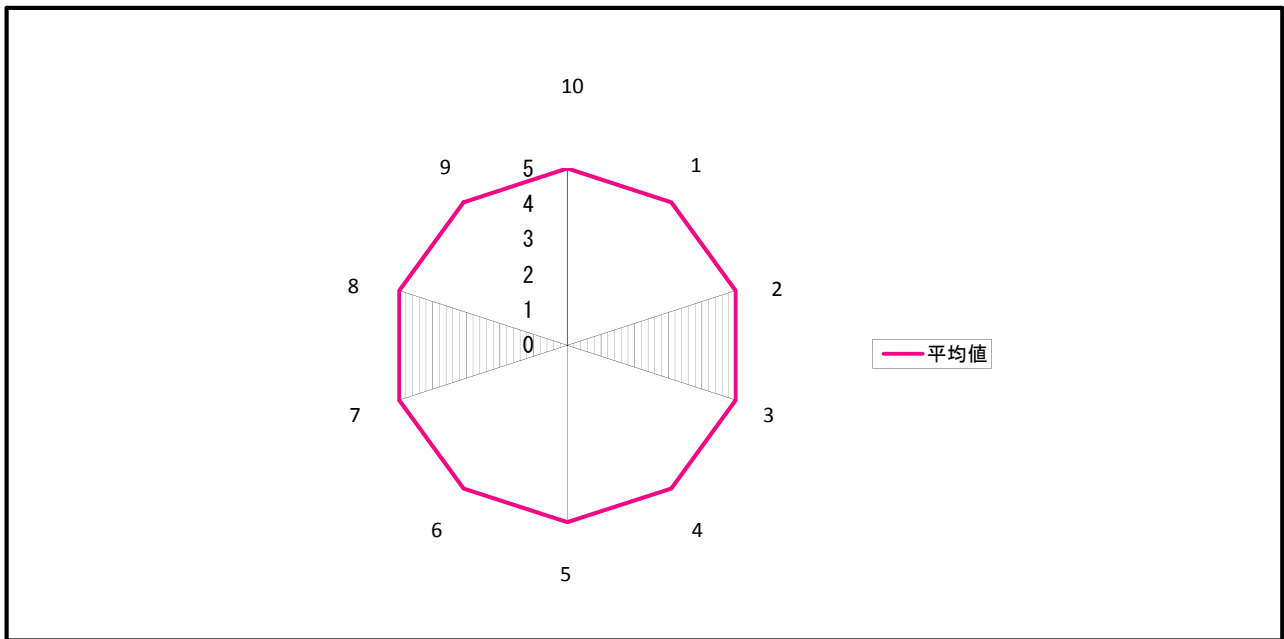
## 教員のコメント

受講者が1名であり、その評価(感想)でもって、本授業の評価を行うことはできない。なお、受講者は国立大学教育学部の出身者であるが、高校教員を希望していたため、高校生物の授業担当者として必要な最低限の知識の学習に特化した授業を行った。そのため、「教員採用試験対策」的な授業内容になったことを反省している。次年度以降、学部と同様に、受講者が3名以下の場合は授業評価を実施しない方向で検討していただきたい。

# 結果報告書

授業科目名 地学実験法特論  
 評価実施日 平成29年2月23日  
 担当教員名 小澤 大成, 村田 守, 香西 武, 足立 奈津子      回答者数 1 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	1					5.0
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1					5.0
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	1					5.0
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	1					5.0
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	1					5.0
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	1					5.0
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	1					5.0
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1					5.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	1					5.0



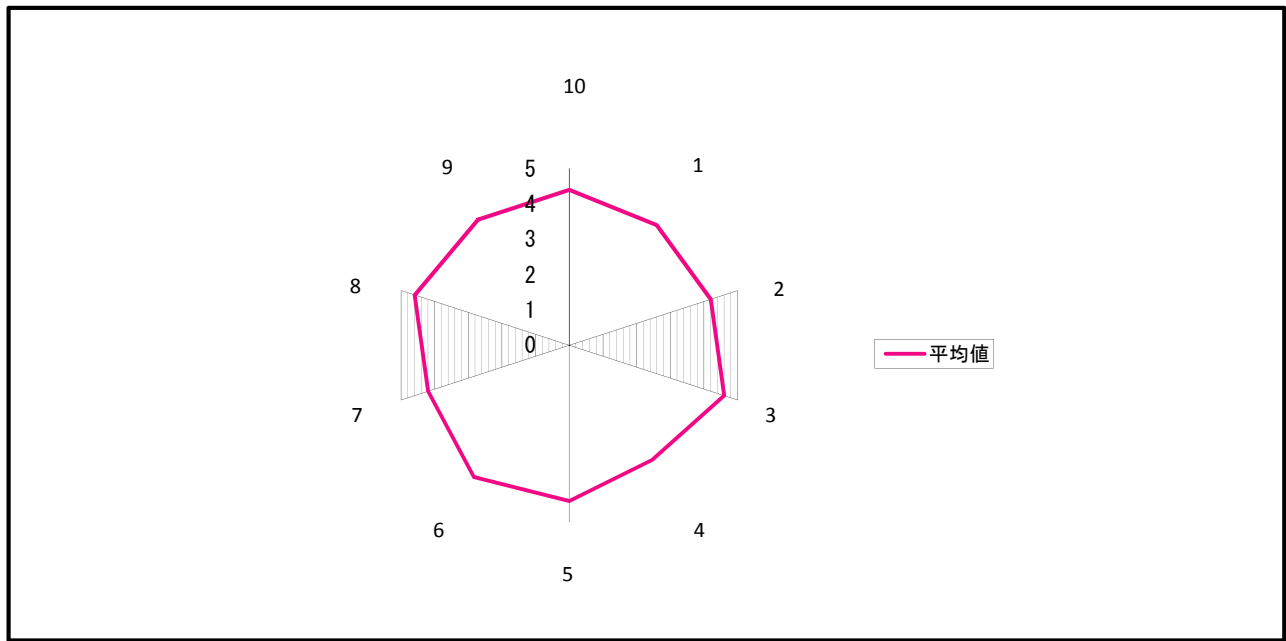
## 教員のコメント

総合評価は評価参加者1人が5.0であり、授業に満足していると考えられる。その理由として評価参加者のコメント要約「偏光顕微鏡を使った鉱物の観察やフィールドにおける化石や岩石の観察により理解がまし、教師として授業を行う際に利用する良い資料となる」が示すように、実験をしながら岩石、鉱物、化石について学んだことが反映していると考えられる。引き続き同じような授業を提供していきたい。

# 結果報告書

授業科目名 理科教材開発研究 I (物質とエネルギー)  
 評価実施日 平成29年12月9日  
 担当教員名 寺島 幸生 回答者数 5 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2	2	1			4.2
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1	4				4.2
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	2				4.6
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	1	3	1			4.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2	3				4.4
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3	2				4.6
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	1	4				4.2
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3	2				4.6
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	3				4.4
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2	3				4.4



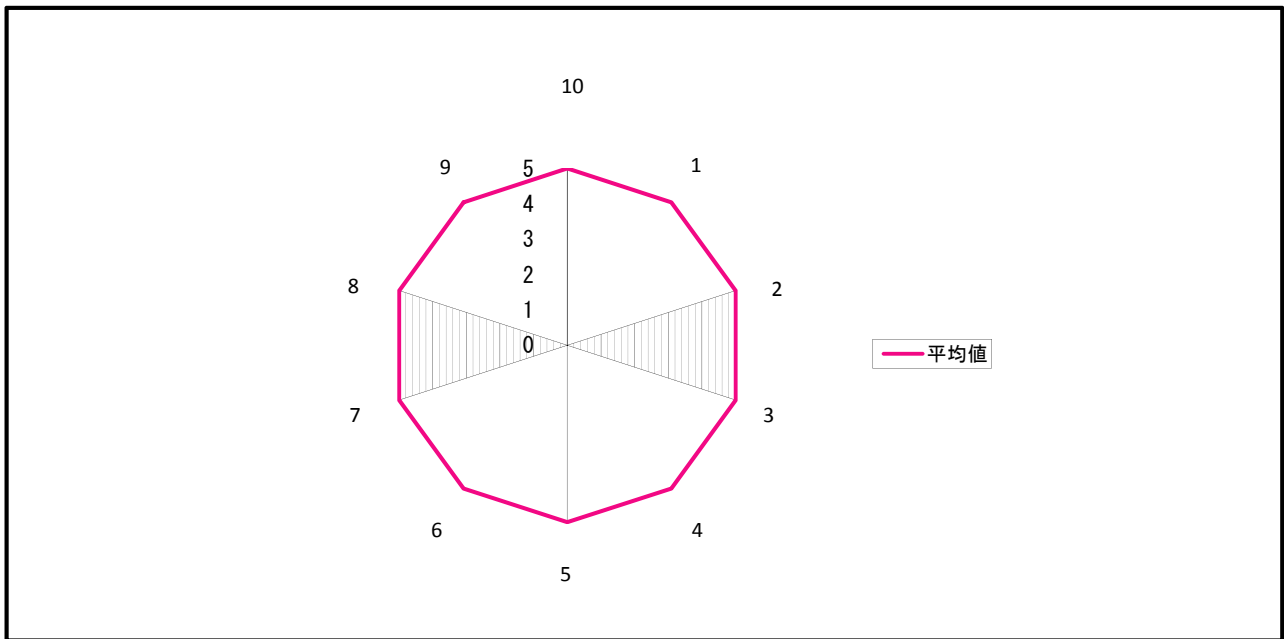
## 教員のコメント

学生の評価のとおりと認識している。

# 結果報告書

授業科目名 歌唱表現演習  
 評価実施日 平成29年2月9日  
 担当教員名 頃安 利秀      回答者数 3 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	3					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	3					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3					5.0



## 教員のコメント

本演習は、声楽実技能力を高め、小・中・高等学校における歌唱教材が「自然で無理のない歌い方」で歌え、且つ指導できるようになることを目標にしている。実技能力は受講生一人ひとり違っているため、できるだけ個々の能力に合った指導を心がけている。その結果としてこのような評価につながったと考えている。

この授業の受講生の中には芸術系コース(音楽)の学生以外にも他コースからの学生も含まれている。そのため、受講生個々の音楽的な実技能力にはかなり差があった。しかしこの授業では、夫々が自分のからだを無理なく使い、自然で無理のない歌い方ができるようになることを目的としており、決して音楽的な実力を評価する授業ではないので、自分の実力に見合った楽曲を選び、自分なりに自然な歌い方ができ、教育現場での歌唱指導につながれば良いと考えている。

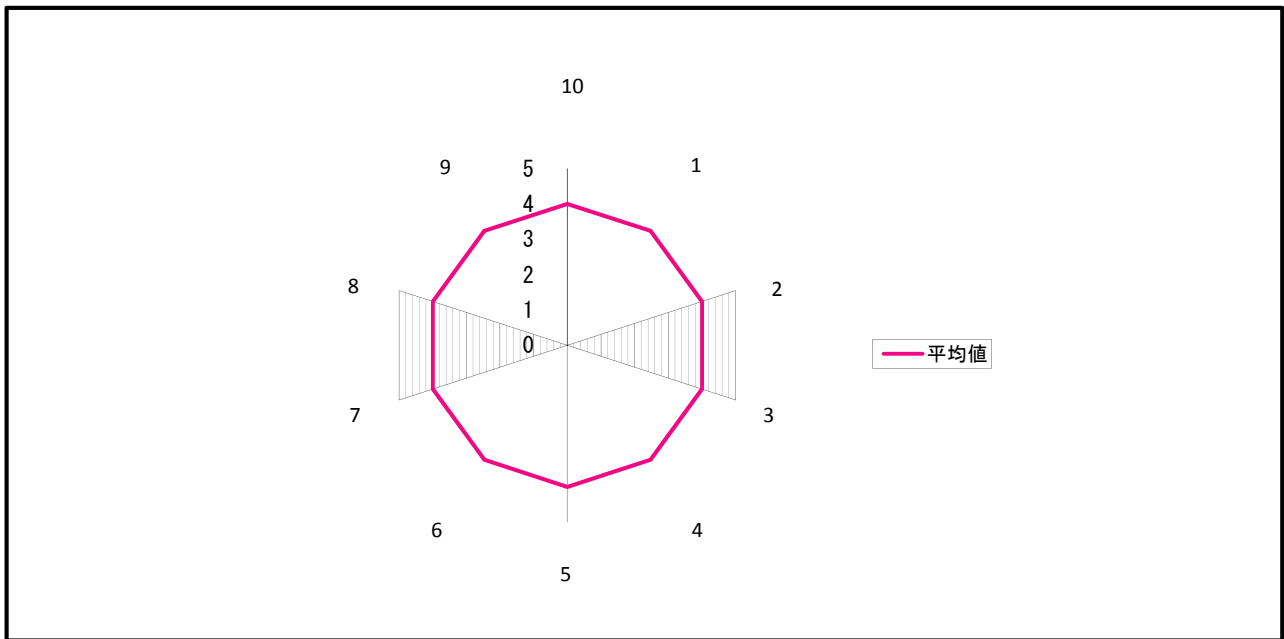
評価としては、専門的知識を深めるのに役立つ内容(5.0)であり、教師の実践力の育成につながる内容(5.0)でもあったと評価されている。授業の進め方についても高い評価(5.0)を得られている。そして、総合評価(5.0)からも、この授業が十分に教師の実践力育成に寄与するものであると評価されており、授業者としても満足している。



# 結果報告書

授業科目名 室内楽(器楽)  
 評価実施日 平成29年2月14日  
 担当教員名 森 正,山根 秀憲      回答者数 2 人

質 問 項 目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	1		1			4.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1		1			4.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1		1			4.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	1		1			4.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	1		1			4.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1		1			4.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	1		1			4.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1		1			4.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1		1			4.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	1		1			4.0



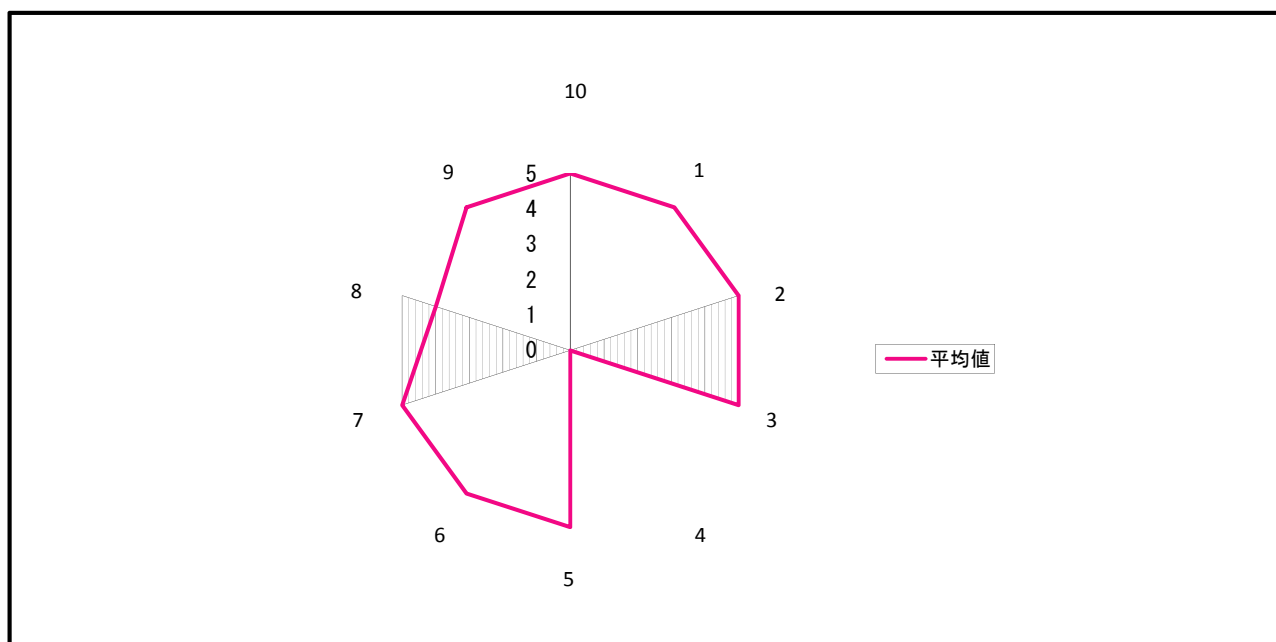
## 教員のコメント

概ね安定した評価が得られたと考えている。しかし昨年度は履修学生が少なく、研究生にも参加してもらったの授業であった。受講学生からもその点は指摘されたとおり、室内楽という演奏形態から考えれば、2重奏だけではなく、本来ならば3重奏、4重奏といったものまで課題として取り上げることが出来ればと考えている。今後は教員も演奏に参加するなどして、多様な演奏形態による室内楽の演奏経験を受講生に提供できる様にしたいと思う。

# 結果報告書

授業科目名 作曲法基礎演習  
 評価実施日 平成29年2月23日  
 担当教員名 松岡 貴史      回答者数 1 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	1					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。						#####
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	1					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	1					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。		1				4.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	1					5.0



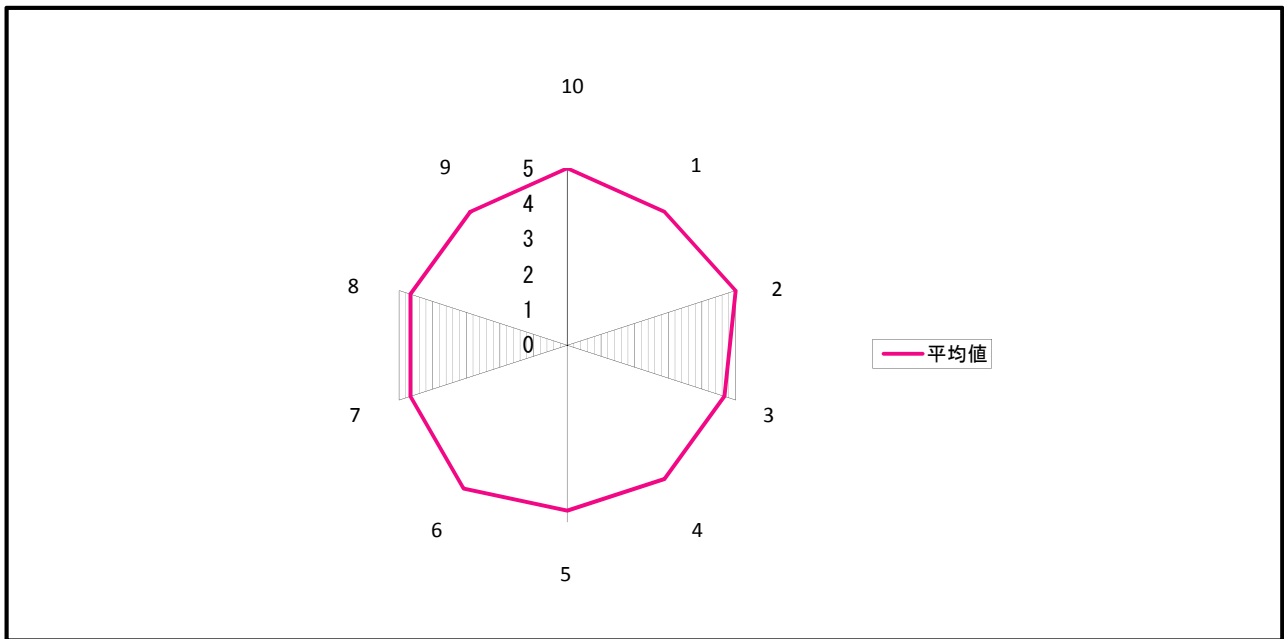
## 教員のコメント

ほとんどの評価が5であるが、回答者数が1名なので、評価およびコメントにあまり意味がなく、特にコメントすることはない。

# 結果報告書

授業科目名 声楽アンサンブル  
 評価実施日 平成29年2月9日  
 担当教員名 真鍋 美恵      回答者数 3 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2	1					4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	1					4.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2	1					4.7
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2	1					4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3						5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	2	1					4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2	1					4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	1					4.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3						5.0



## 教員のコメント

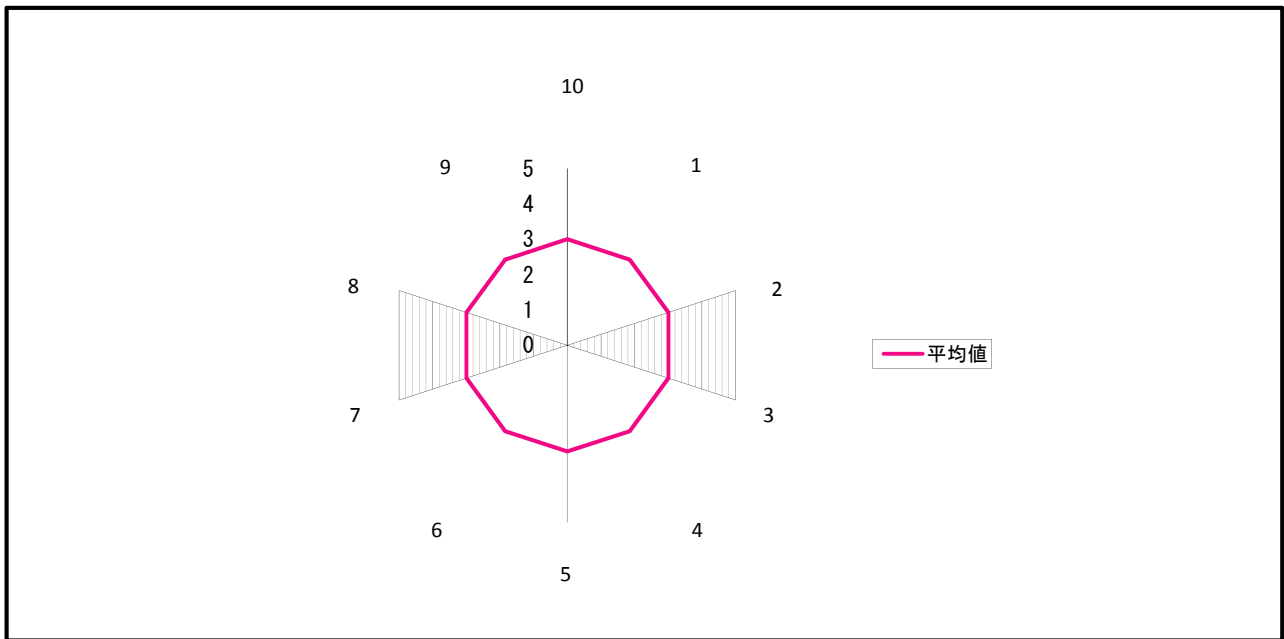
本年度は聴講者2名を含めて5名の受講者となった。取り扱う楽曲がアンサンブルという形態なので、個々の習熟度に差が出ている状態での授業への導入となり、結果的に基本的なことに大半の時間をとることになった。使用した楽曲はモーツァルト作曲のオペラ重唱曲。モーツァルトの音楽はすべてに完成度が高い作品なので、受講生は専門分野として作品からの学びも多く感じていたように思われる。アンサンブルに不可欠なピアノ伴奏についても受講生で担当したので講師は十分に歌唱指導に入ることができた。教師として人の前で立って言葉を伝えること、感じとることはとても重要なことであるが、本授業では演奏(歌唱)の技術的なことのみではなく、その向き合い方や発信の仕方を体現することで、自己表現力の育成にも役立つと感じている。今後も受講者の習熟度と表現力の力量を見ながら個人的な指導ができるように心がけたい。

# 結果報告書

授業科目名 教科内容構成(音楽科)  
 評価実施日 平成29年2月7日  
 担当教員名 長島 真人 碩安 利秀 小山 英恵 森 正山田 啓明 山根 秀憲 松岡 貴史

回答者数 1 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。			1			3.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。			1			3.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。			1			3.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。			1			3.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。			1			3.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。			1			3.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。			1			3.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。			1			3.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。			1			3.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。			1			3.0



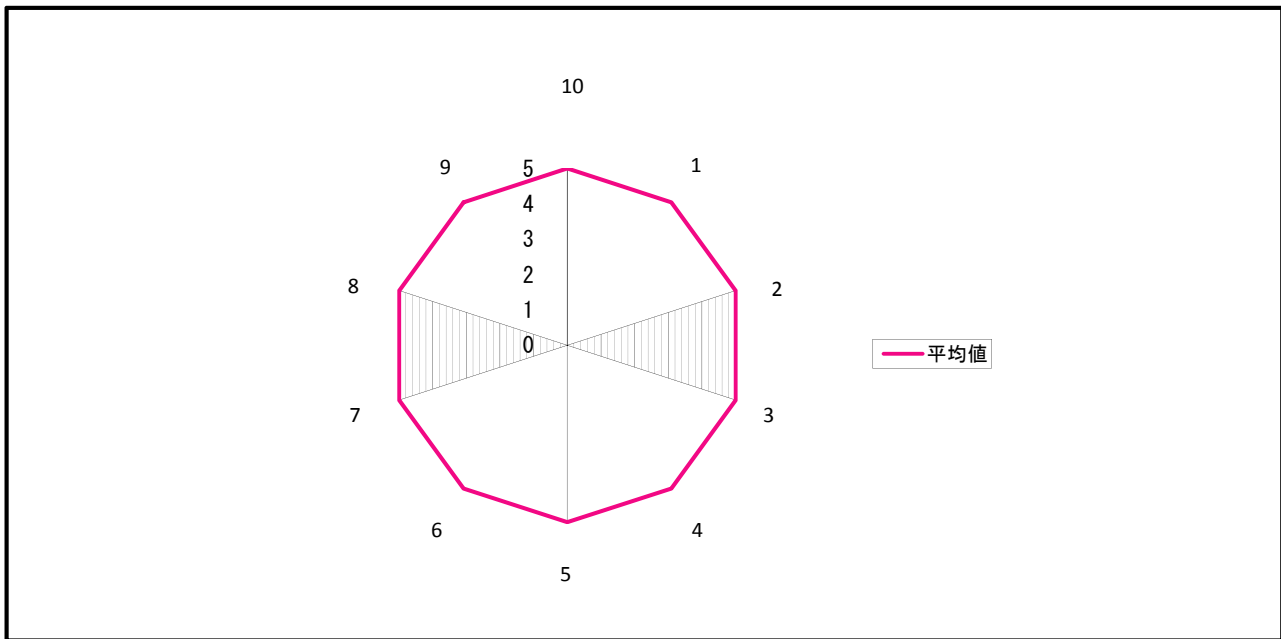
## 教員のコメント

昨年度から新しく始まった授業科目であったため、評価する側もされる側も判断基準に困惑している状態である。特に授業形態が音楽コース全員によるオムニバス形式であったため、内容が広く浅くなってしまい、受講生(1人)には物足りなさがあつたことは否めない。その結果がこの評価に示されていると考えられる。

# 結果報告書

授業科目名 油画制作演習  
 評価実施日 平成29年2月9日  
 担当教員名 鈴木 久人 回答者数 1 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	1					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	1					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	1					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	1					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	1					5.0



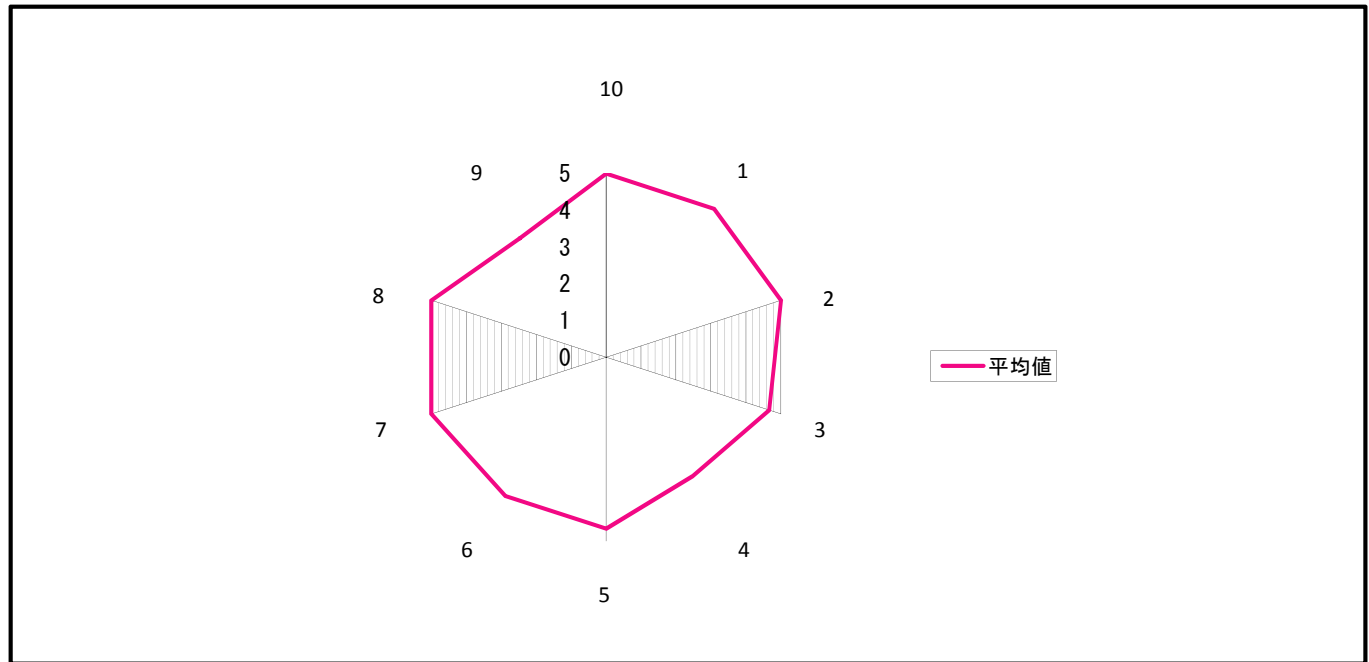
## 教員のコメント

質問項目、総合評価ともにすべて5.0の評価であり、自由筆記の項目もこの授業に対して好意的なものであった。当初受講生は3人であったが、うち2名の学生が、早い段階から出席なくなり、結局、回答者は1人であり、今回はこれに対するコメントは控えたいと思う。アンケートに丁寧に記入いただいた学生には感謝している。

# 結果報告書

授業科目名 版画制作演習  
 評価実施日 平成29年2月10日  
 担当教員名 鈴木 良治 回答者数 3 人

質 問 項 目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3					5.0
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3					5.0
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	1				4.7
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	1	1	1			4.0
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	2	1				4.7
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	2	1				4.7
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	3					5.0
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。		3				4.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3					5.0



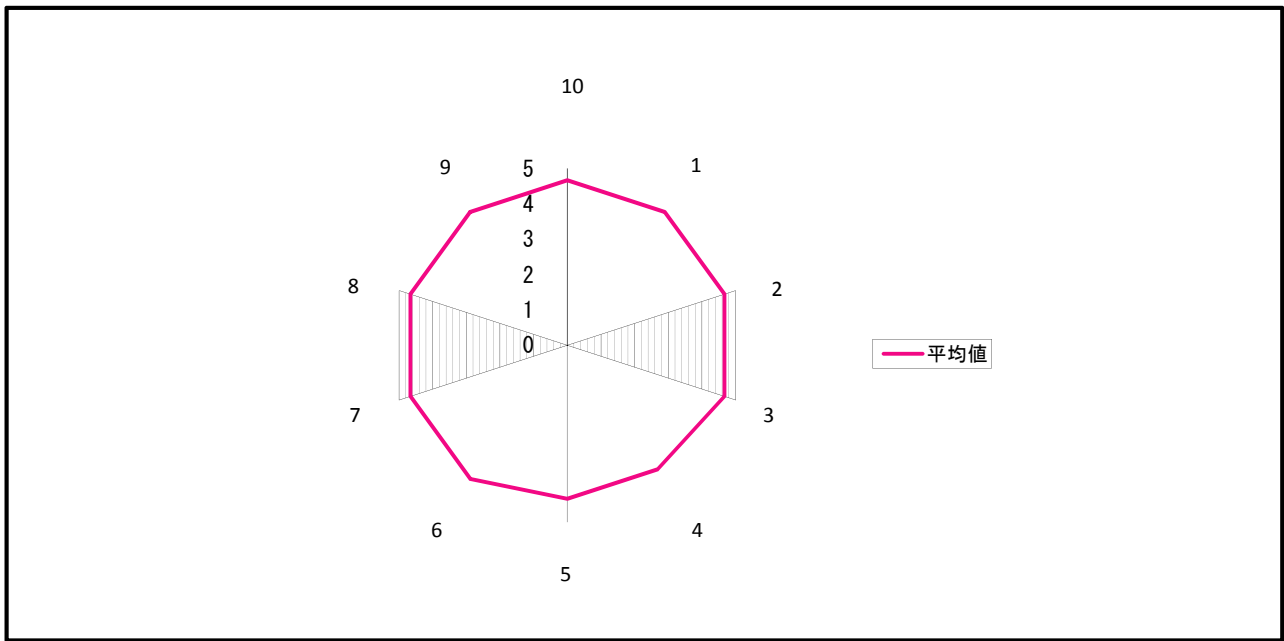
## 教員のコメント

私の希望はひとつひとつの技法を体験して貰い、一つでもいいので版画の技法を獲得してもらうことです。そして版画の授業の時にもう一度思い出して製作できるように製作メモを作り 版画を制作して欲しいです。

# 結果報告書

授業科目名 彫刻制作研究  
 評価実施日 平成29年2月20日  
 担当教員名 野崎 窮 回答者数 3 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2	1				4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2	1				4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	1				4.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2		1			4.3
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2		1			4.3
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2	1				4.7
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	2	1				4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2	1				4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	1				4.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2	1				4.7



## 教員のコメント

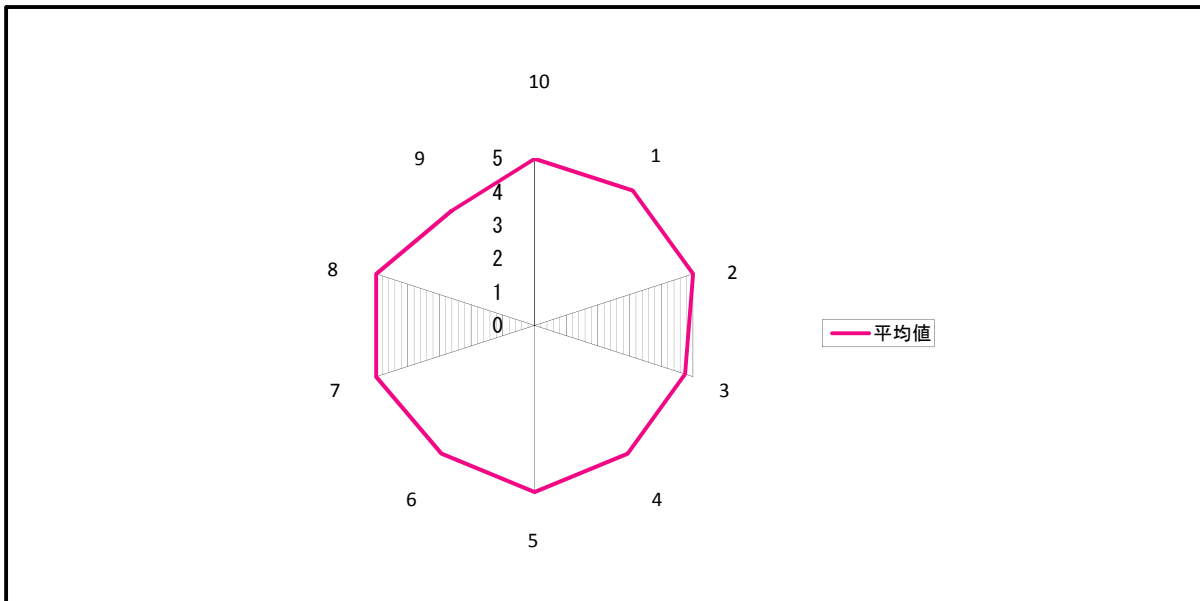
この授業は実技が中軸であり、着衣のモデルを使用した塑造(全身像)制作である。受講生は絵画分野と他のコースを専攻している学生であった。彼らが求めている彫刻における立体把握力を伸長させるべく、各自のその能力に応じて個別に支援・指導した。結果として、各項目の平均値は「4.3」以上であり、特に10の項目で「4.7」という評価をえている。授業において、様々な作家の作品解説を行いことで、この分野の魅力を理解できるようにした。今後の課題として学生の自己評価に関わるプレゼンテーションをより拡大することである。

# 結果報告書

授業科目名 デザイン制作研究  
 評価実施日 平成29年2月7日  
 担当教員名 内藤 隆

回答者数 4 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4					5.0
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4					5.0
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	1				4.8
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	3	1				4.8
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	4					5.0
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	3	1				4.8
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	4					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4					5.0
	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	1	1			4.3
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4					5.0



## 教員のコメント

本年度の登録者は8名で、うち2名が取得放棄、また残り2名が最終回の授業を所用で欠席したため回答数が4名となっている。  
 この授業は以下の様な流れで運営した。1時間目は全体の授業運営説明。2～6時間目はAdobe社のIllustratorの初歩的用法解説、トレーニングとしてこのソフトを使用した地図制作。7～8時間目はデジタル一眼レフの操作方法解説とスタジオでの照明操作解説および撮影演習。9時間目は撮影実習。10時間目は印刷原稿を作成する際のIllustrator、Photoshopの注意点解説。11～14時間目は大学院美術コースのパンフレットを想定したA3サイズ両面の印刷物原稿制作。15時間目が相互発表・作品講評。  
 今年度の受講者はほぼ初心者ばかりだった。ソフトの解説はプロジェクションを使って解説し、制作にあたっては質問を申し出た者のところへ直接行き対応する形式をとった。解説資料は一部紙媒体で渡しているが、大方は自分のウェブページに準備しておき、これを見せた。  
 さて、評価のグラフを見ると全般的に4以上の評価を受けており、基本的に満足感を得られていると判断できる。自由筆記の記述では良かった点としては「イラストレーターの用法が学べた」が3名、「カメラ撮影の用法が学べた」・「教員が一人一人に教えてくれ勉強になった」が各1名であった。改善点の要望は本年度は特に挙げられていなかった。「主体的に取り組んだ根拠」としては「授業時間外にもイラストレーターで制作を行った」「教員が各質問に答えたから」「毎回出席し課題にも取り組んだがカメラが使いこなせず多くの枚数が取れなかった」が各1名ずつあった。カメラについては28度末にボディを研究室で3台購入し、今後は情報基盤センターのレンズを借りて講習に充て授業改良を図る。機能などをより正確に説明すると同時に、各自所有のカメラの使用も許可するなど、学生の要望に柔軟に対応できるように改善したい。その他の感想欄には「受講生相互も会話でき、アットホームな雰囲気でした」「初めて知ったことが多く今後活用していきたい」とあった。  
 今回は美術以外のコースからの登録が2名(別に登録しない聴講も1名)いたが、思いの外熱心に受講・制作にあたってくれ、他の授業などでも積極的にこの授業内容を応用してくれている様子だった。受講生の資質によるものであると考えるが、感謝したい。

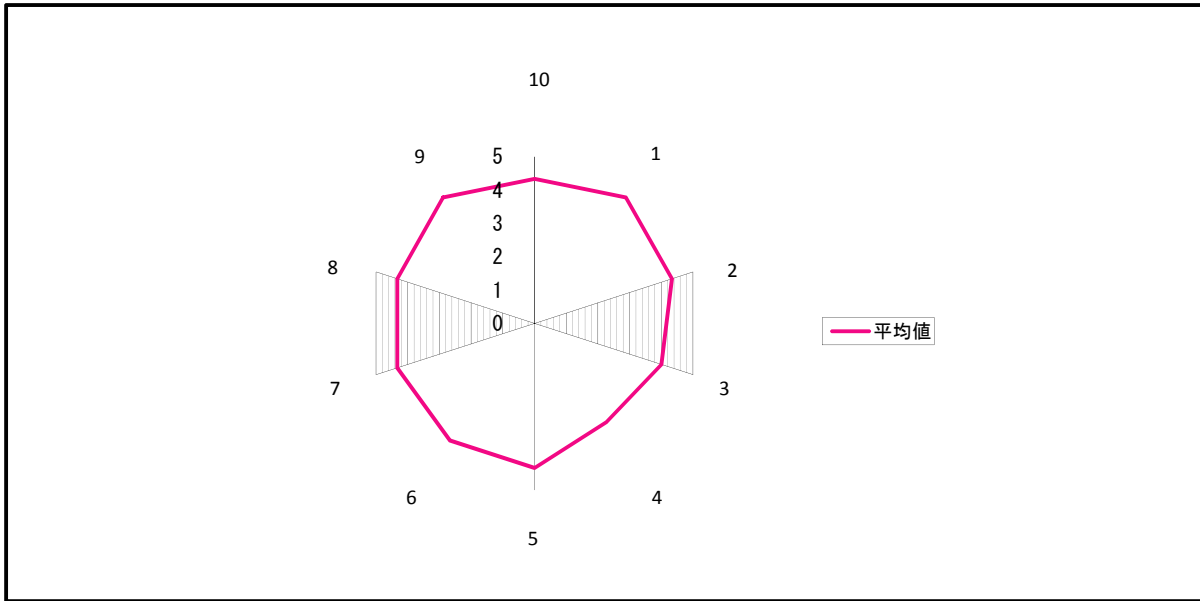


# 結果報告書

授業科目名 映像デザイン演習  
 評価実施日 平成29年2月13日  
 担当教員名 内藤 隆

回答者数 3 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2	1				4.7
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1	2				4.3
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	1	1			4.0
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	1		2			3.7
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	2		1			4.3
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	2		1			4.3
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	2		1			4.3
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2		1			4.3
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	1				4.7
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2		1			4.3



## 教員のコメント

本年度の登録者は5名であったが、うち一人はやや欠席気味、また別の一人は途中で取得放棄と言う状況であった。欠席気味の者については作品制作のための補講を行い合格としたが、本来の授業の最終回に欠席していたため、アンケート回答数が3名分となっている。

授業は昨年同様、以下の流れで運営した。初回には、年間カリキュラムの説明・映像資料の視聴と情報交換の手順説明を行った。2～10時間目は、研究室および図書館の映像資料を視聴させ(各自別々の作品を鑑賞)、授業時に印象的だった部分等についてお互いに紹介させ情報交換する方法をとった。2・3時間目はサイレント映画時代、4・5時間目はトーキー映画黎明期、6時間目は日本映画、7・8時間目は実験アニメーション、9時間目はCM(海外・日本)、10時間目は実験映像・ミュージックビデオ作品という流れで視聴経験と情報交換を重ねさせた。11時間目前半にはデスクトップでのビデオ編集方法の概説と班分けを行い、14時間目まで各自で短編映像作品の制作を実施、最終回に作品提出・講評と言う内容で進めた。

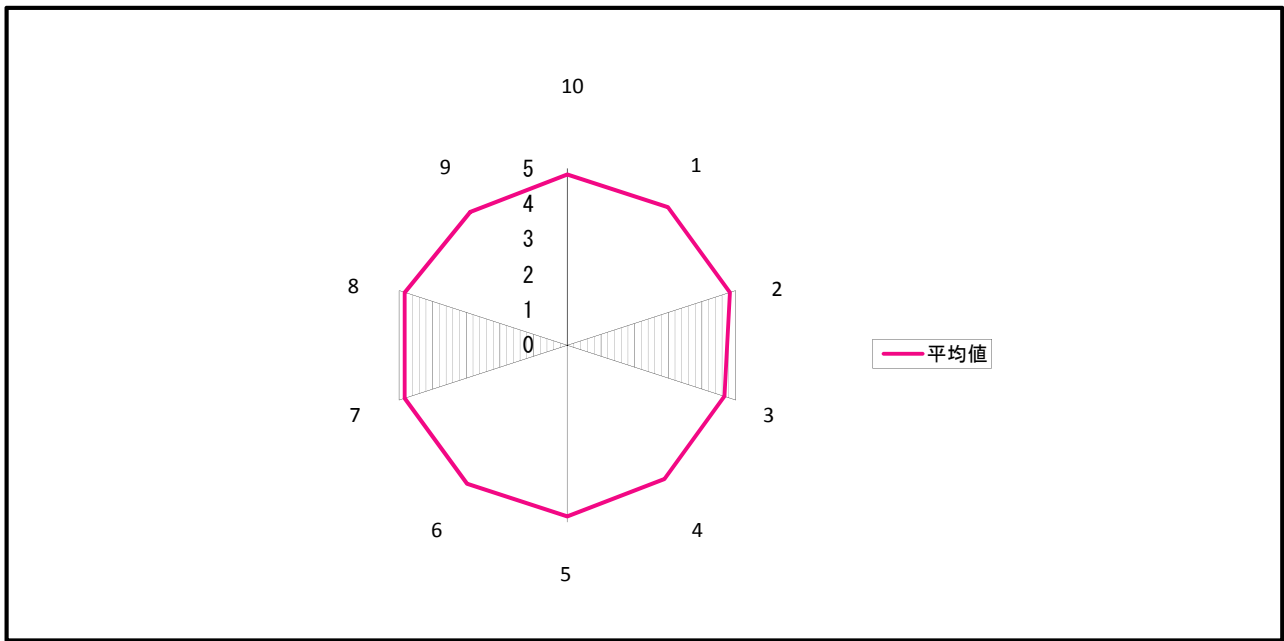
アンケート結果は概ね4以上であるが「教師の実践力の育成につながる内容であった」と言う項目が4.0、「成績評価の方法の説明は適切」と言う項目が3.7となっている。「実践力」については映像編集など即席に応用しにくい状況が考えられるが、長期的には経験が活きてくると考える。「成績評価」についてはシラバスで「出席状況、受講態度、作品の総合的評価」としているが、作品評価においては編集の間など個々の現在までに構築した経験則にも頼る部分があっても出るため全てを事前に説明できず、対応が難しい部分である。

本年度の自由筆記の感想で良かったと思われる点は「映像の編集作業」が2名、「いろいろな映像作品を見ることができた」と「政策作品の学生同士の鑑賞」が各1名だった。改善すべき点については「早めに編集作業に入りたかった」が1名あり、この点は改善可能である。次年度もこの講義スタイルを維持するが、細かい改善は見つけ次第試みたいと考えている。

# 結果報告書

授業科目名 工芸制作研究  
 評価実施日 平成29年2月14日  
 担当教員名 栗原 慶      回答者数 6 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	5	1					4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5	1					4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	2					4.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	4	2					4.7
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	5	1					4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5	1					4.8
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	5	1					4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	5	1					4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	2					4.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	5	1					4.8



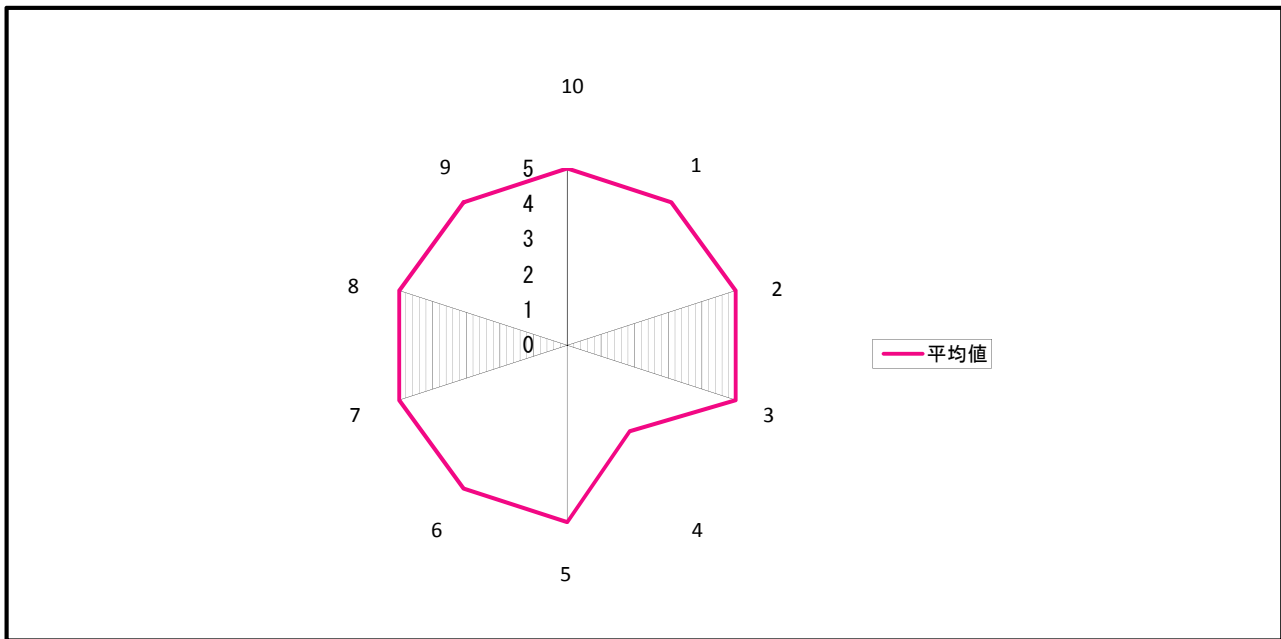
## 教員のコメント

総合評価が4.8ということで、受講生にとって概ね意義を見出すことが出来たのだと思う。回答者6名のうち2名が4の評価となった項目については、改善していかねばならない。(3)の教師の実践力につながる内容については、特定の専門分野であるため、現場で活かせる機会に恵まれないこともある事も念頭に置きつつ、制作のポイントが生活者の視点や鑑賞に役立つことを、より明確に示す工夫を検討したい。個々には制作アドバイスの中で伝えているのだが、個人差で伝わりにくいこともあるので、たとえばスライドを増やして内容にまつわる先例の画像の提示をしたり、小学校教育での活かし方を議論する機会を取り入れることなどが考えられる。(4)の成績評価の方法については、口頭で初回に伝えることにくわえて、具体的な配点も示すべきかと考えている。(9)の主体的な取り組みに関しては、大学院という事で基本的には本人の気持ちの有り様に任せるしかないのだが、興味を持って常に授業に臨める工夫を検討したい。特に美術では期待感と達成感がないとその後に関がらないので、個人の能力を出来るだけ早い時期に見極めて、授業期間の中盤に課題設定の調整をする必要があると感じている。

# 結果報告書

授業科目名 美術科教育学研究  
 評価実施日 平成29年2月2日  
 担当教員名 山田 芳明      回答者数 1 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	1					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。			1			3.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	1					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	1					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	1					5.0

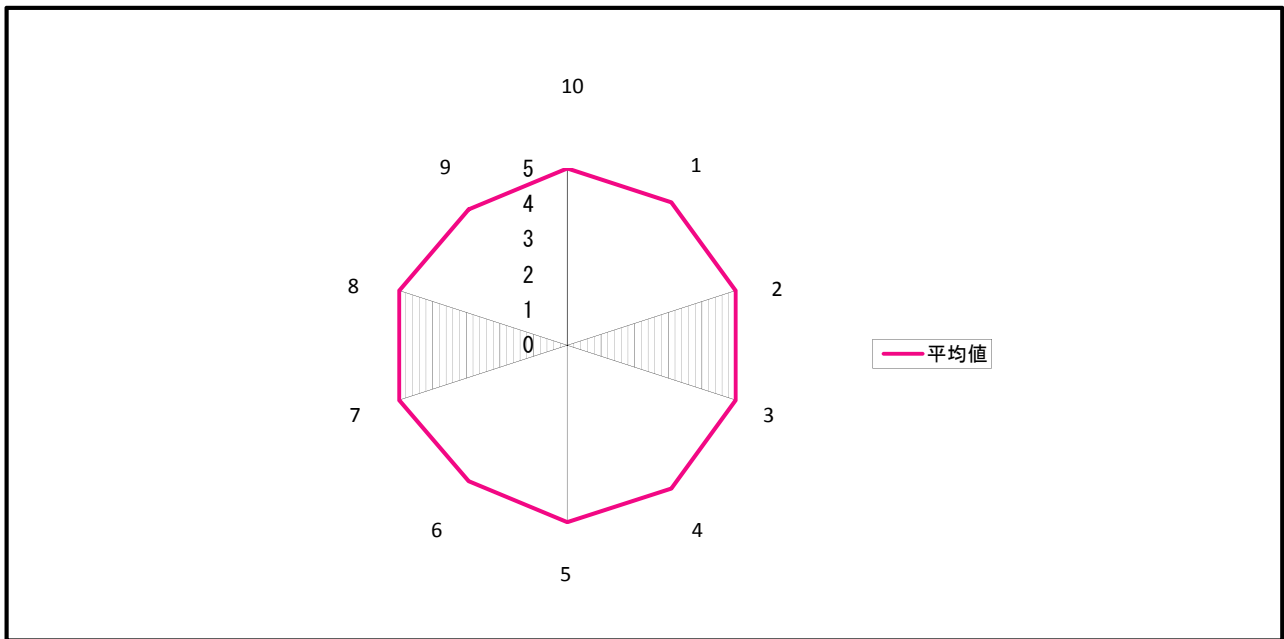


教員のコメント

# 結果報告書

授業科目名 学校体育経営演習  
 評価実施日 平成29年2月15日  
 担当教員名 藤田 雅文      回答者数 4 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	4					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	4					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3	1				4.8
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	4					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	1				4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4					5.0



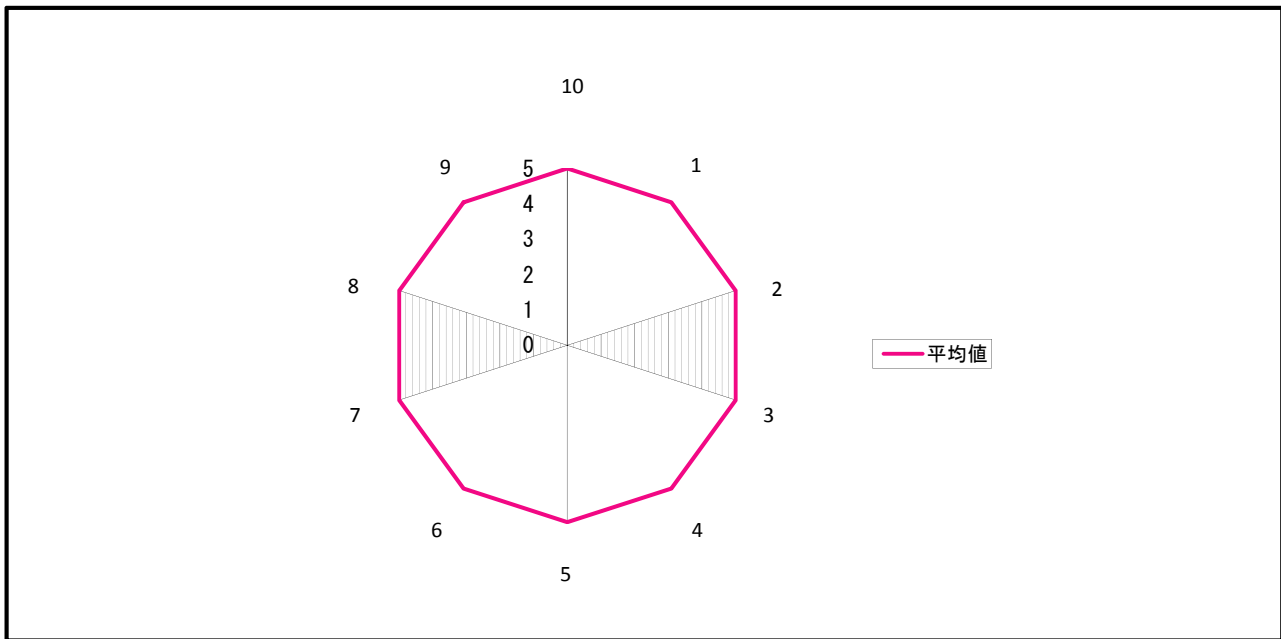
## 教員のコメント

9項目の平均評価点は4.94で、総合評価も5.0であることから、高い評価を得たと考えている。本授業では、パソコンを活用して、保健体育科の学習評価、体力テストのデータ分析、体育授業研究のデータ分析の演習を行っている。教育実践現場に役立つ内容をさらに厳選して、次年度以降も同様のスタイルで授業を展開したいと考えている。

# 結果報告書

授業科目名 情報技術演習  
 評価実施日 平成29年2月6日  
 担当教員名 菊地 章 回答者数 1 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	1					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	1					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	1					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	1					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	1					5.0



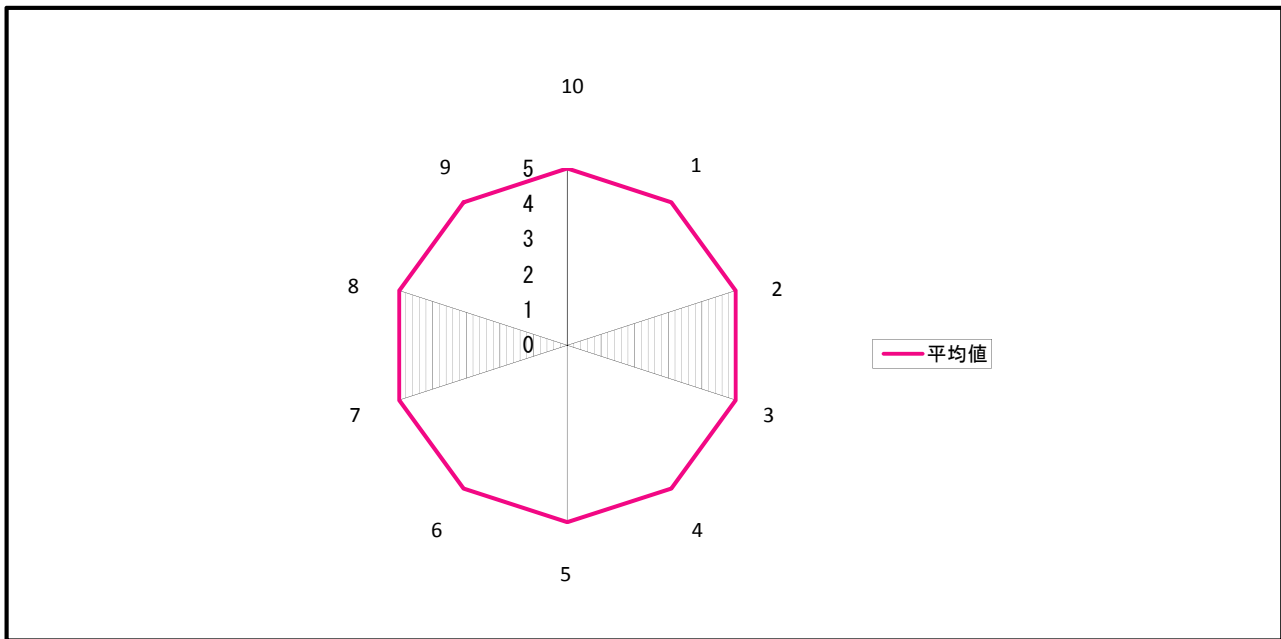
## 教員のコメント

優秀な学生一人の受講であったため、気軽に授業を行うことができた。また、コンピュータの組立やセキュリティ対策としてのファイアウォール構築の授業内容は受講者の興味関心に合致していたため、積極的に受講してくれて、教授者側も楽な授業展開であった。

# 結果報告書

授業科目名 画像情報処理研究  
 評価実施日 平成29年2月16日  
 担当教員名 伊藤 陽介      回答者数 1 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	1					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	1					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	1					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	1					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	1					5.0



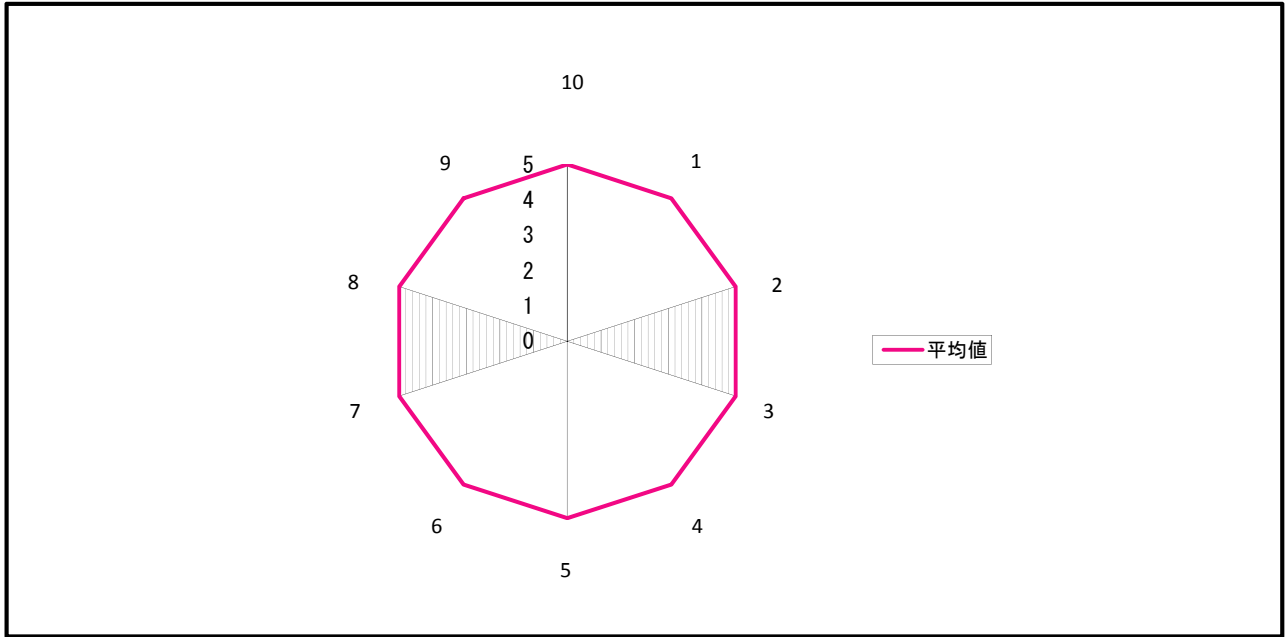
## 教員のコメント

受講生は一人であったが、総合的に見ると受講生にとって満足できた授業であったと思われる。

# 結果報告書

授業科目名 デジタル制御研究  
 評価実施日 平成29年2月6日  
 担当教員名 菊地 章                      回答者数 1 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	1						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	1						5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	1						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1						5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	1						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1						5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	1						5.0



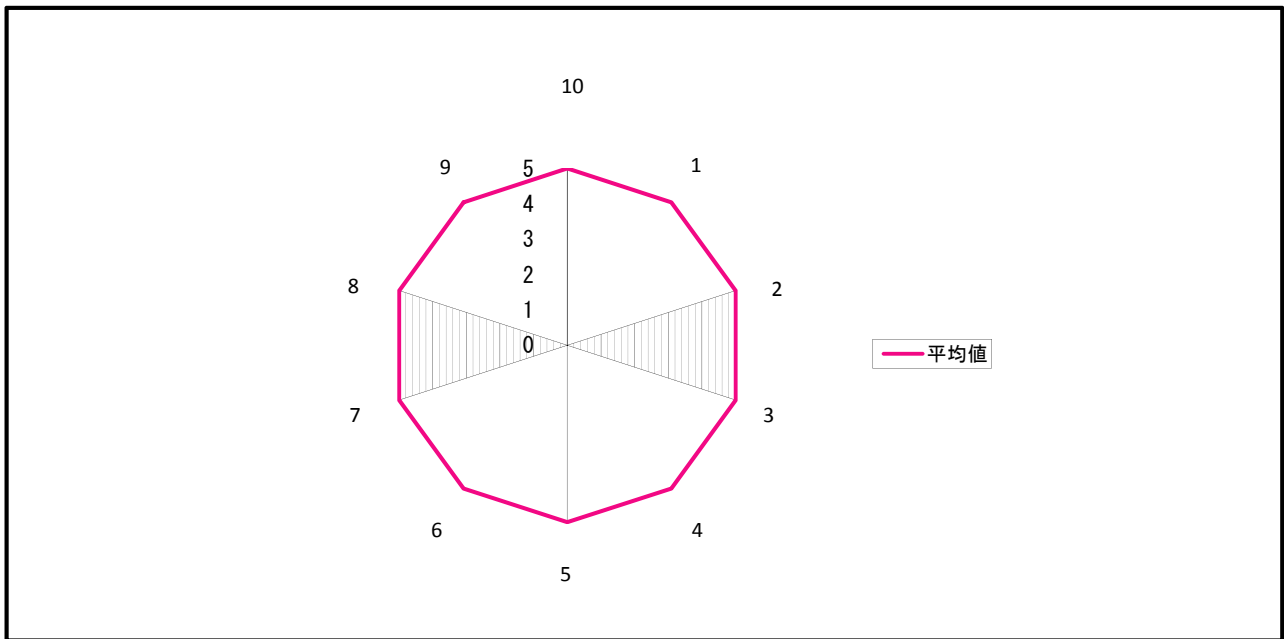
## 教員のコメント

授業計画内容と本人の興味関心とは当初は少しずれていた可能性もあるが、元々優秀な学生であり、適応力もあるため、互いの妥協点を探りながら授業展開を行うことができた。特にMATLABによるシミュレーションを通しての実習を含むことにより、デジタル制御の有用性を感覚的に把握することができたようで、有意義な授業となった。

# 結果報告書

授業科目名 情報応用演習  
 評価実施日 平成29年2月10日  
 担当教員名 曾根 直人      回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	2					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2					5.0



## 教員のコメント

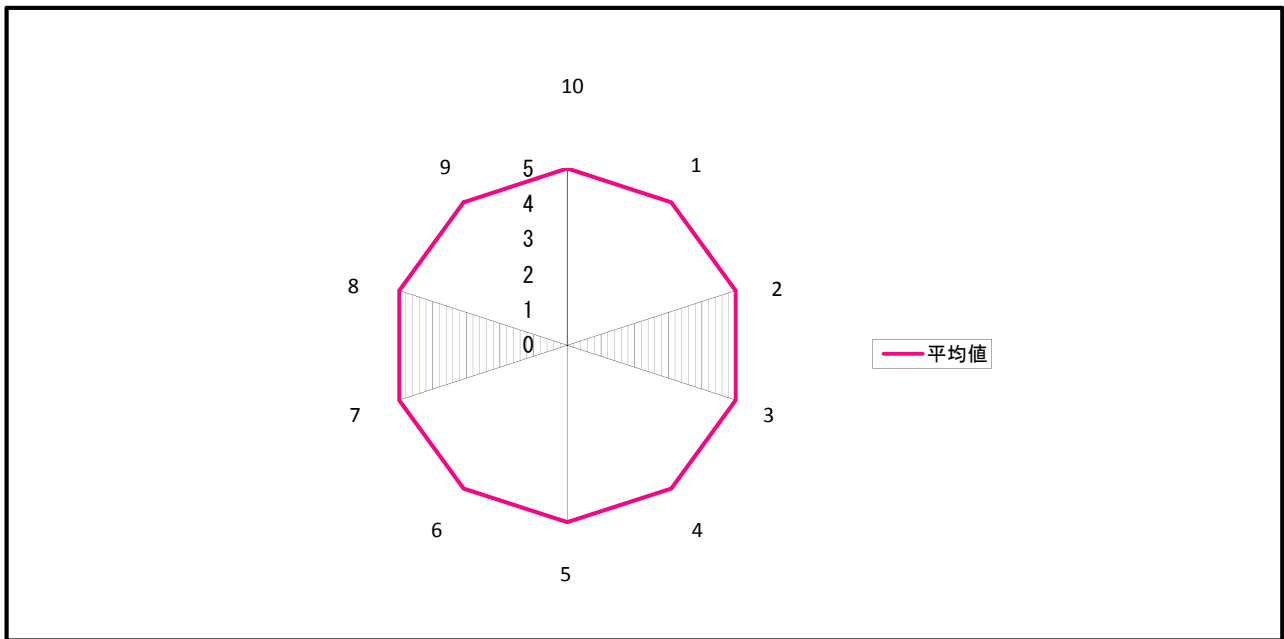
受講者が少人数だったため、受講者の興味や理解にあわせた授業を行うことができ、高い評価が得られたと考える。また、自由記述では実際に無線LANの電波を届く範囲を測定する実験が印象に残ったという回答があった。座学だけではなく、ネットワーク機器の設定や実験を通じて知識を身に付けることができるように工夫していることが評価されたと考える。今後、利用できるネットワーク機器も増やし、さらに学生の興味関心を引くような演習を取り入れたい。



# 結果報告書

授業科目名 コンピュータ科学演習  
 評価実施日 平成29年2月9日  
 担当教員名 宮本 賢治      回答者数 1 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	1					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	1					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	1					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	1					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	1					5.0



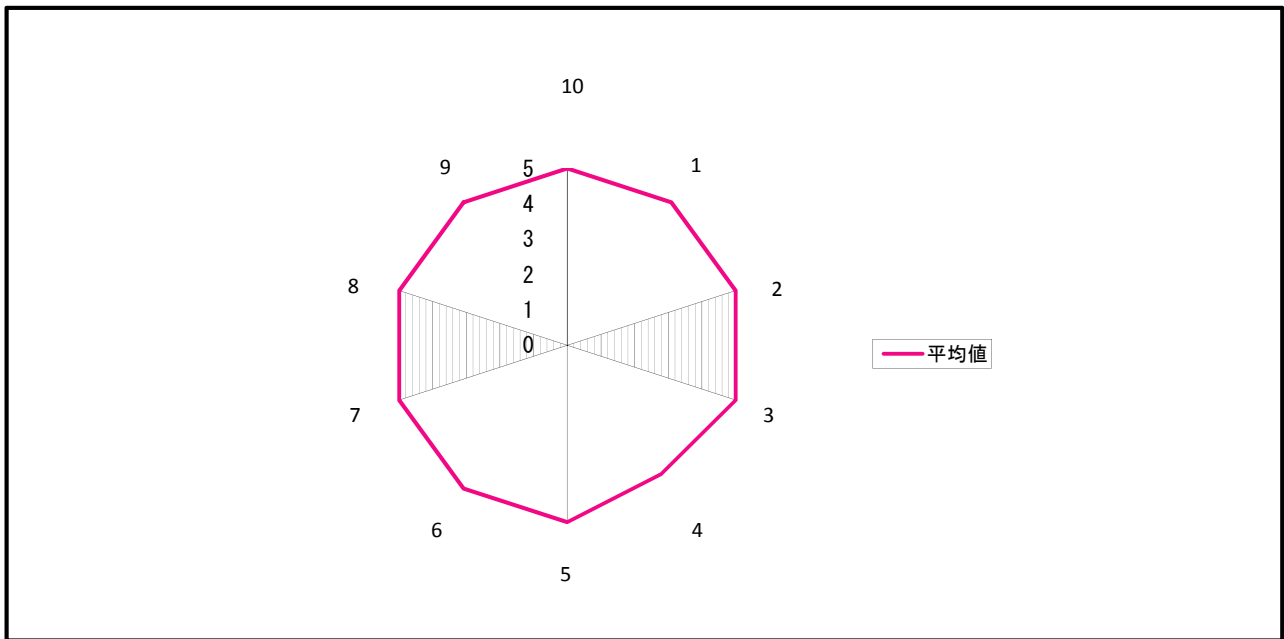
## 教員のコメント

人数が1人で統計的には不十分であるが、すべての質問項目で5.0の高評価が得られて満足できる結果となった。今後も授業内容や教材の一層の工夫・改善を図りたいと思う。

# 結果報告書

授業科目名 教育と情報活用  
 評価実施日 平成29年12月26日  
 担当教員名 益子 典文      回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	1	1				4.5
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	2					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2					5.0



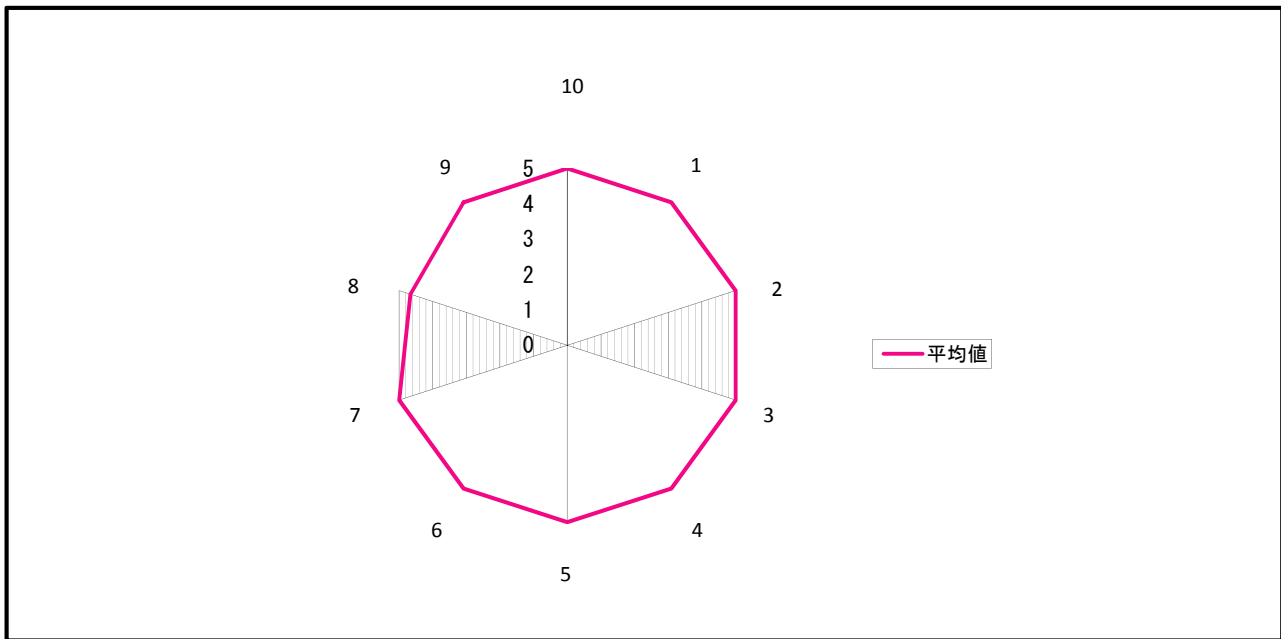
## 教員のコメント

院生と常に発言をもとめながら講義を進めることができたため、高い評価をいただいた。  
 成績評価の方法は講義冒頭で伝えたつもりであったが、この項目のみ4が観察されていることから、今後は全員が十分納得できる説明をするよう心がける。

# 結果報告書

授業科目名 家族・ジェンダー論演習  
 評価実施日 平成29年2月14日  
 担当教員名 黒川 衣代      回答者数 3 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3						5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	3						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3						5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	3						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2	1					4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3						5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3						5.0



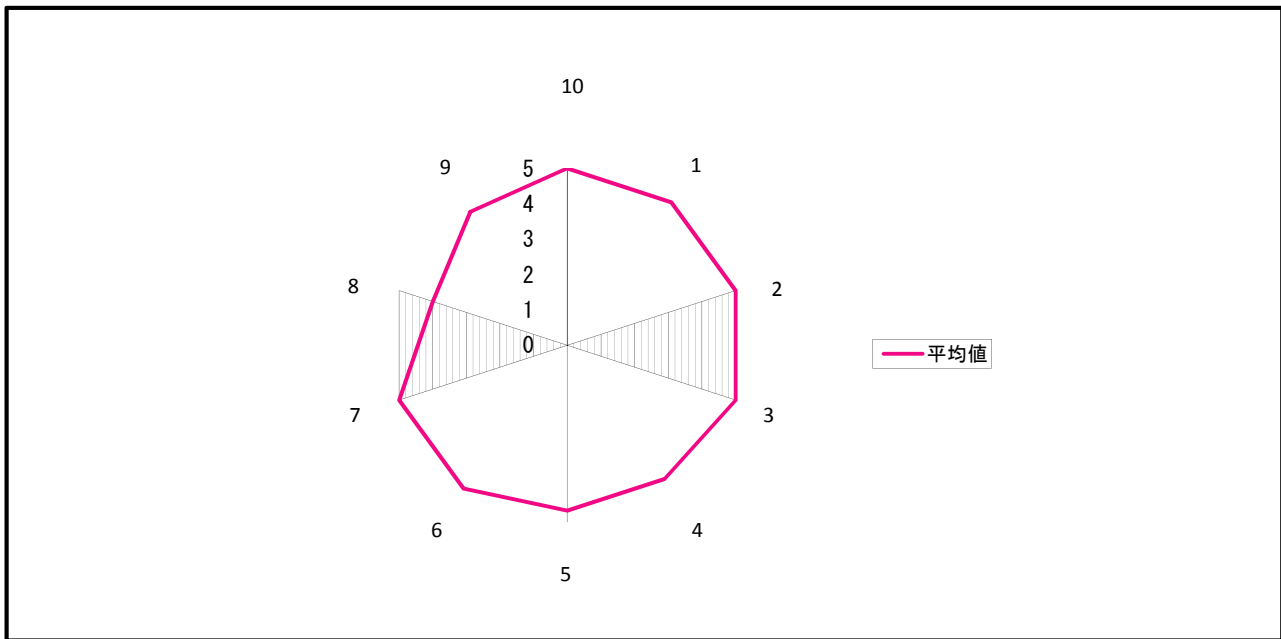
## 教員のコメント

履修学生は、3名とも家庭コースの学生ではなかったが、前期の「家族・ジェンダー研究」を履修した学生であった。前期で学んだ内容と関連させながら、家族ストレス理論を用いて、知識を実践に生かす作業を試みた。3人の学生は、家族やジェンダーに大変興味をもっており、学習意欲が高くて非常に熱心に取り組んでいた。

# 結果報告書

授業科目名 生活経営学演習  
 評価実施日 平成29年2月6日  
 担当教員名 坂本 有芳      回答者数 3 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2	1				4.7
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2	1				4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	3					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1	1	1			4.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	1				4.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3					5.0



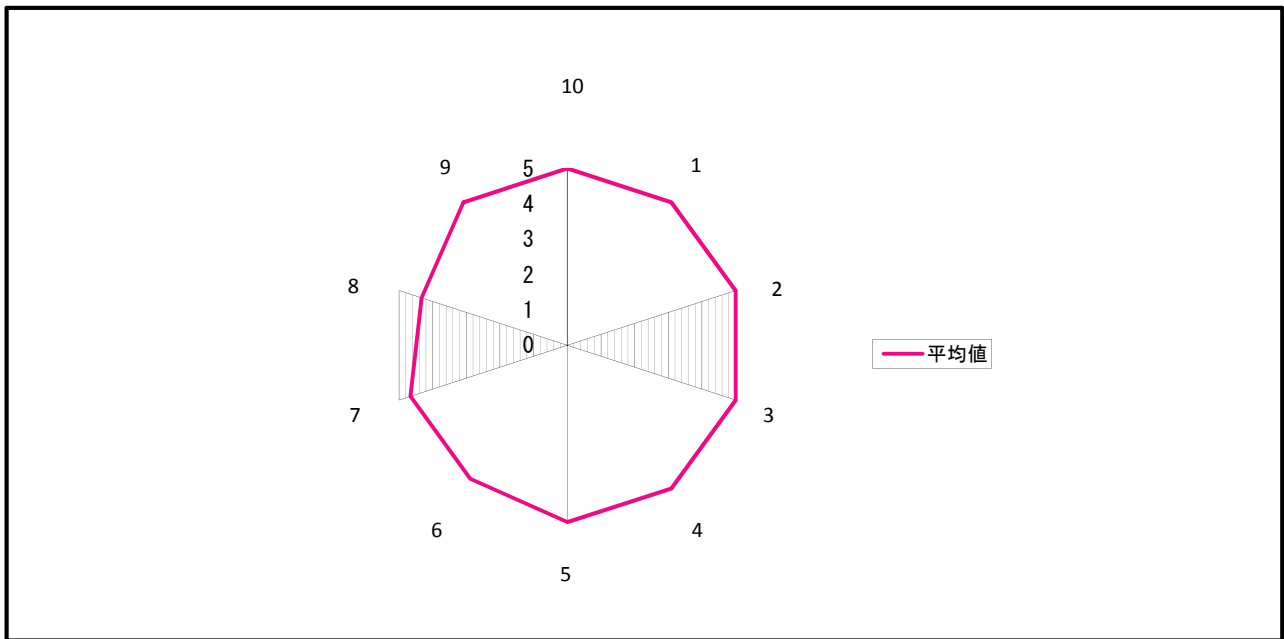
## 教員のコメント

専門分野の基本的知識を養う目的で、専門書の輪読や発表を中心とした授業を実施した。受講者は主体的に授業を準備し、積極的に学んでいた。授業の目的は到達できたと考えられる。扱う書籍や教材を検討しながら、同様の授業を進めていきたい。

# 結果報告書

授業科目名 衣生活学演習  
 評価実施日 平成29年2月13日  
 担当教員名 福井 典代      回答者数 3 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3						5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	3						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2	1					4.7
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	2	1					4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2		1				4.3
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3						5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2						5.0



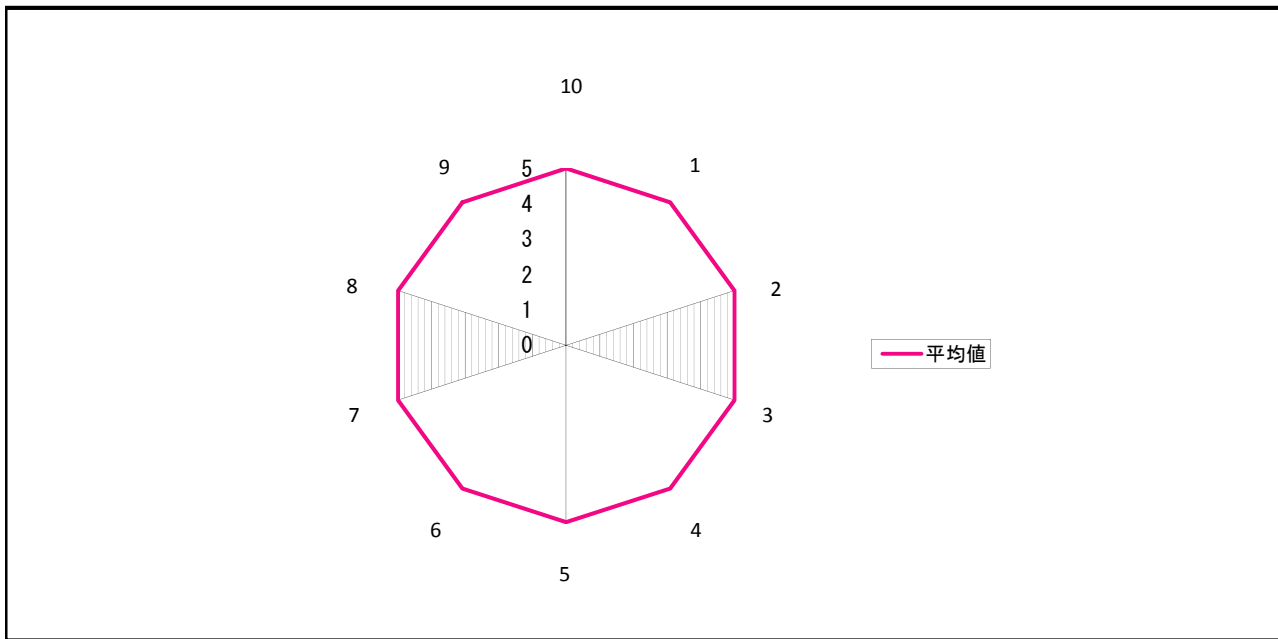
## 教員のコメント

「衣生活学演習」では、衣生活に関するデータを用いて基本的な分析方法について学習した。受講者数は少ないが総合評価で「5」となり、学生にとって有効な授業であった。  
 この授業でよかった点の自由記述として、「Excelの活用法がよくわかった」、「統計について自信が少しできた」、「今まで授業などであまり扱うことがなかった分野を学ぶことができた」であり、3名とも本授業の内容について満足している。  
 その他の項目の自由記述として、「毎回積極的に課題に取り組んだ」、「衣生活の分析に必要なツールの習得ができて大変良かったです」であり、1回ごとの課題を明確にして授業を実施したことが有効に働いた。エクセルの基本的な操作の習得を含めて、対象学生に合わせて授業内容を改善していきたい。

# 結果報告書

授業科目名 家庭科教育学演習  
 評価実施日 平成29年2月9日  
 担当教員名 速水 多佳子      回答者数 3 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	3					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	3					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3					5.0



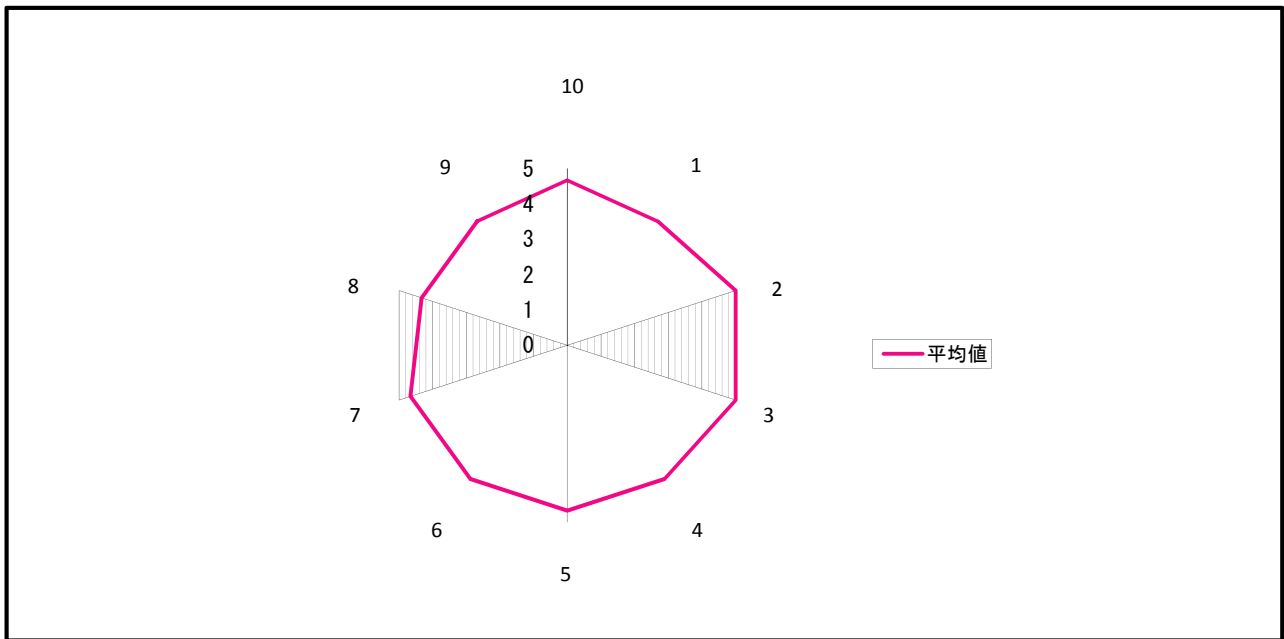
## 教員のコメント

受講者4名の内訳は、家庭コースのストレート院生2名、現職中学校教諭1名、他コースのストレート院生1名であった。3名の受講者は、大学院修了後に教員となることを目指しており、現職の院生と双方が満足し、実践力が高まるような授業内容となるように配慮した。そのため、前半は現在の家庭科教育ではどのような課題があるかについて取り上げ、後半は家庭科が学習方法として重視している実践的・体験的な学習活動について、実際に体験しながら学んだ。実際に学校現場で活用できる教材を用いて、授業での配慮点などについて体験しながら考察したので、受講者は積極的に参加して意欲的に取り組むことができていた。授業に対する評価はすべて5.0であり、授業者のニーズに合った授業展開ができたと思われる。4人と少人数であったことを生かして、ディスカッションの機会を多く取り入れたことが、この高評価につながったと考える。

# 結果報告書

授業科目名 家庭科授業・教材開発研究  
 評価実施日 平成29年2月21日  
 担当教員名 坂本 有芳, 福井 典代, 松永 哲郎      回答者数 3 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2		1				4.3
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2	1					4.7
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2	1					4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2	1					4.7
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	2	1					4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1	2					4.3
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	2					4.3
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2	1					4.7



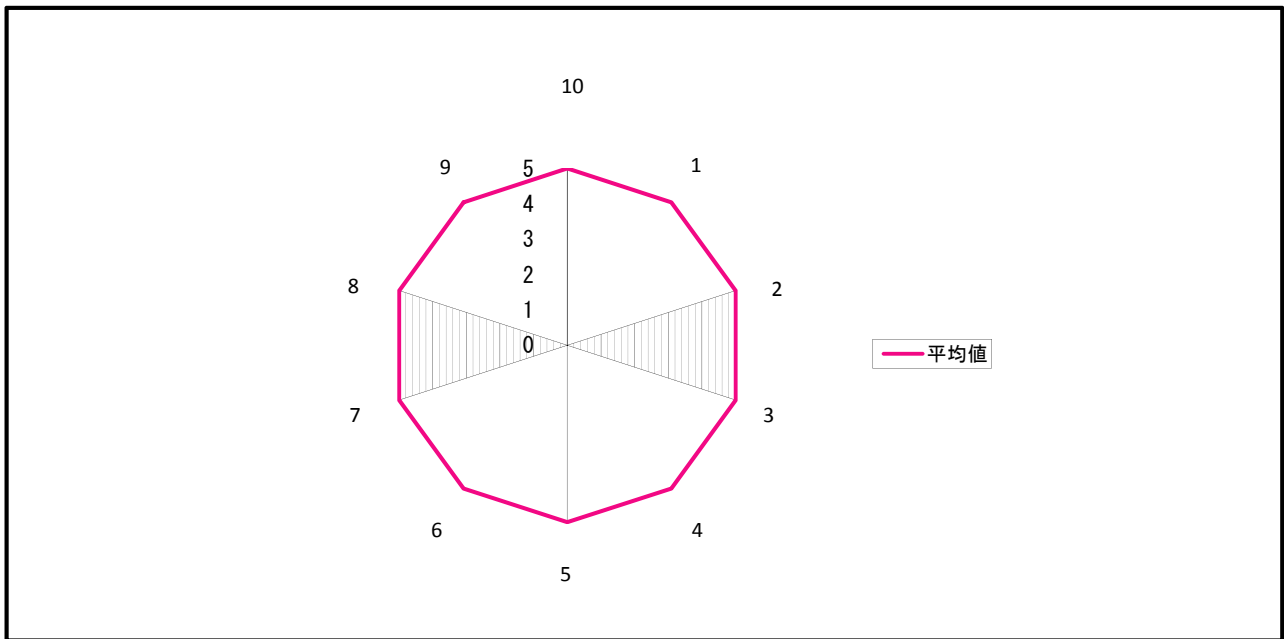
## 教員のコメント

各専門分野に関する様々な専門知識や最近のトピックスを取り扱うとともに、学校現場において応用可能な実験や実習を実施した。製作作業や実習を交えた授業であったため、受講生は興味を持って授業に臨んでいたように思う。家庭科の目標である”日常生活における実践につなげる”教材のあり方については、さらに検討を進めてゆきたい。授業評価から、本科目の目的・目標は概ね達せられたものと考えられる。

# 結果報告書

授業科目名 国際教育演習 I  
 評価実施日 平成29年2月16日  
 担当教員名 石村 雅雄,近森 憲助,小澤 大成,石坂 広樹 回答者数 3 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	3					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	3					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3					5.0



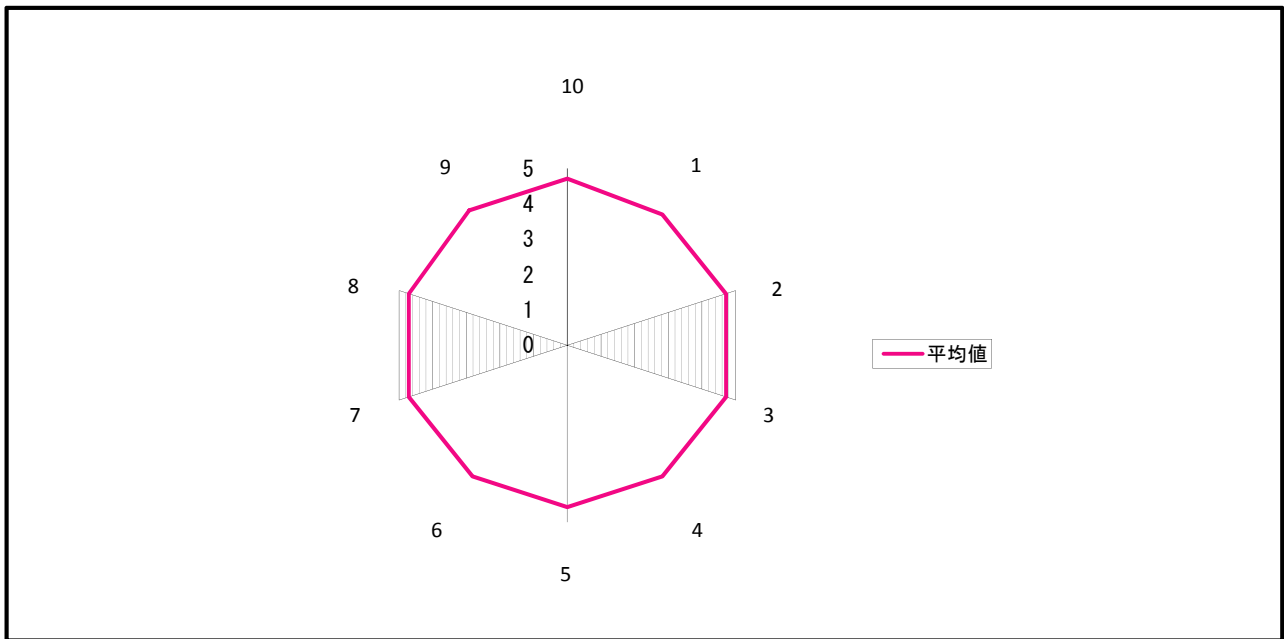
## 教員のコメント



# 結果報告書

授業科目名 国際教育演習Ⅱ  
 評価実施日 平成29年2月13日  
 担当教員名 石坂 広樹,石村 雅雄,近森 憲助,小澤 大成 回答者数 7 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	5	1	1				4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5	2					4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	2					4.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	5	1	1				4.6
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	4	3					4.6
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4	3					4.6
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	5	2					4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	5	2					4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	2					4.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	5	2					4.7



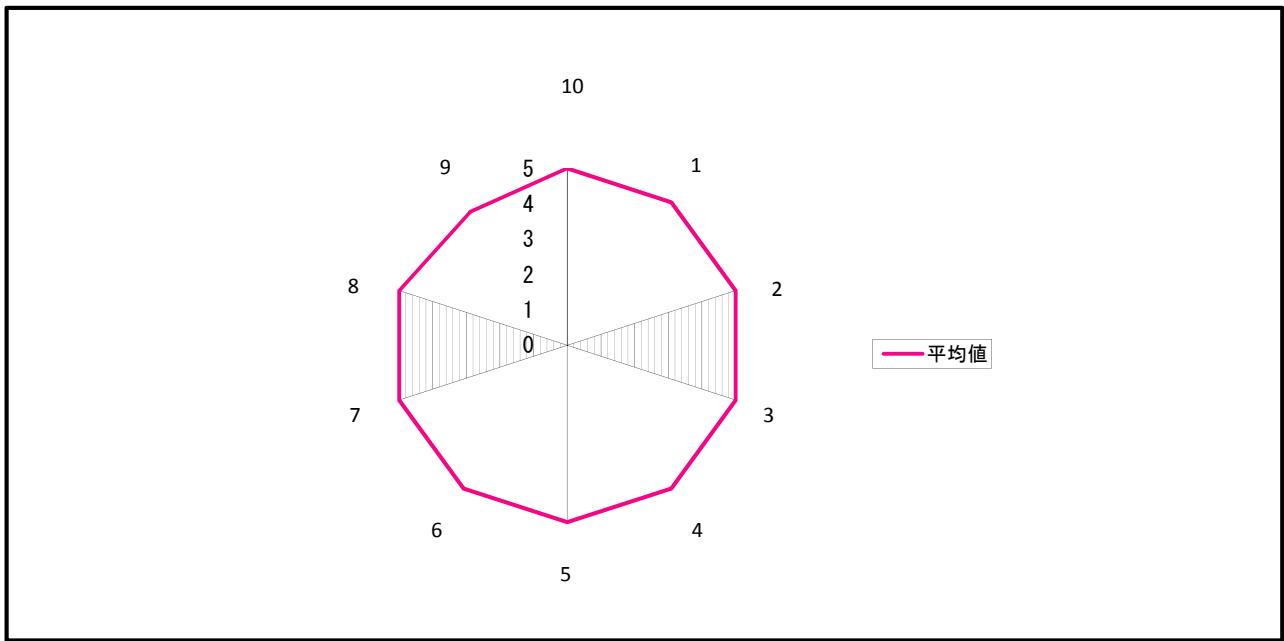
## 教員のコメント

おおむね、全体の評価が高いのは、きめ細かい指導を行った成果だったと思われる。  
 他方、授業の概要説明と成績評価の方法については今後丁寧に説明していきたいと考えている。

# 結果報告書

授業科目名 国際教育協力特論Ⅱ  
 評価実施日 平成29年2月13日  
 担当教員名 小澤 大成,近森 憲助      回答者数 3 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	3					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	3					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	1				4.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3					5.0



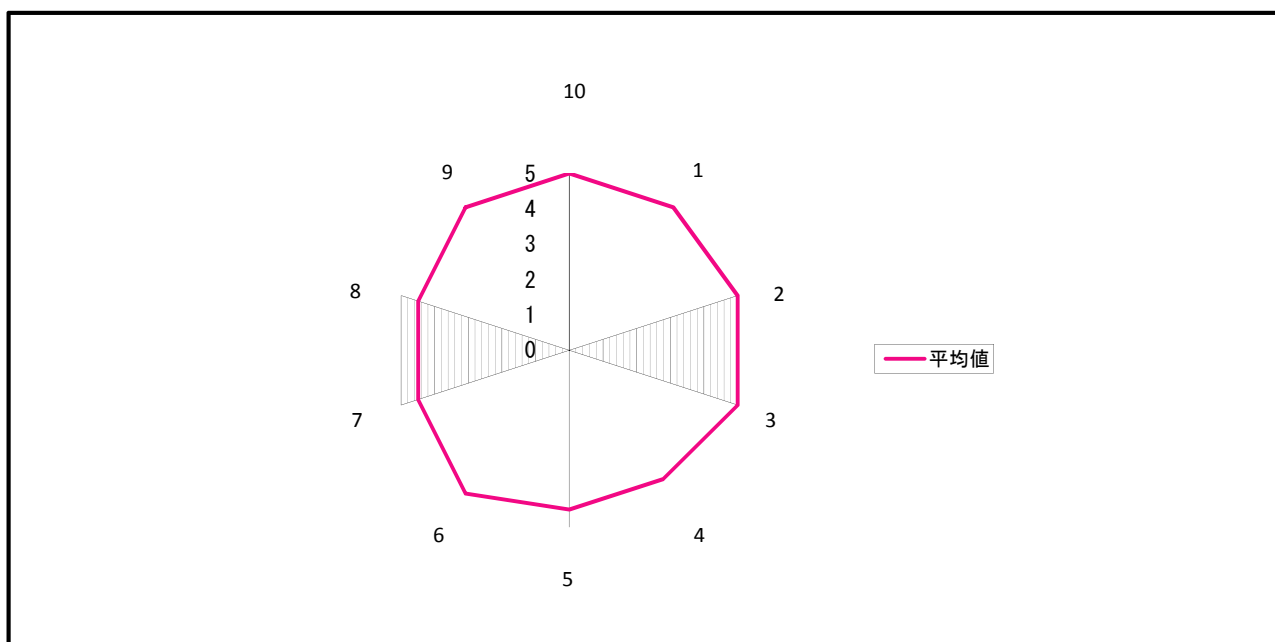
## 教員のコメント

授業研究を開発途上国の文脈に即して体験的に学ぶことを通じて、途上国での授業改善にとって必要な手法を理解することが目的の講義である。評価参加者3人の総合評価は5.0であり授業に満足していることがわかる。「実際の授業の動画から具体的な事例を基に授業分析することができた」「途上国の教授法や教科内容について課題を見出した」「いろいろな国の教授アプローチを学べた」ことを好意的に捉えている。今後も同様の授業を展開していきたい。

# 結果報告書

授業科目名 外国語運用能力強化演習Ⅱ  
 評価実施日 平成29年2月13日  
 担当教員名 石村 雅雄,石坂 広樹      回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	1	1				4.5
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	1	1				4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	1	1				4.5
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1	1				4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2					5.0

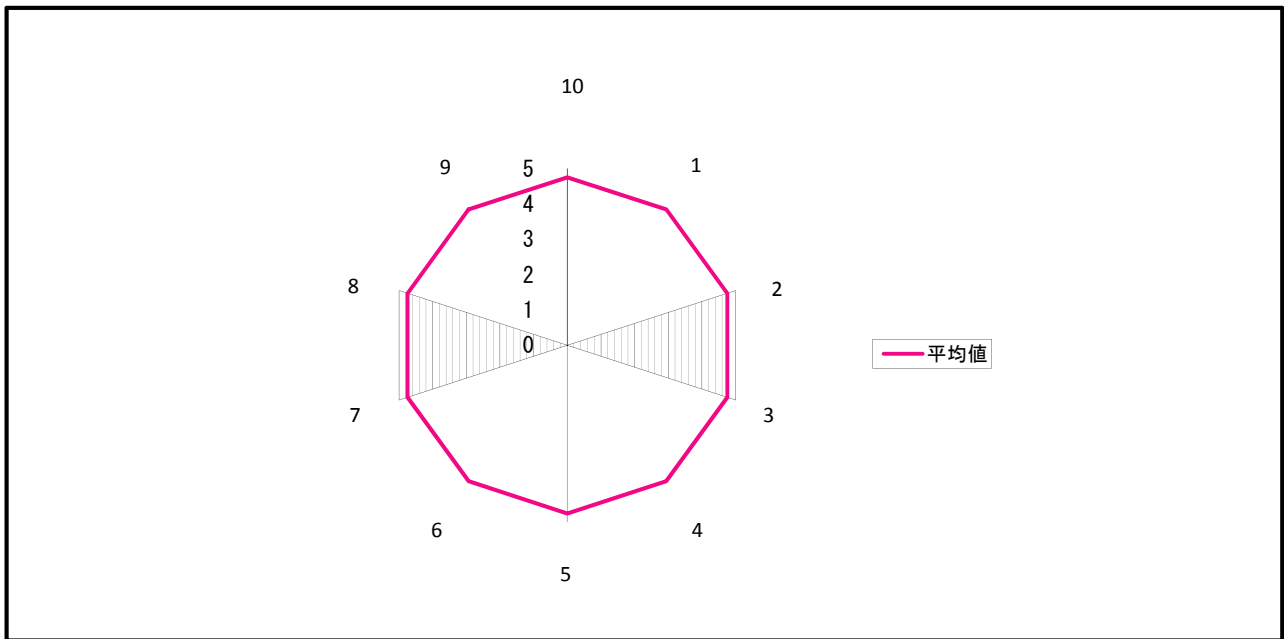


教員のコメント

# 結果報告書

授業科目名 国際理解教育特論Ⅱ  
 評価実施日 平成29年2月13日  
 担当教員名 小澤 大成,近森 憲助      回答者数 4 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3	1				4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	1				4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	1				4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3	1				4.8
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	3	1				4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3	1				4.8
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	3	1				4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3	1				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	1				4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3	1				4.8



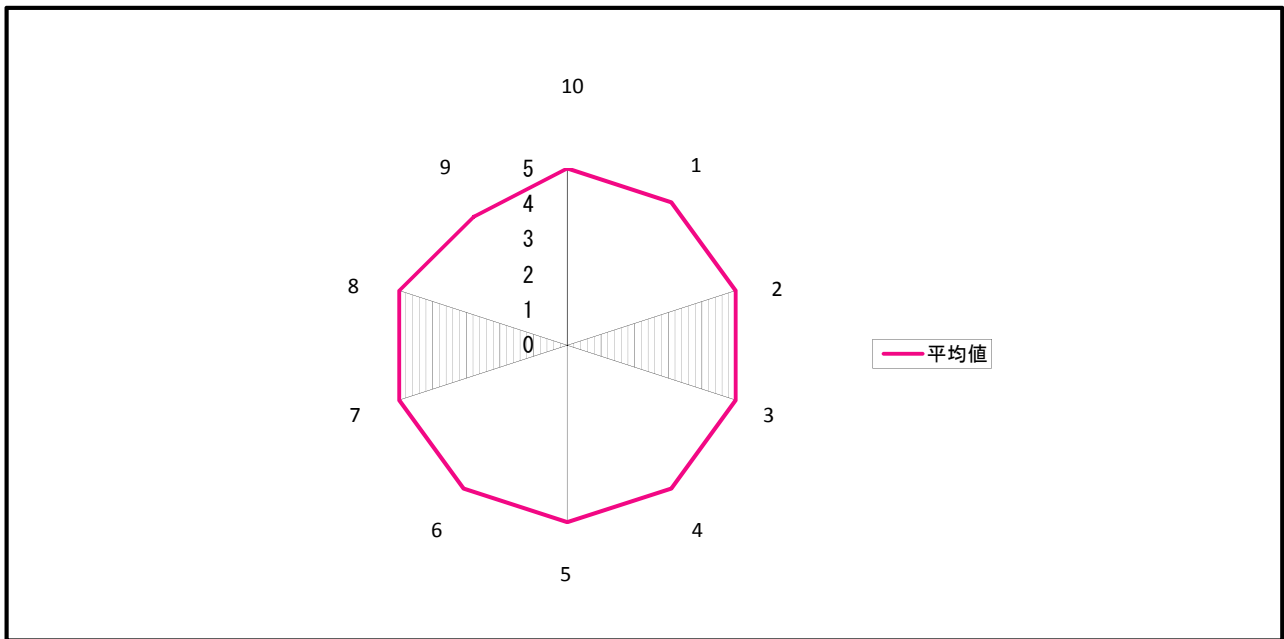
## 教員のコメント

総合評価4.8(3名が5, 1名が4)とまずまずの評価であった。「授業の内容は国際とつながっている」「学生の発言を否定せず授業の狙いにつなげた」「いろいろなアフリカについての知識を得ることができた」ことを好意的に捉えている。評価が4の評価者はすべての項目で4であったが、具体的な提言はなかった。引き続き学生の意見を取り入れながら授業を進めていきたい。

# 結果報告書

授業科目名 国際理解教育演習  
 評価実施日 平成29年2月13日  
 担当教員名 小澤 大成,近森 憲助      回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	2					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	1				4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2					5.0



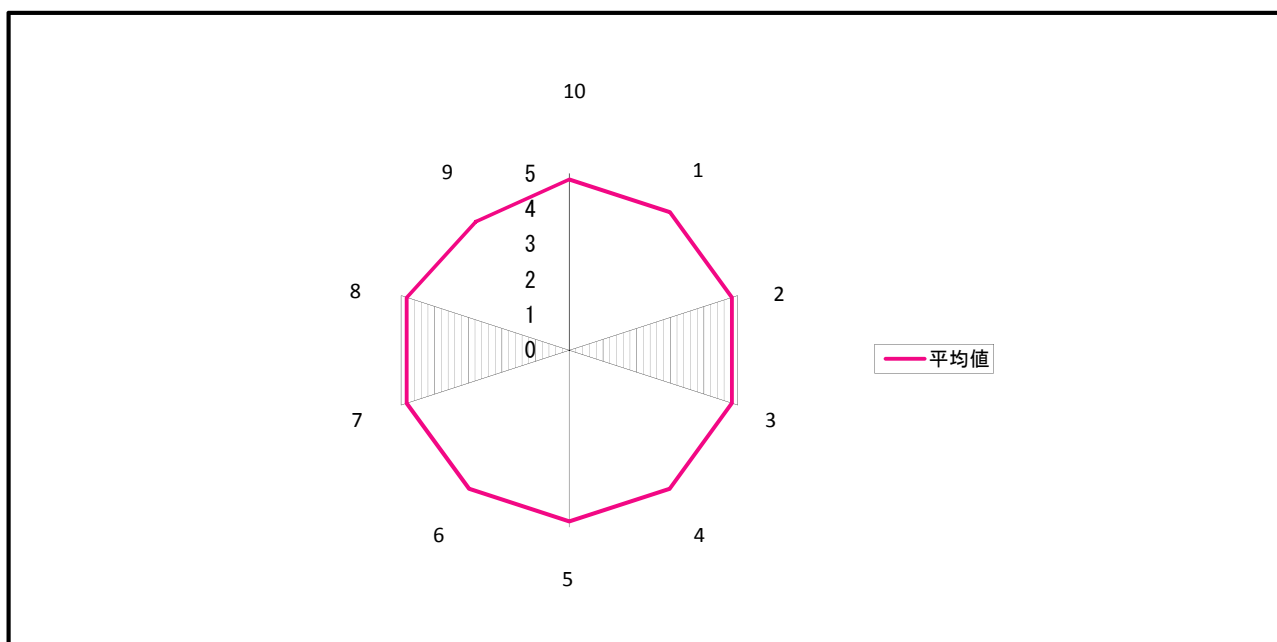
## 教員のコメント

この授業は演習形式であり、良かった点として「授業で使うことを前提として教材を作ったこと」というコメントがあった。総合評価も5.0と高く、本年度も参加型の形式で進行しようと考えている。

# 結果報告書

授業科目名 国際教育総合セミナーⅡ  
 評価実施日 平成29年2月14日  
 担当教員名 石村 雅雄,近森 憲助,小澤 大成,石坂 広樹 回答者数 6 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	5	1				4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5	1				4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	1				4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	5	1				4.8
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	5	1				4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5	1				4.8
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	5	1				4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	5	1				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	1	1			4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	5	1				4.8



教員のコメント